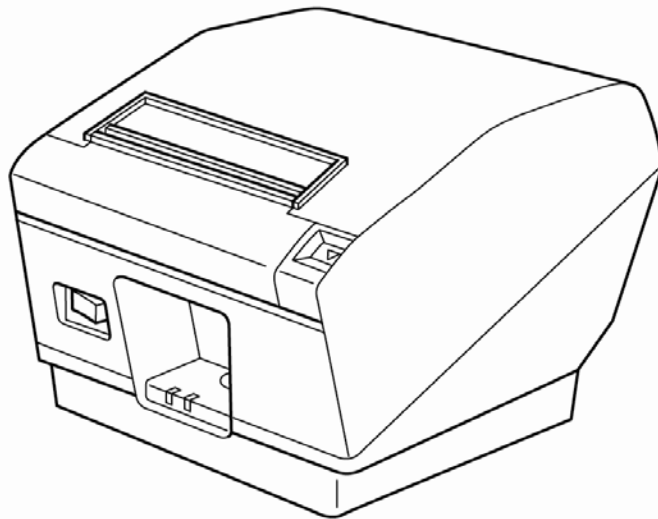


Thermal Printer
TSP700II
Software Manual



目 次

1. インストール／アンインストール.....	1
1.1 インストール.....	1
1.1.1 USBインターフェイスの場合.....	7
1.1.2 USB以外のインターフェイスの場合.....	8
1.2 アンインストール.....	13
2. 特長.....	14
2.1 Star 設定ユーティリティ.....	14
2.2 Star Value Add 設定ツール.....	14
2.3 OPOS Driver.....	14
2.4 JavaPOS Driver.....	15
2.5 仮想ポートエミュレータ.....	15
3. Windows 2000/XP Printer Driverの設定.....	16
3.1 各機能の設定.....	17
3.1.1 印刷モードの設定.....	18
3.1.2 用紙タイプの設定.....	19
3.1.3 電源投入時のブラックマーク位置検出の設定.....	20
3.1.4 頭出し機能の設定.....	21
3.1.5 ページカット動作の設定.....	22
3.1.6 文書カット動作の設定.....	23
3.1.7 印字速度の設定.....	24
3.1.8 印字濃度の設定.....	25
3.1.9 180度反転印字（縦置きモード）の設定.....	26
3.1.10 キャッシュドロワ1ーパルス幅の設定.....	27
3.1.11 キャッシュドロワ1の動作設定.....	28
3.1.12 キャッシュドロワ2の動作設定.....	29
3.1.13 文書先頭ロゴの設定.....	30
3.1.14 ページ先頭ロゴの設定.....	32
3.1.15 ページ末尾ロゴの設定.....	33
3.1.16 文書末尾ロゴの設定.....	34
3.1.17 印字品質の設定.....	35
3.2 用紙サイズの設定.....	37
3.2.1 標準用紙サイズ.....	37
3.2.2 ユーザー定義による用紙サイズ.....	39
3.3 デバイスフォント.....	40
3.4 Controlフォント.....	42
3.4.1 Controlフォント機能一覧.....	42
3.4.2 Controlフォントの使用方法.....	44

3.5	バーコード印刷機能.....	46
3.5.1	バーコードフォント一覧.....	46
3.5.2	バーコードフォントの入力.....	47
3.5.3	バーコードフォント使用方法.....	49
3.6	二次元コード印刷機能（二次元コードフォント）.....	51
3.6.1	二次元コードコマンド設定フォント.....	52
3.6.2	二次元コードデータ設定フォント（DATA1、DATA2、DATA3、ESC_FONT）.....	54
3.6.3	二次元コードフォント使用方法.....	57
3.7	印刷色の設定.....	62
4.	Windows 2000/XP “Star 設定ユーティリティ”.....	64
4.1	プリンタ設定.....	66
4.1.1	メモリスイッチ設定.....	67
4.1.2	NVロゴ.....	69
4.1.3	プリンタテスト.....	72
4.1.4	イーサネット I/Fセットアップ.....	74
4.2	アプリケーション設定.....	80
4.2.1	OPOS.....	81
4.2.2	JavaPOS.....	85
4.2.3	仮想ポートエミュレータ.....	90
4.3	共通データ.....	94
4.3.1	グラフィックデータ.....	95
5.	Star Value Add設定ツール.....	100
5.1	メニュー機能.....	101
5.1.1	ファイル.....	101
5.1.2	表示.....	104
5.1.3	ヘルプ.....	105
5.2	インフォメーション.....	106
5.2.1	プリンタドライバキュー名.....	106
5.2.2	エミュレーション.....	106
5.2.3	ファイルパス.....	107
5.3	ロゴ.....	108
5.3.1	ヘッダーロゴリスト.....	109
5.3.2	フッターロゴリスト.....	110
5.3.3	リストからのデータ削除.....	111
5.4	文字列拡張機能.....	112
5.4.1	設定.....	113
5.4.2	キーワードの削除.....	117
5.5	180度反転印字.....	118
5.6	ページ終端コマンド.....	119
5.6.1	連続改行.....	120
5.6.2	カット動作・ティアバーまで紙送り.....	120
5.6.3	FFページ.....	120

5.7	グラフィックデータ.....	121
5.7.1	グラフィックデータの追加.....	122
5.7.2	グラフィックデータの編集.....	123
5.7.3	グラフィックデータの削除.....	123
6.	ドキュメントを印刷する時のガイドライン.....	124
6.1	Microsoft Wordを使用される際のご注意.....	124
6.2	制限事項と注意していただきたいこと.....	125
7.	改訂履歴.....	126

1. インストール／アンインストール

1.1 インストール

本ドライバは、Windows2000/XP に対応しています。

Windows2000/XP にてプリンタをお使いいただくためには、事前に本ドライバのインストールが必要です。

以下の手順に従って、ドライバをインストールしてください。

注記： ご使用のインターフェイスが USB の場合、手順の①～⑧は、プリンタを接続する前に行ってください。

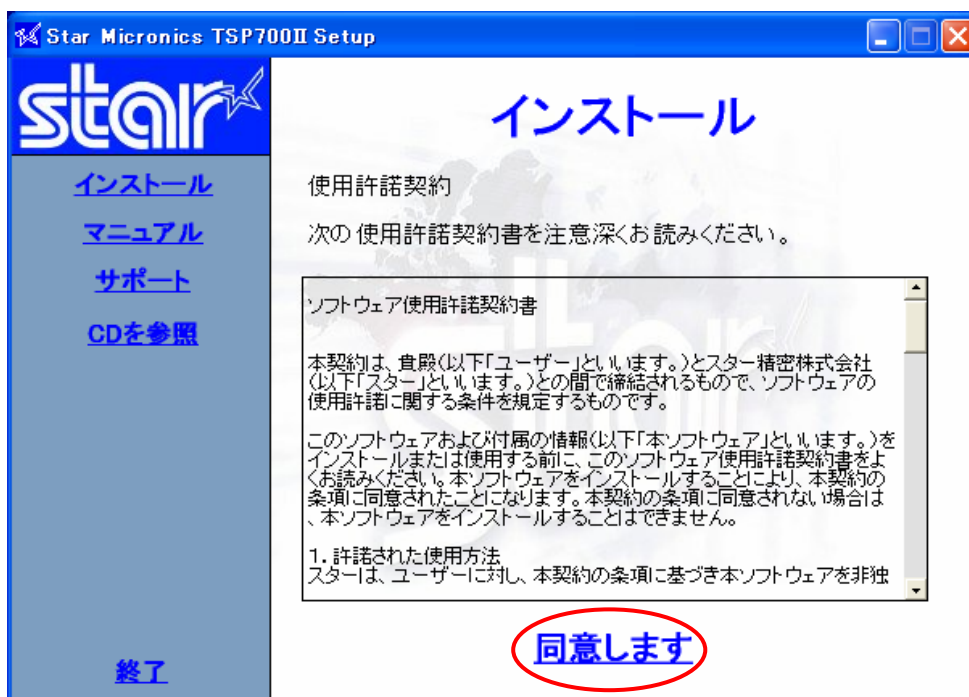
- ① プリンタに添付されているプリンタドライバ・ユーティリティのCD-ROMをコンピュータにセットしてください。

オートランによって、下記の画面が表示されます。

メニューより「インストール」をクリックします。



- ② 「同意します」をクリックします。



下記の画面が表示され、インストールの準備に入ります。

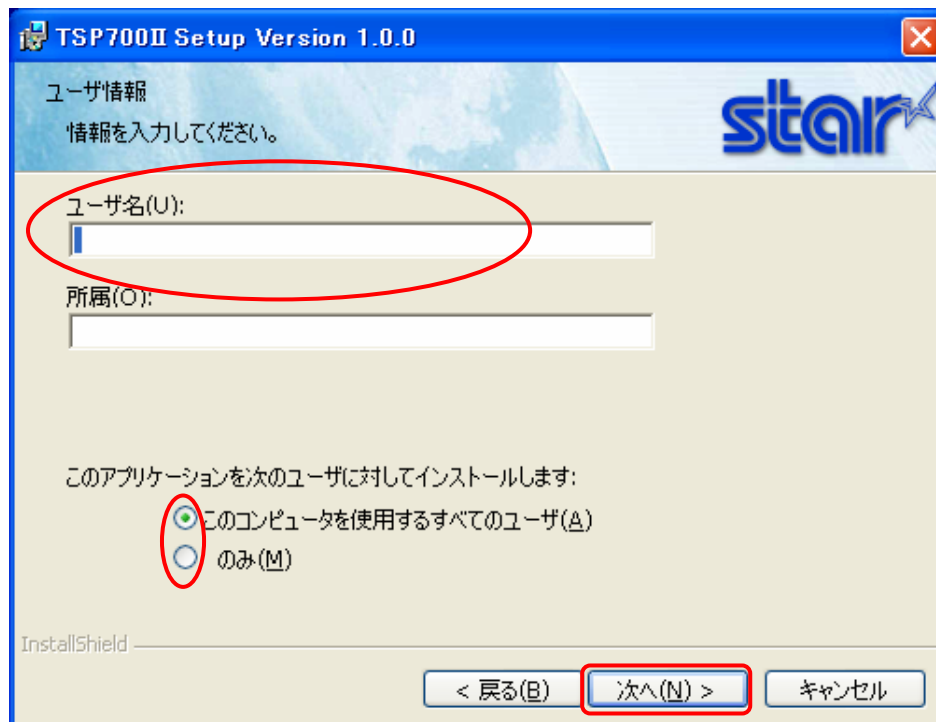


- ③ [次へ(N) >] ボタンをクリックします。



- ④ ユーザー情報を入力します。

ユーザー名と所属を入力し、インストールを適用するユーザーを選択後、[次へ(N) >] ボタンをクリックします。

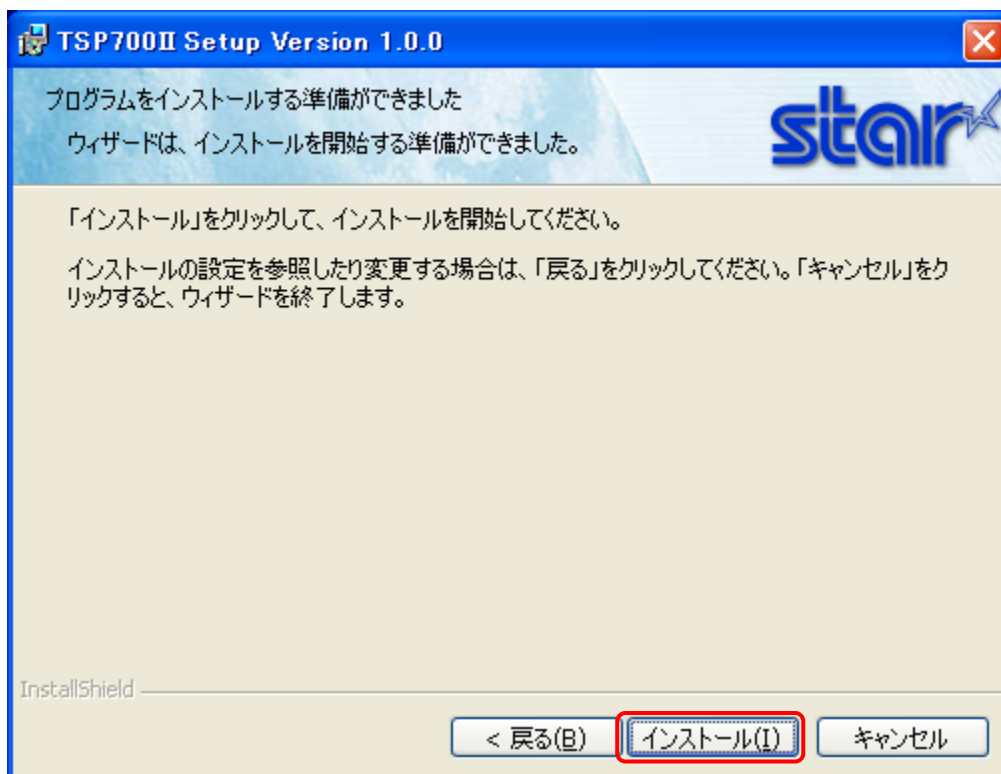


⑤ セットアップタイプを選択します。

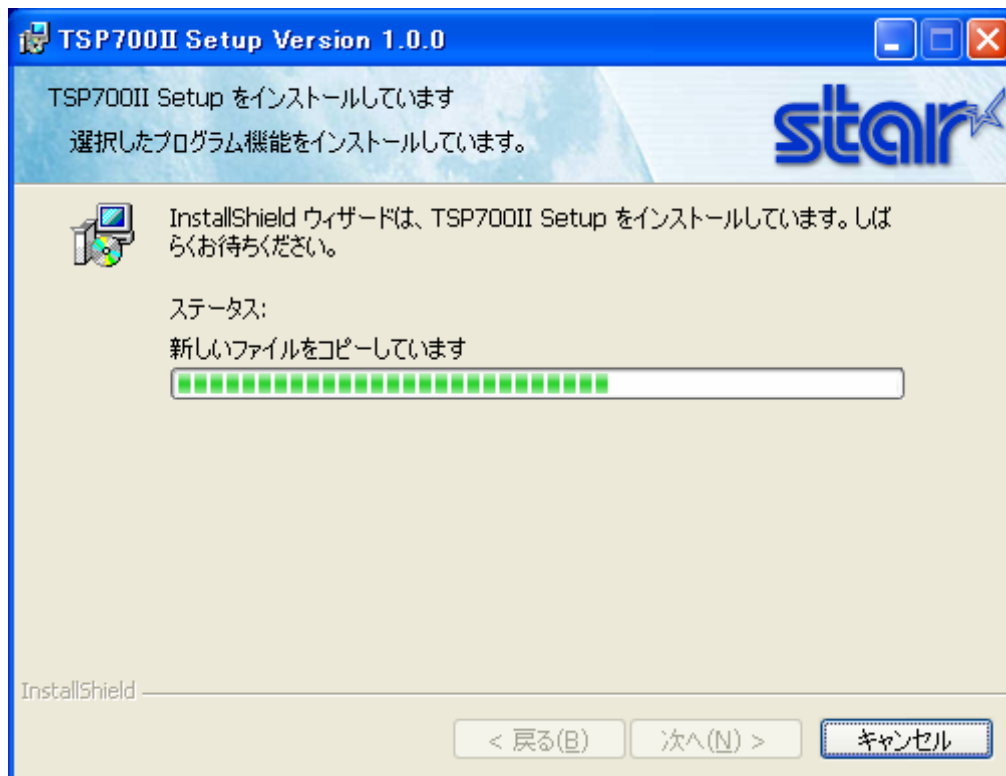
全てのプログラム機能をインストールするために、「すべて(C)」を選択し、[次へ(N) >] ボタンをクリックします。



⑥ インストールを開始するために、[インストール(I)] ボタンをクリックします。



プログラム機能がインストールされます。



⑦ インストールが完了しました。

[完了(E)]ボタンをクリックしてウィザードを閉じます。



- ⑧ 「終了」をクリックして下記の画面を閉じます。



- ⑨ プリンタにロール紙をセットし、コンピュータと接続します。

メモ ロール紙のセット手順およびコンピュータとの接続手順の詳細はプリンタのハードウェアマニュアルを参照してください。

ハードウェアマニュアルは、オートランメニューの「マニュアル」をクリックしますと一覧が表示されますので、「ハードウェアマニュアル」をクリックして、ご参照ください。

注記：これ以降のインストールは、接続しているインターフェイスによって手順が異なります。ご使用のインターフェイスに合った手順でインストール操作を続けてください。

1.1.1 USB インターフェイスの場合（7 ページ～）

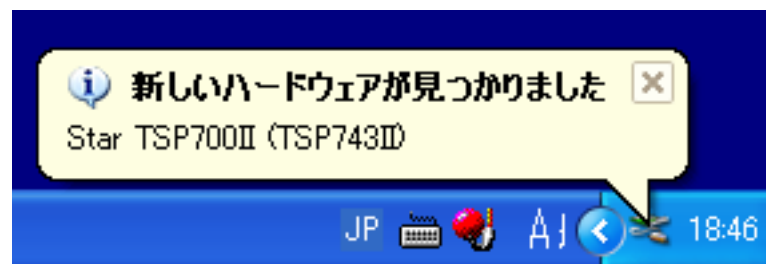
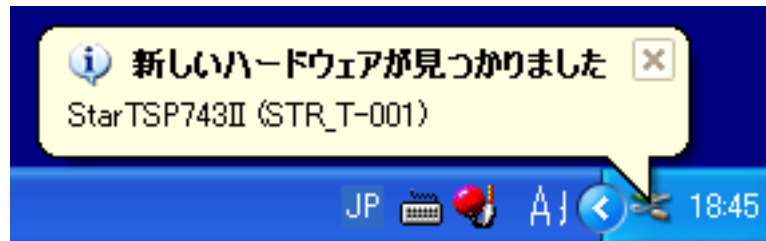
1.1.2 USB 以外のインターフェイスの場合（8 ページ～）

1.1.1 USB インターフェイスの場合

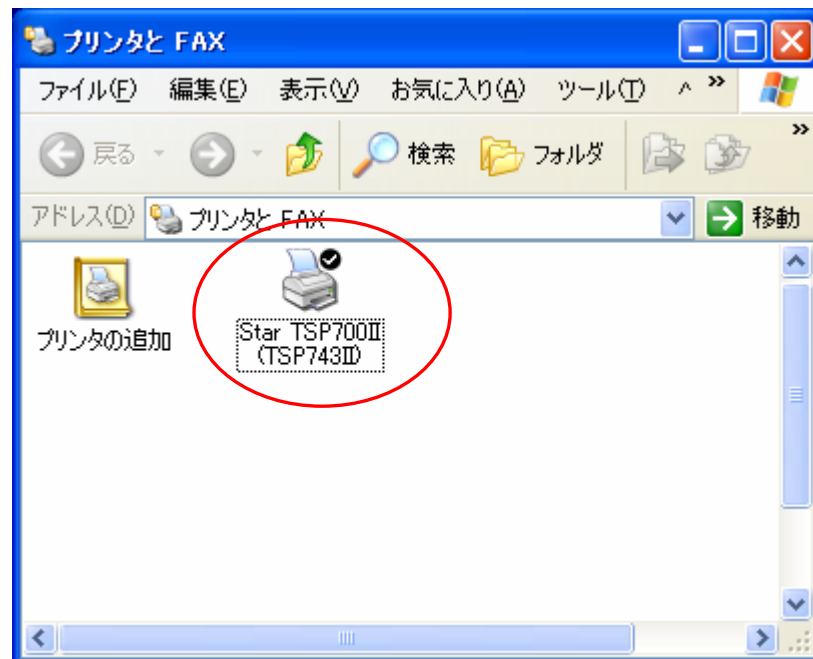
- ① プリンタの電源スイッチをONにして電源を投入します。

“プラグアンドプレイ”によって、コンピュータが新しいハードウェアを検出し、自動的にプリンタドライバのインストールを行います。

この時、Windows 画面の右下には下記のような表示がされます。



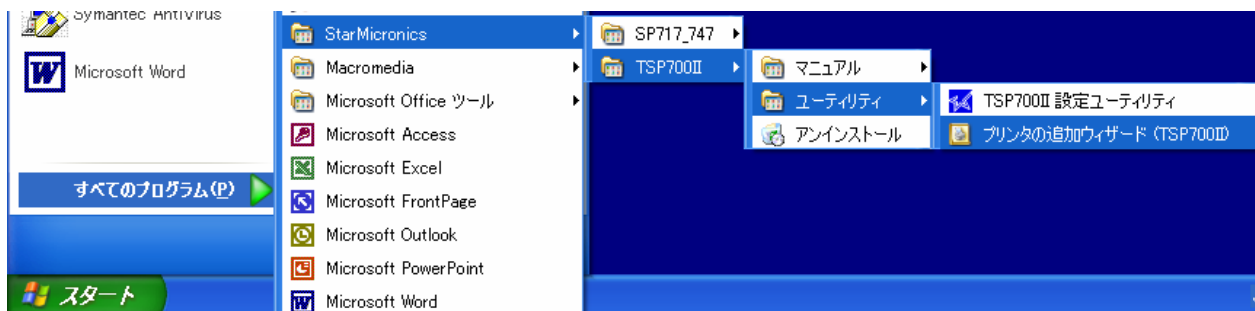
- ② Windows のスタートメニューから「プリンタと F A X」を選択して、開いたフォルダ内に <Star TSP700 II (TSP743 II)> プリンタの表示があれば、インストールは正しく完了しています。



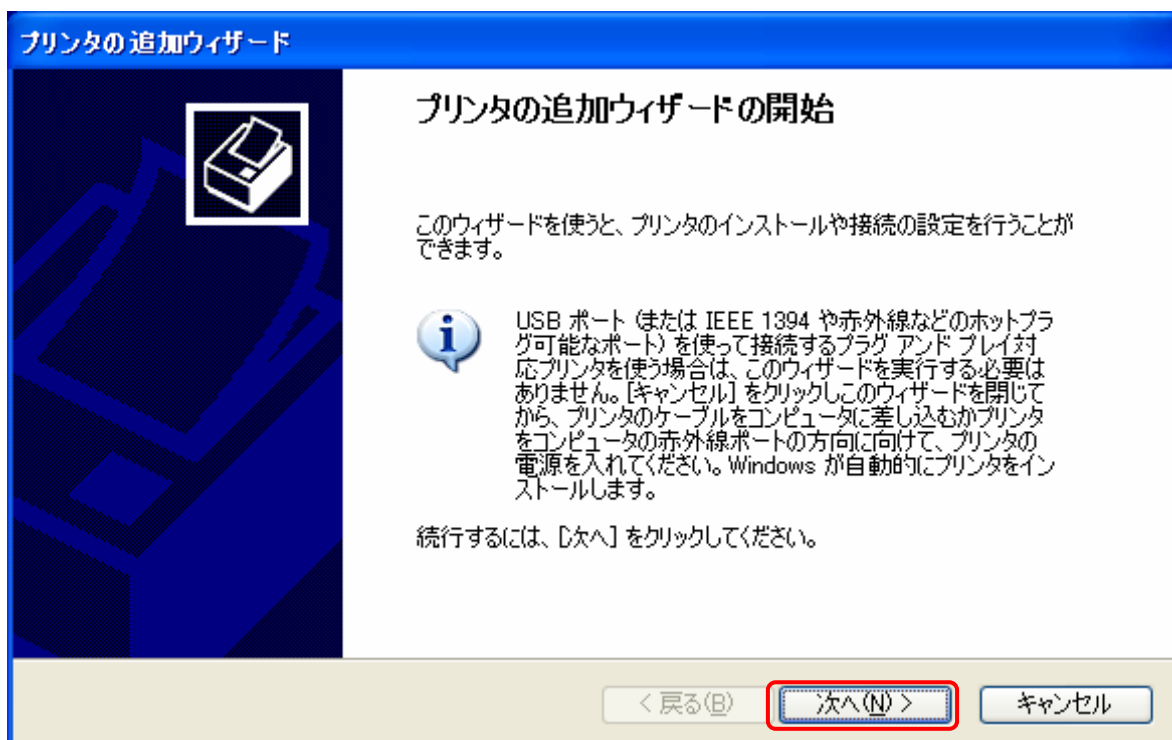
1.1.2 USB 以外のインターフェイスの場合

TCP/IP インターフェイスケーブルを接続してプリンタを使用する場合は、ポートの設定が必要です。

- ① プリンタの電源スイッチをONにして電源を投入します。
- ② Windows のスタートメニューから「すべてのプログラム」－「Star Micronics」－「TSP700 II」－「ユーティリティ」－「プリンタの追加ウィザード(TSP700 II)」を選択します。



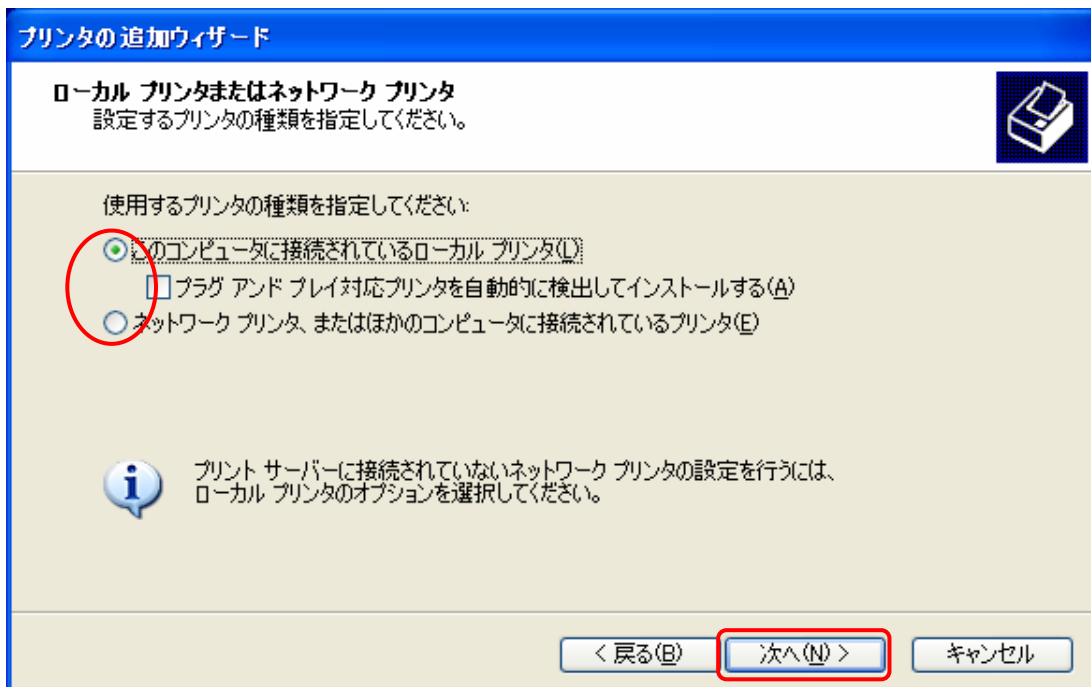
- ③ プリンタの追加ウィザードの画面が表示されますので [次へ(N) >] ボタンをクリックします。



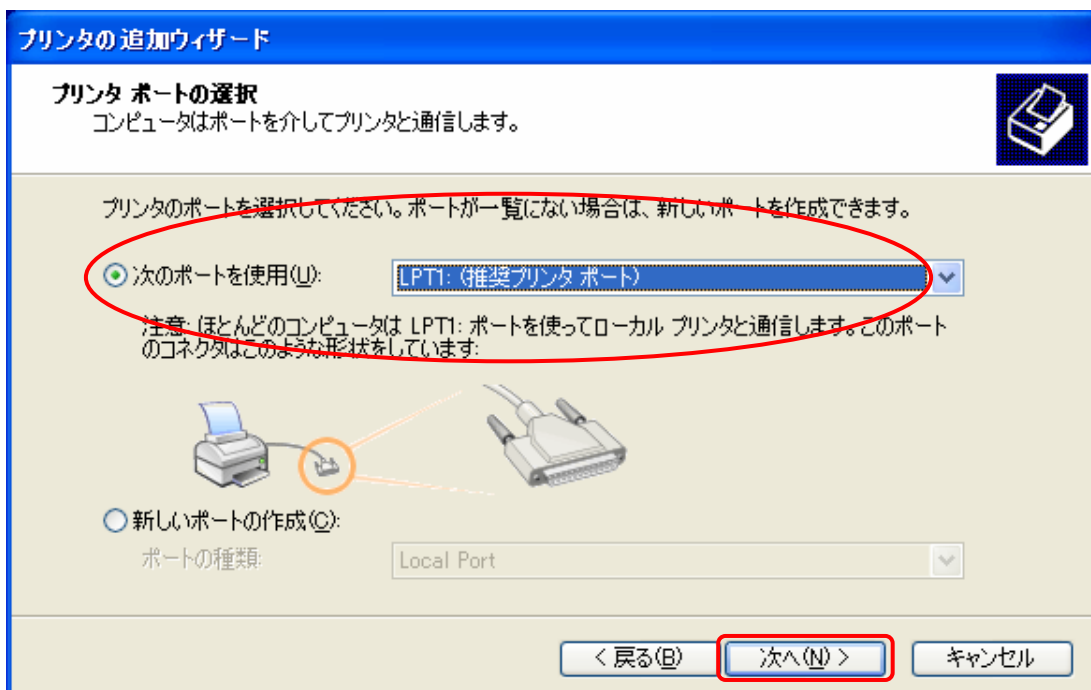
④ 設定するプリンタの種類を指定します。

「このコンピュータに接続されているローカルプリンタ(L)」を選択し、「プラグアンドプレイ対応」がチェックされていた場合はチェックを外します。

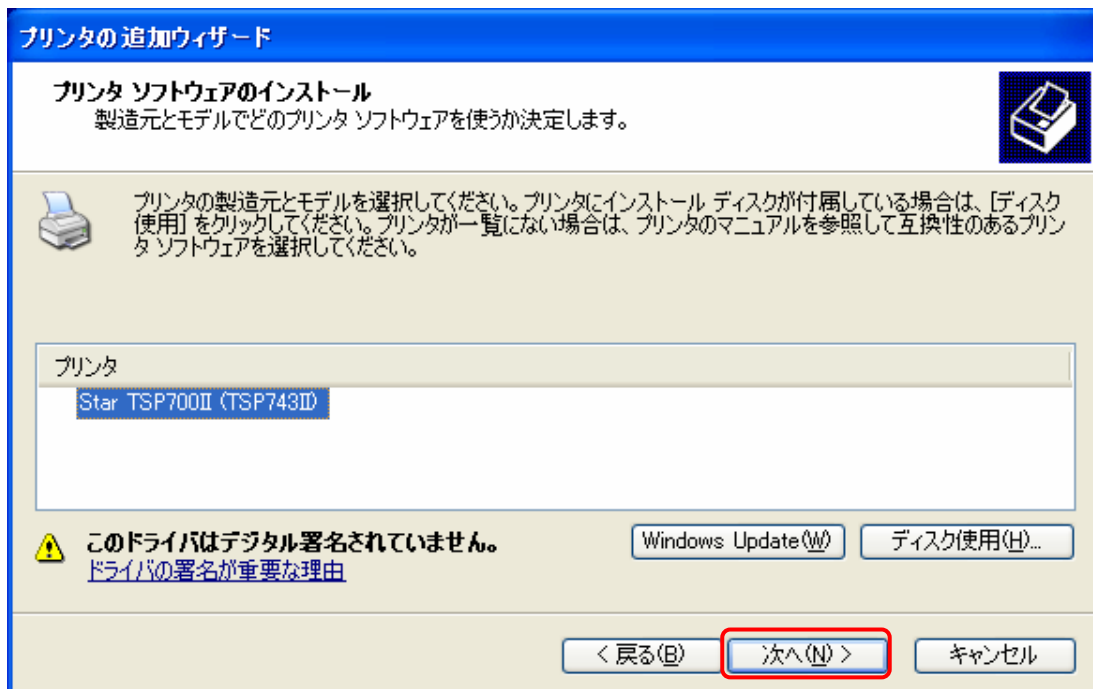
[次へ(N) >] ボタンをクリックします。



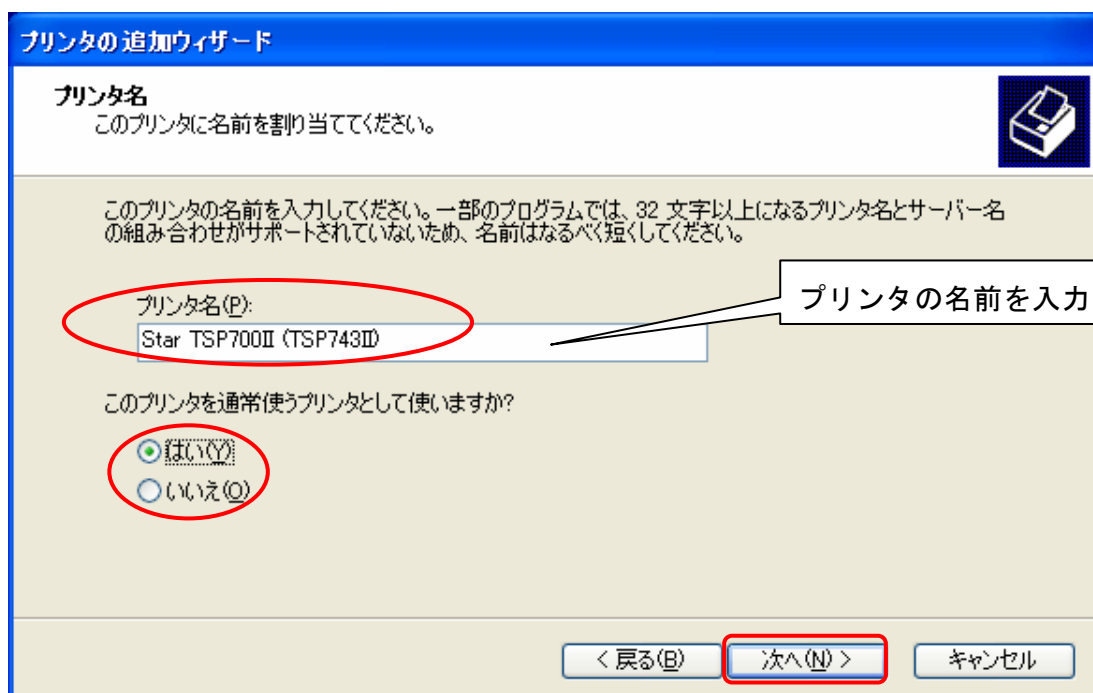
⑤ プリンタポートを選択します。ポートを選択し、[次へ(N) >] ボタンをクリックします。



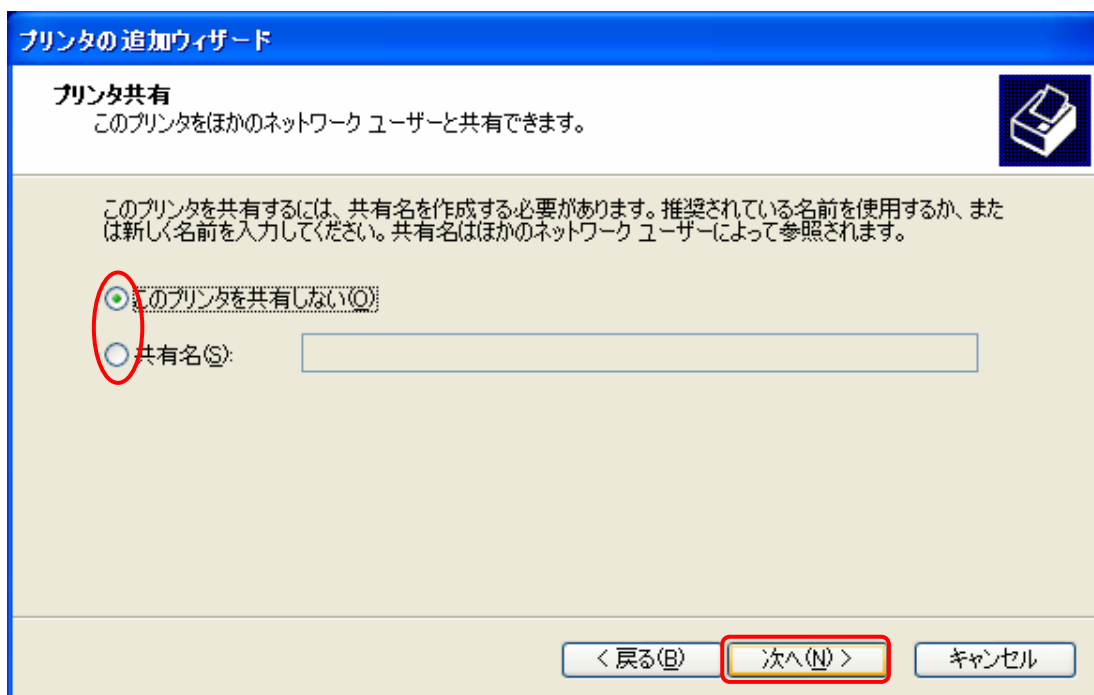
- ⑥ 接続されているプリンタが表示されます。
確認して、[次へ(N) >] ボタンをクリックします。



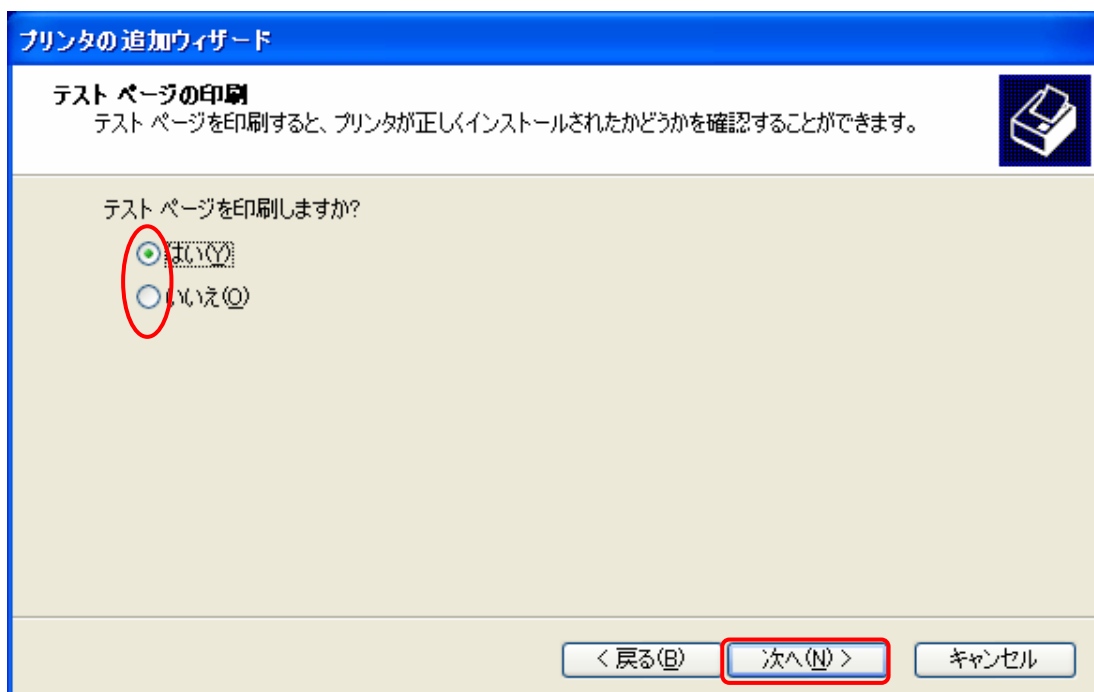
- ⑦ インストール後に「プリンタと F A X」フォルダ内で表示されるアイコンの名前を設定し ます。そのままの場合は[次へ>]ボタンをクリックします。
変更したい場合はプリンタ名を入力し、[次へ>]ボタンをクリックします。
また、この時に現在インストールしているプリンタを通常使用するプリンタとして設定す ることができます。



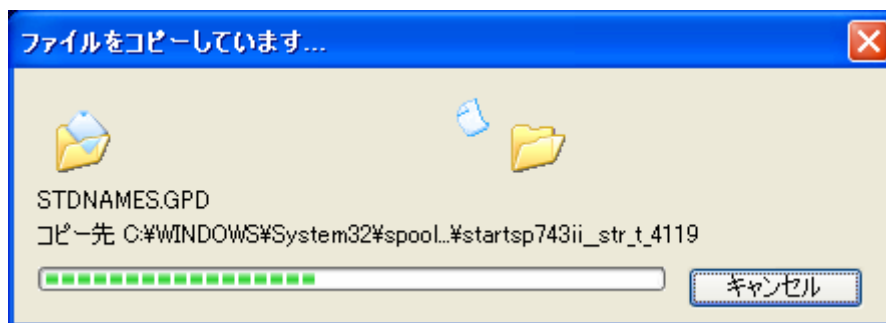
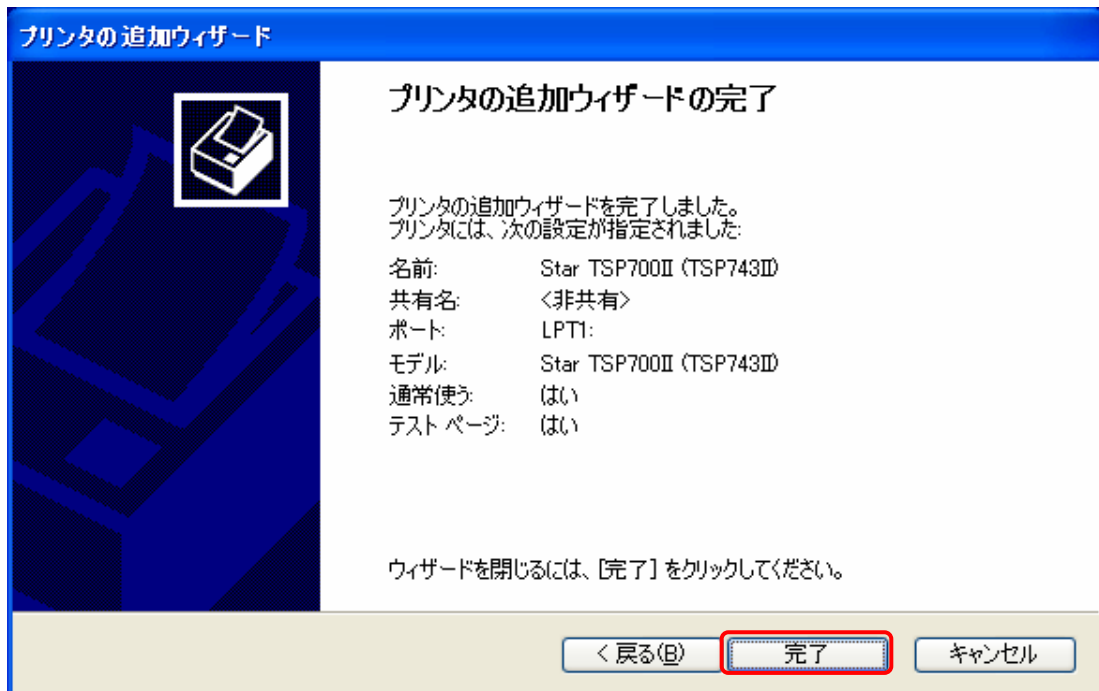
- ⑧ プリンタの共有についての設定を選択し、[次へ(N) >]ボタンをクリックします。



- ⑨ 印字テストを行う場合は「はい」を選択し、印字テストを行わない場合は「いいえ」を選択して[次へ(N) >]ボタンをクリックします。



- ⑩ [完了]ボタンをクリックするとインストールが実行されます。



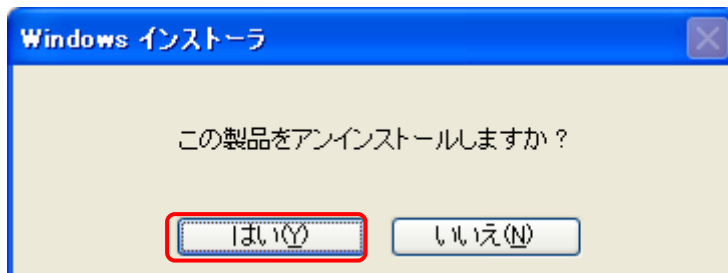
- ⑪ スタートメニューから「プリンタと F A X」を選択し、フォルダ内に<Star TSP700 II (TSP743 II)>プリンタの表示があれば、インストールは正しく完了しています。



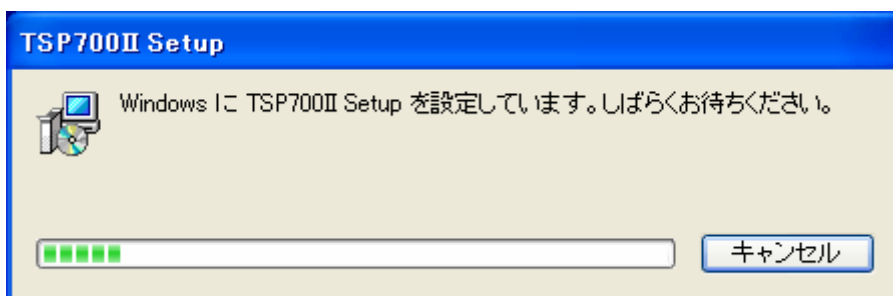
1.2 アンインストール

- ① プリンタの電源スイッチをOFFにして電源を切ります。
- ② Windowsのスタートメニューから「すべてのプログラム」－「Star Micronics」－「TSP700 II」－「アンインストール」を選択し、クリックします。

以下の確認画面が表示されますので、続行する場合は[はい]をクリックします。



- ③ アンインストール用プログラムが起動し、プリンタの全てのソフトウェアを削除します。



2. 特長

2.1 Star 設定ユーティリティ

Star 設定ユーティリティを活用することで、メモリスイッチの設定やNVロゴの登録など印字に関するプリンタの設定を容易にできます。

またイーサネット I/F カード の初期設定も簡単に行うことができます。

ドライバをインストールせずに本ツールのみをインストールしてご利用いただくことも可能です。

注記：この機能は Windows 2000 SP3 以降のみに対応しています。

[ここ](#)をクリックしますと、Star設定ユーティリティの詳細ページに移動します。

2.2 Star Value Add 設定ツール

文字列拡張機能を活用しますと、クーポンの発行やご希望のイメージなどの印刷が簡単に行えます。また、プリンタを縦置きにして使用した際の印刷の向きの変更などもこのツールによって行うことができます。

ロゴや文字列拡張機能で使用するイメージデータの登録および編集はグラフィックデータの機能で行うことができます。グラフィックデータの機能は Star 設定ユーティリティでも同じ操作ができます。

[ここ](#)をクリックしますと、Star Value Add設定ツールの詳細ページに移動します。

2.3 OPOS Driver

OPOS(Open Point of Service)とは、POS 用の周辺機器へ Microsoft Windows を活用した POS システムから容易にアクセスするためのWin32 ベースのアーキテクチャです。

OPOS ドライバの利点は、機器へのデータ出力だけではなく、機器の動作状況についても読み込むことができる点です。また、本ドライバでは、既存の OPOS に準じたあらゆるアプリケーションも使用することが可能です。

本ドライバは、OPOS Ver. 1.8 に準拠しています。

OPOS に関する詳細は別冊の「OPOS マニュアル」をご参照ください。

[ここ](#)をクリックしますと、OPOS Driverの設定に関する説明ページに移動します。

2.4 JavaPOS Driver

JavaPOS (Java for Retail Point of Sale)とは、Java ベースの POS 用周辺機器にアクセスするためのアーキテクチャです。OPOS の利点を生かし、さらにプラットフォームに依存しないという特長をもっています。また、Java の仮想コンピュータにおいては、最小限必要とするシステム構成も低いため、全体のシステムコストを抑えることができます。

既存のあらゆる JavaPOS アプリケーションを使用することも可能です。

本ドライバは、「Java for Retail POS 標準化委員会」の定める JavaPOS の標準 Ver. 1.4 に完全に準拠しています。

[ここ](#)をクリックしますと、JavaPOS Driverの設定に関する説明ページに移動します。

2.5 仮想ポートエミュレータ

シリアルプリンタ専用アプリケーションでも、このソフトウェアを利用することにより、USB I/F やイーサネット I/F を装備したプリンタを使用することができます。

注記：アプリケーションソフトによっては、本機能を利用できない場合もあります。
また、この機能は Windows 2000 SP3 以降のみに対応しています。

[ここ](#)をクリックしますと、仮想ポートエミュレータの設定に関する説明ページに移動します。

3. Windows 2000/XP Printer Driver の設定

プリンタは、“Raster モード” と “Line モード” の2つの印刷モードをサポートしています。

本ドライバのデフォルト印刷モードは“Raster モード”です。

USB インターフェイスを介して印刷する時は“Raster モード”を選択し、シリアルインターフェイスを介して印刷する時は“Line モード”を選択することをお奨めします。

“Raster モード”はグラフィックの高速印刷を実現しますが、デバイスフォントをサポートしていません。シリアルインターフェイスを介して印刷する時、“Raster モード”を選択しますと、印刷が低速になります。

最も高速の印刷は、USB インターフェイスを介し、さらに“Raster モード”を設定した時に可能となります。

“Line モード”はデバイスフォントをサポートしています。

Microsoft Word などのアプリケーションソフトからバーコードと二次元コードを印刷する時に“Line モード”を選択します。バーコードまたは二次元コードを印刷する際には、専用のデバイスフォントを使用します。（詳細は「3.5 バーコード印刷機能」「3.6 二次元コード印刷機能」を参照してください）

本ドライバには、印刷に関する様々な機能があります。

機 能	Raster モード	Line モード
用紙タイプ	○	○
電源投入時のブラックマーク位置検出	○	○
頭出し機能	○	×
ページカット動作	○	○
文書カット動作	○	○
印字速度	○	○
印字濃度	○	○
180度反転印字（縦置きモード）	○	×
キャッシュドロー1ーパルス幅	○	○
キャッシュドロー1	○	○
キャッシュドロー2	○	○
文書先頭ロゴ	×	○
ページ先頭ロゴ	×	○
ページ末尾ロゴ	×	○
文書末尾ロゴ	×	○

○：設定可能， ×：設定不可能

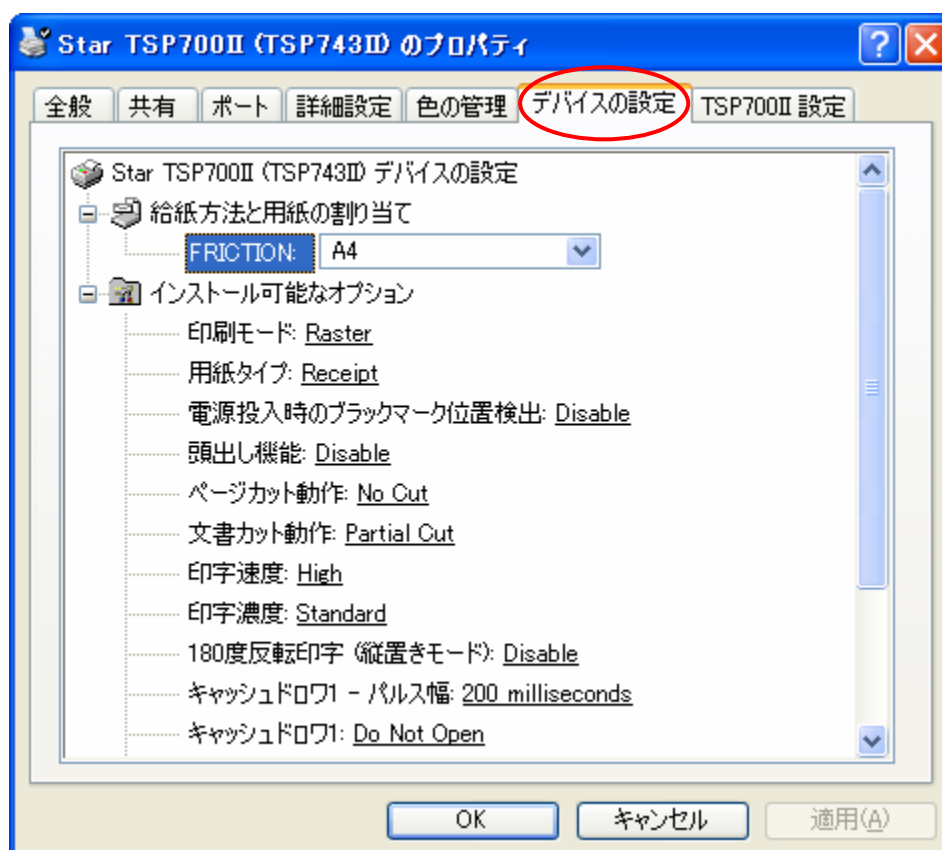
3.1 項以降を参照し、各種設定を行ってください。

3.1 各機能の設定

プリンタのプロパティで本ドライバの各種機能を設定することができます。

まず、以下の手順にてプロパティを開きます。

- ① Windows のスタートメニューから「プリンタと F A X」を選択し、「プリンタと F A X」のフォルダを開きます。
- ② 「Star TSP700 II (TSP743 II)」の表示を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- ③ プロパティ画面が開きますので「デバイスの設定」タブをクリックします。



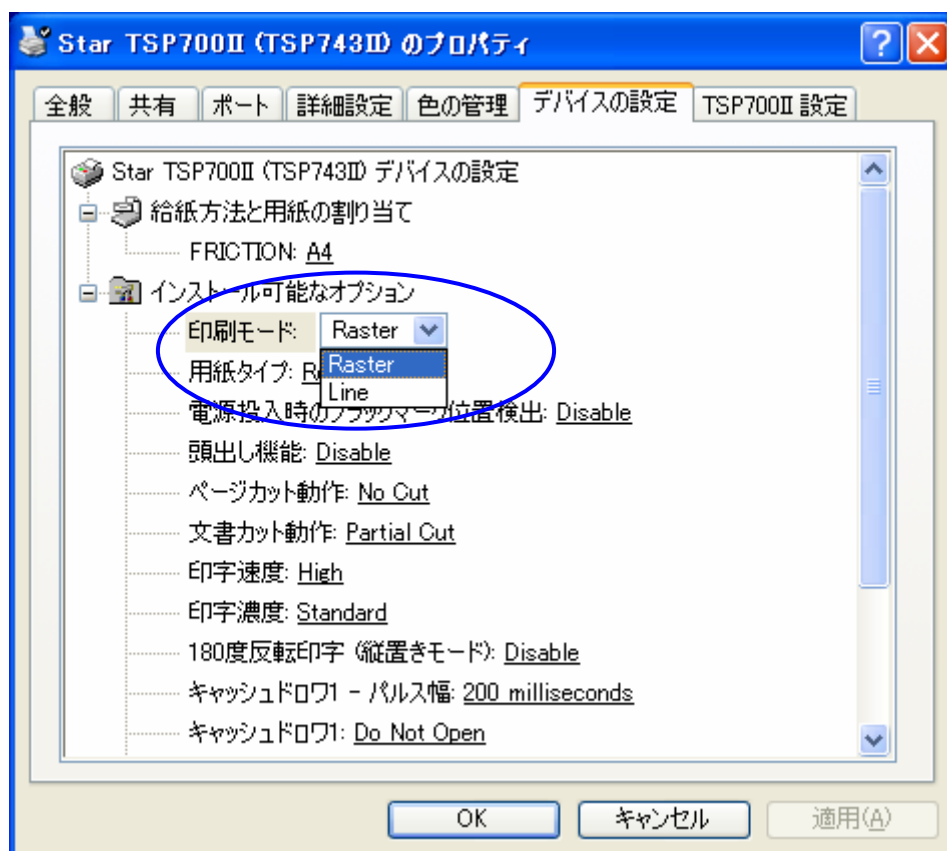
3.1.1 印刷モードの設定

印刷モードの設定をします。各モードの詳細については 16 ページをご参照ください。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
Raster	○	Raster モードに設定します。
Line		Line モードに設定します。

印刷モードの設定画面



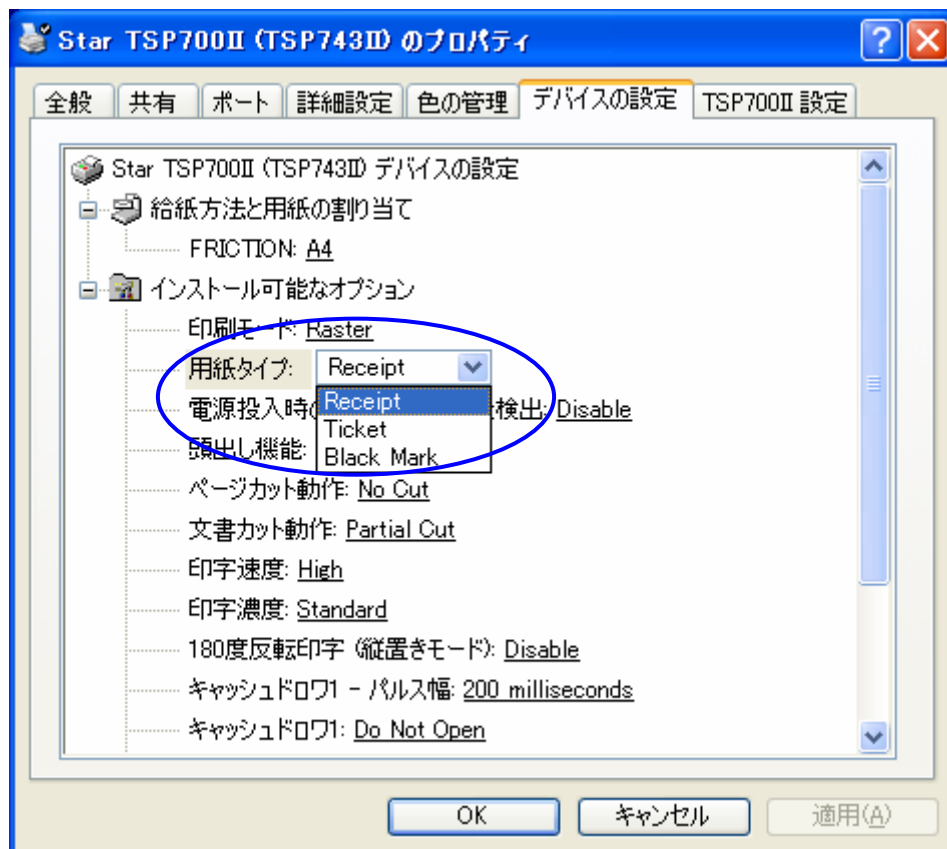
3.1.2 用紙タイプの設定

必要に応じて用紙タイプの設定を変更できます。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
Receipt	○	可変長制御：ページ終端までの余白データは出力しません。
Ticket		固定長制御：ページ終端までの余白データを余白として出力します。
Black Mark		固定長制御：次のブラックマークまでの余白データを余白として出力します。

用紙タイプの設定画面



3.1.3 電源投入時のブラックマーク位置検出の設定

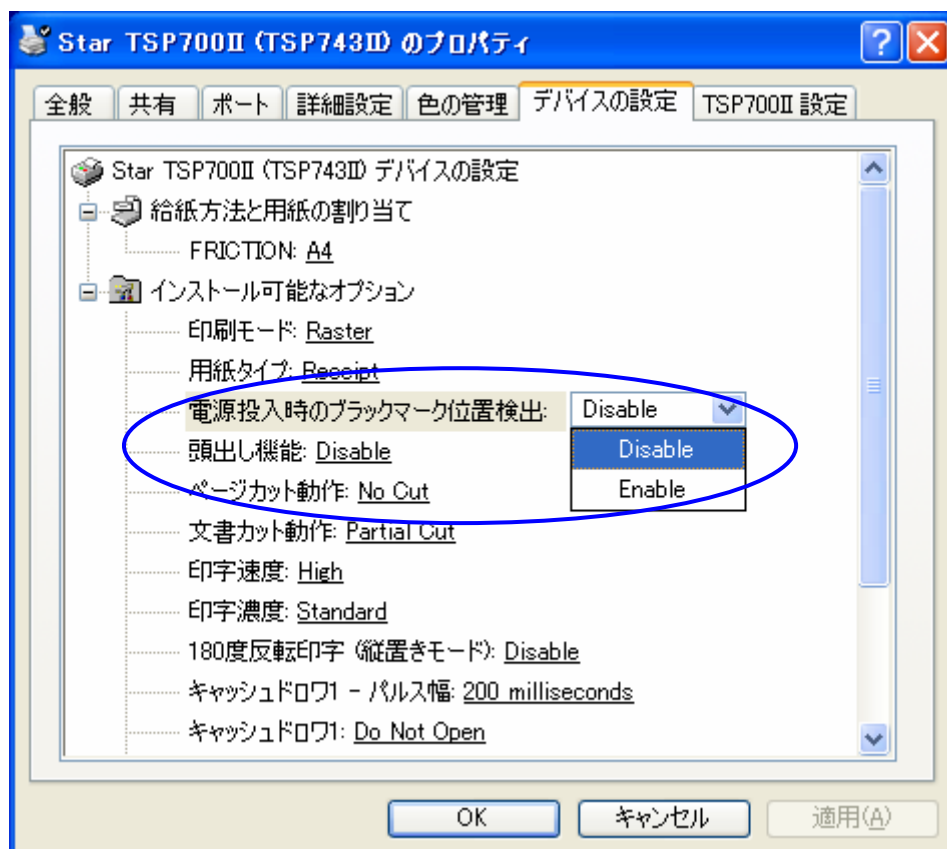
この機能が「Enable」に設定されている場合、電源投入時にブラックマークの位置を検出します。

注記：この機能は、用紙タイプが“Receipt”または“Ticket”に設定されている時は無効です。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
Disable	○	電源投入時にブラックマーク位置検出による紙送りを行いません。
Enable		電源投入時にブラックマーク位置を検出し、紙送りを行います。

電源投入時のブラックマーク位置検出の設定画面



3.1.4 頭出し機能の設定

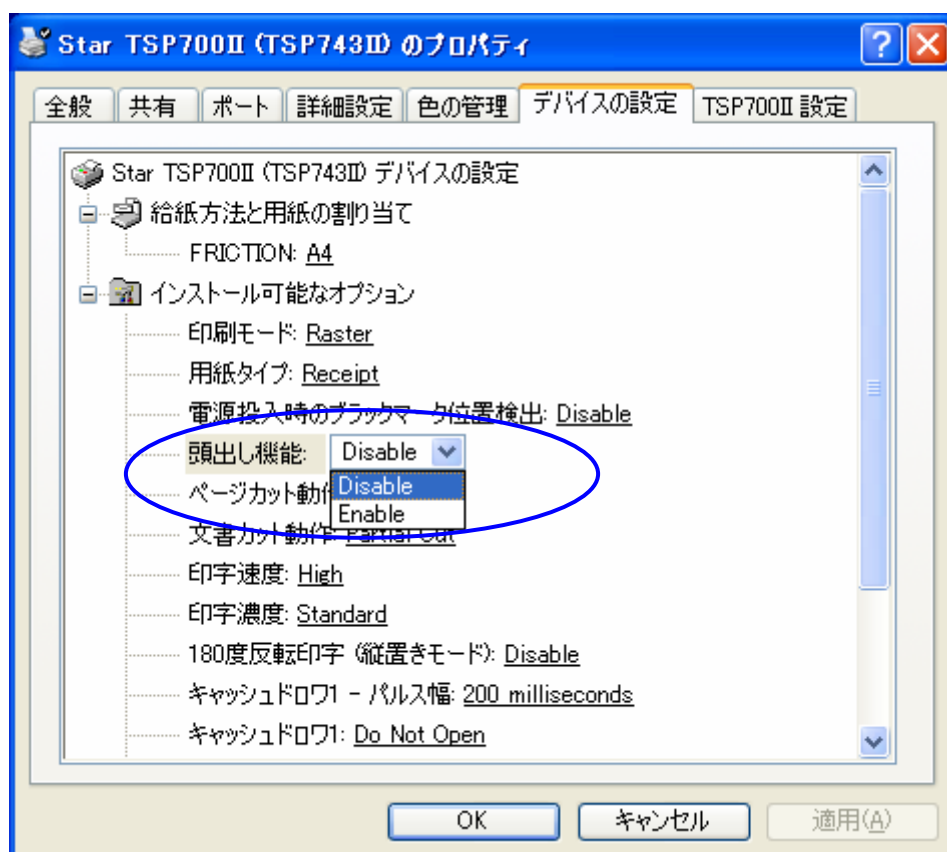
この機能が「Enable」に設定されている場合、頭出しの位置に合わせる動作を行います。

注記: この機能は印字モードが“Line モード”に設定されている時は無効です。
また、カット動作が Full Cut に設定されている時のみに有効です。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
Disable	○	印字後、次の頭出しの位置に合わせる動作を行いません。
Enable		印字後、次の頭出しの位置に合わせる動作を行います。

頭出し機能の設定画面



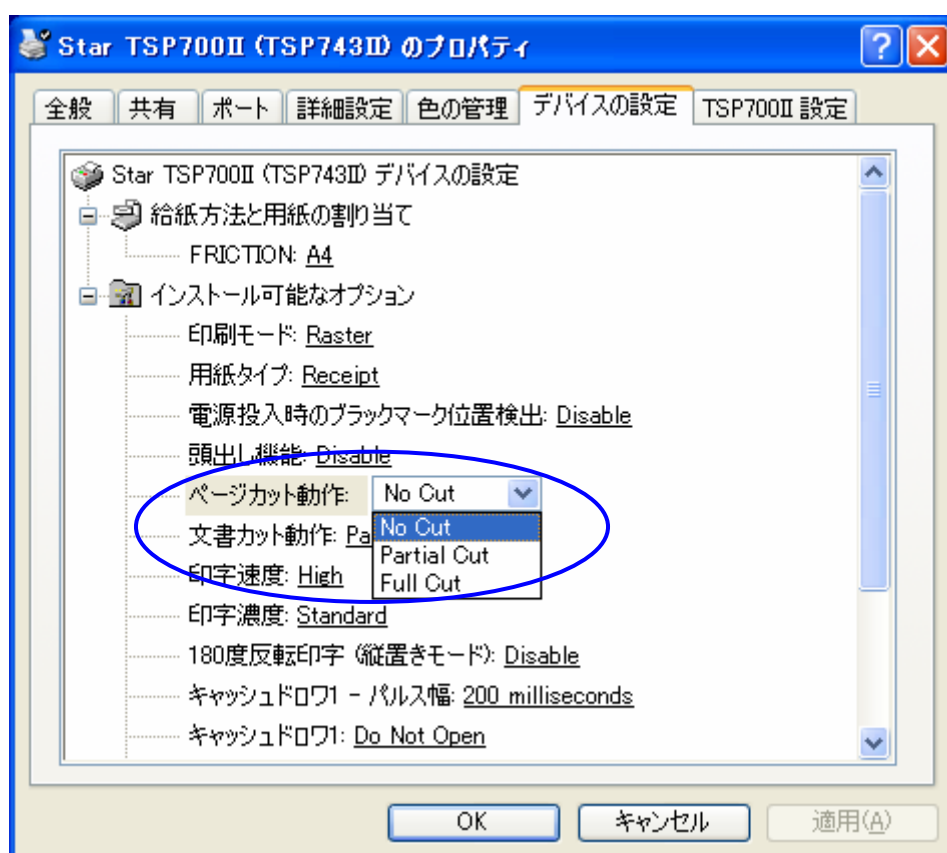
3.1.5 ページカット動作の設定

最後のページを除いた全てのページの終わりに実行されるカット方法を設定します。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
No Cut		カットおよび用紙送りの動作を行いません。
Partial Cut	○	カット位置まで用紙を送った後、中央を1点残し、カットします。
Full Cut		カット位置まで用紙を送った後、カットします。

ページカット動作の設定画面



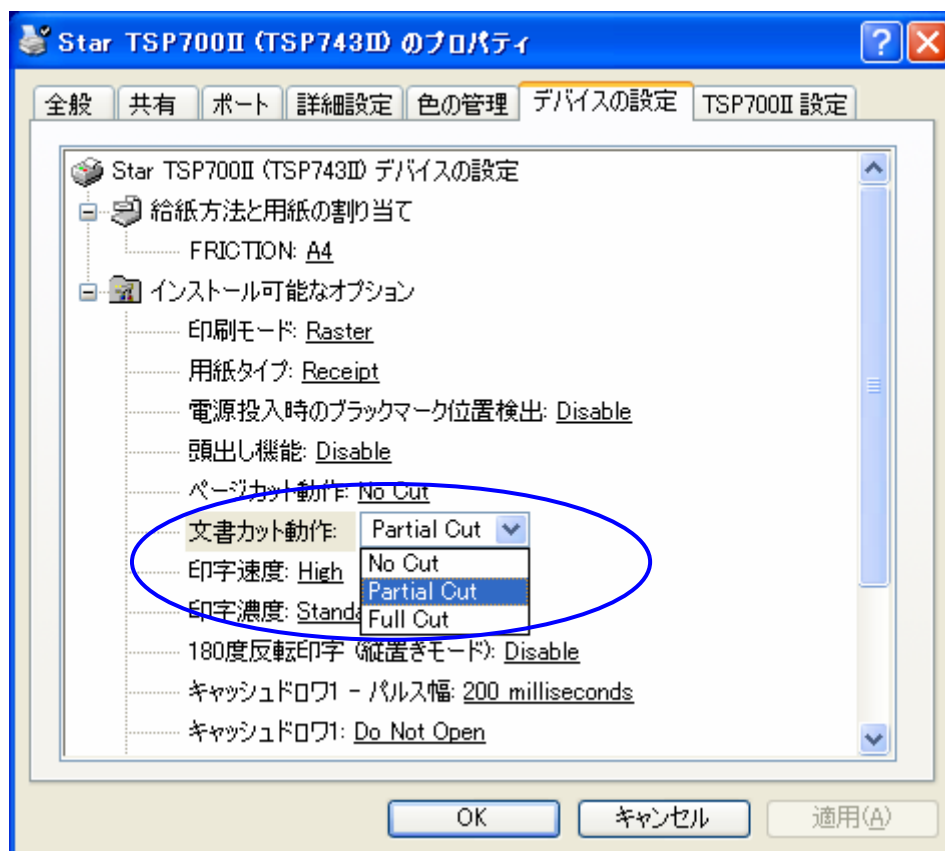
3.1.6 文書カット動作の設定

最終ページに実行されるカット方法を設定します。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
No Cut	○	カットおよび用紙送りの動作を行いません。
Partial Cut		カット位置まで用紙を送った後、中央を1点残し、カットします。
Full Cut		カット位置まで用紙を送った後、カットします。

文書カット動作の設定画面



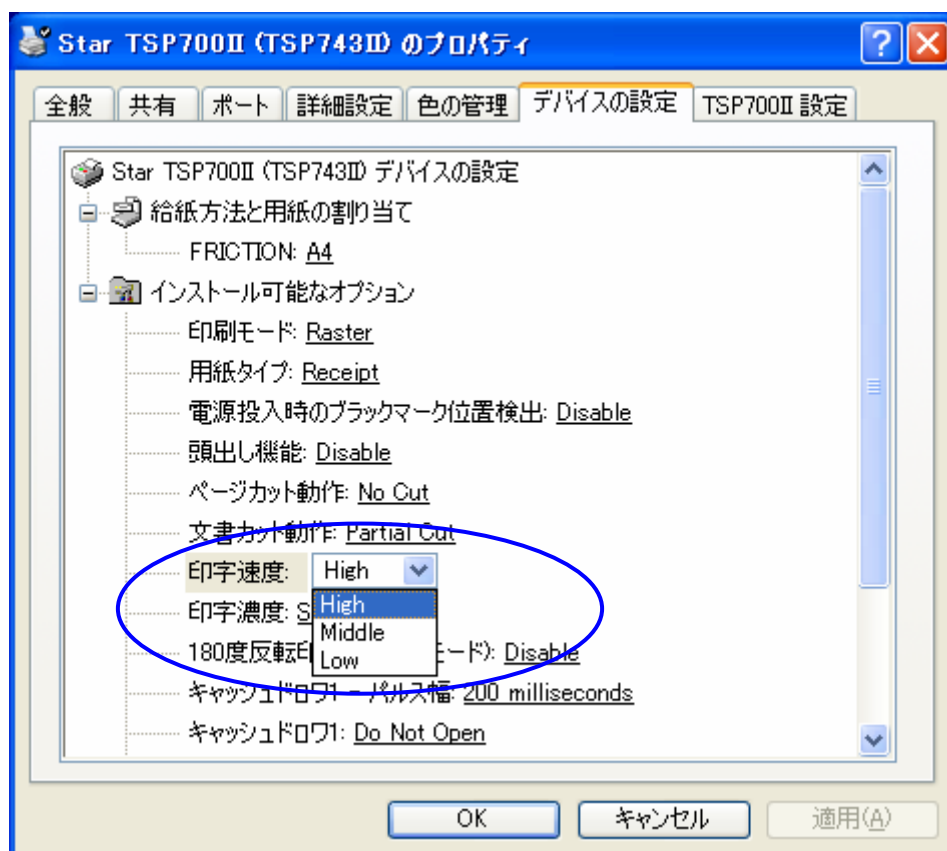
3.1.7 印字速度の設定

印字の速度を設定します。印字速度の設定によって印字品質も変わります。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
High	○	印字品質よりも印字速度を優先します。
Middle		印字品質も印字速度も中間的な設定です。
Low		最高の印字品質を得られますが、印字速度は遅くなります。

印字速度の設定画面



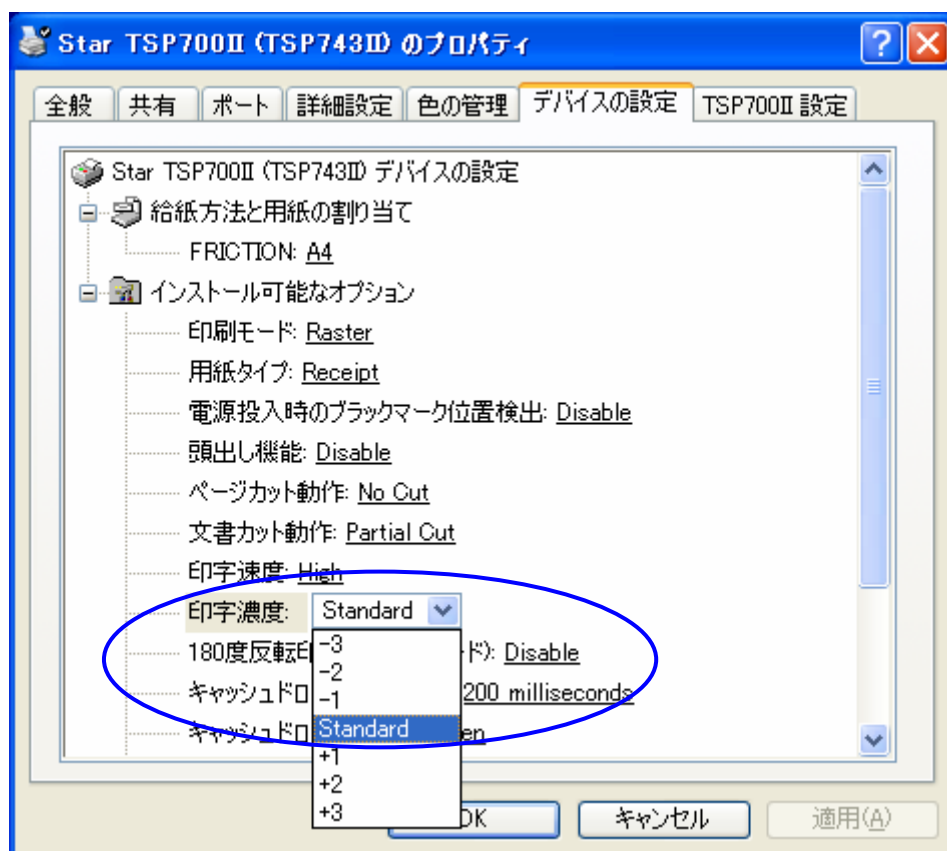
3.1.8 印字濃度の設定

印字の濃度を設定します。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
-1~-3		- (マイナス) の数値が大きいほど印字が薄くなります。
Standard	○	通常の濃度で印字します。
+1~+3		+ (プラス) の数値が大きいほど印字が濃くなります。

印字濃度の設定画面



3.1.9 180度反転印字（縦置きモード）の設定

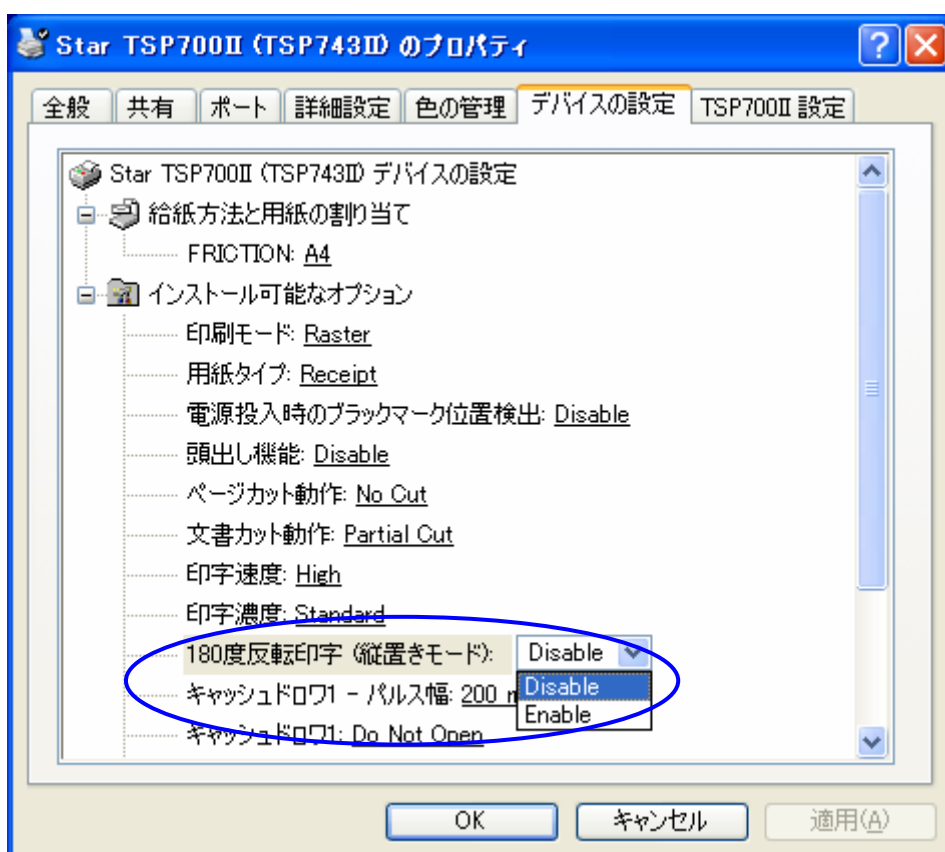
プリンタを縦置きまたは壁掛けの状態を使用する場合に設定を「Enable」にします。

この機能を利用することによって、縦置きおよび壁掛けの状態で使用した場合でもお客さまからは正しい向きで印刷内容を確認することができます。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
Disable	○	通常印刷します。
Enable		内容を上下反転して印刷します。（縦置き、壁掛け時）

180度反転印字（縦置きモード）の設定画面



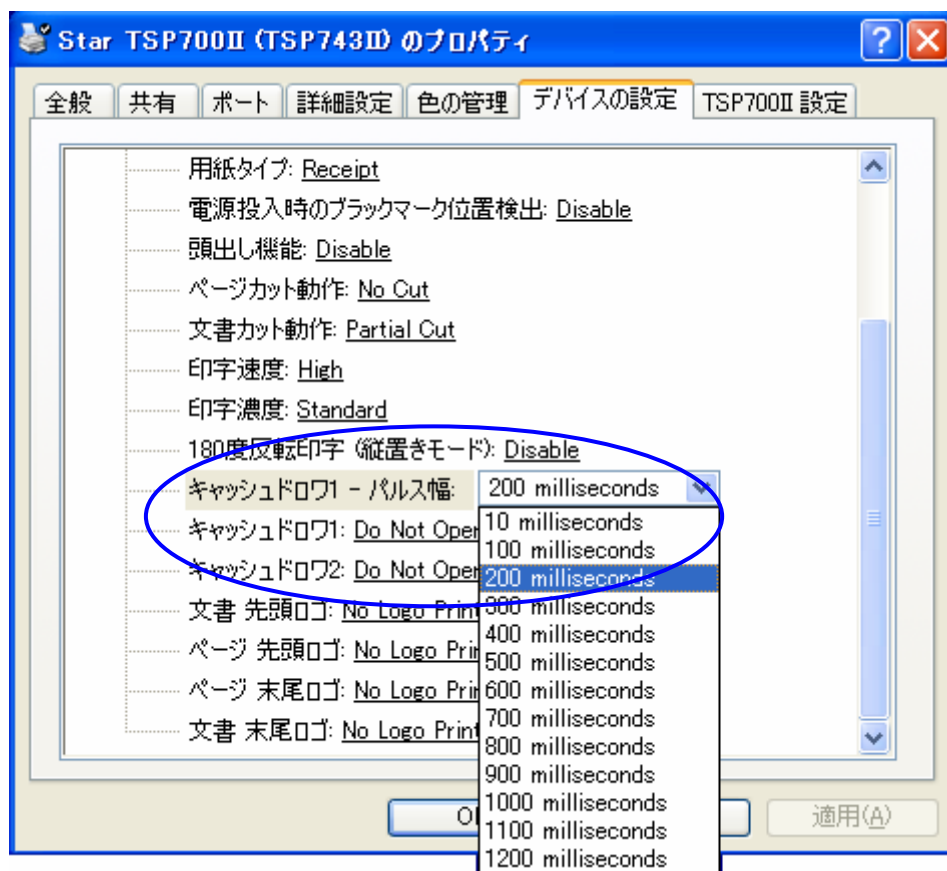
注記： この機能は、印字モードが Line モードに設定されている時には無効です。また、この機能を有効にすると、ブラックマーク位置の検出が無効となります。

3.1.10 キャッシュドロー1ーパルス幅の設定

キャッシュドロー1 駆動のパルス幅を設定します。次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
10 milliseconds		パルス幅を 0.01 秒に設定します。
100 milliseconds		パルス幅を 0.1 秒に設定します。
200 milliseconds	○	パルス幅を 0.2 秒に設定します。
300 milliseconds		パルス幅を 0.3 秒に設定します。
400 milliseconds		パルス幅を 0.4 秒に設定します。
500 milliseconds		パルス幅を 0.5 秒に設定します。
600 milliseconds		パルス幅を 0.6 秒に設定します。
700 milliseconds		パルス幅を 0.7 秒に設定します。
800 milliseconds		パルス幅を 0.8 秒に設定します。
900 milliseconds		パルス幅を 0.9 秒に設定します。
1000 milliseconds		パルス幅を 1.0 秒に設定します。
1100 milliseconds		パルス幅を 1.1 秒に設定します。
1200 milliseconds		パルス幅を 1.2 秒に設定します。

キャッシュドロー1ーパルス幅の設定画面



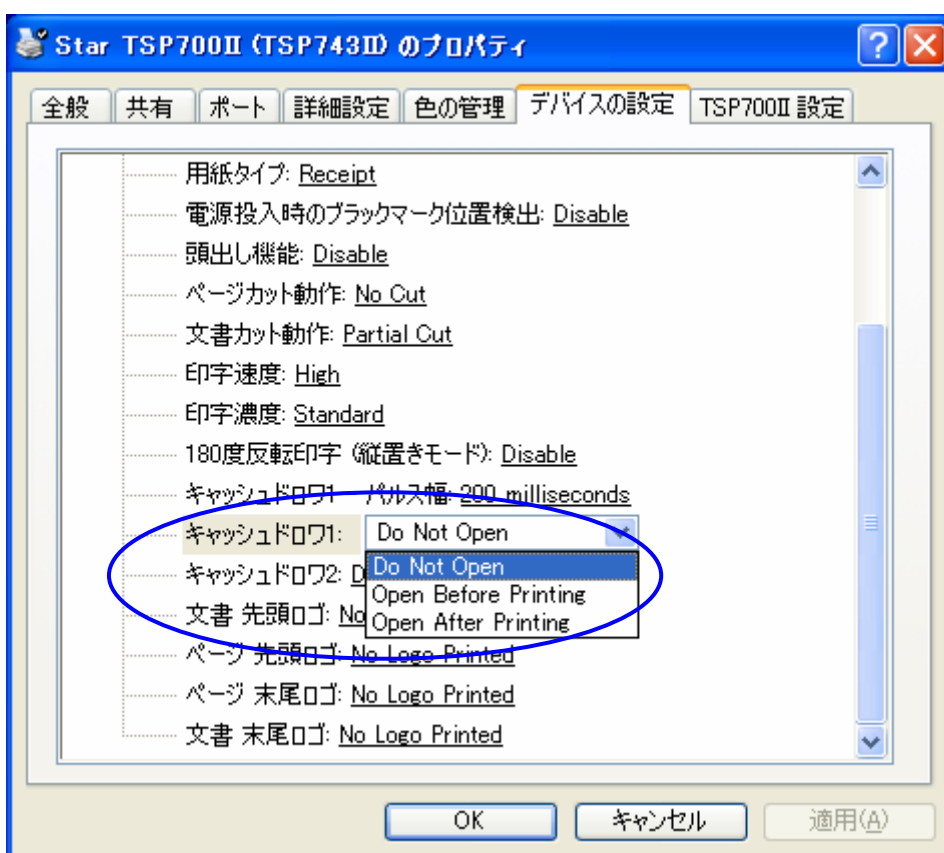
3.1.11 キャッシュドロワ1の動作設定

キャッシュドロワ1の動作を設定します。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
Do Not Open	○	キャッシュドロワ1を駆動しません。
Open Before Printing		キャッシュドロワ1を印刷直前に駆動します。
Open After Printing		キャッシュドロワ1を印刷直後に駆動します。

キャッシュドロワ1の動作設定画面



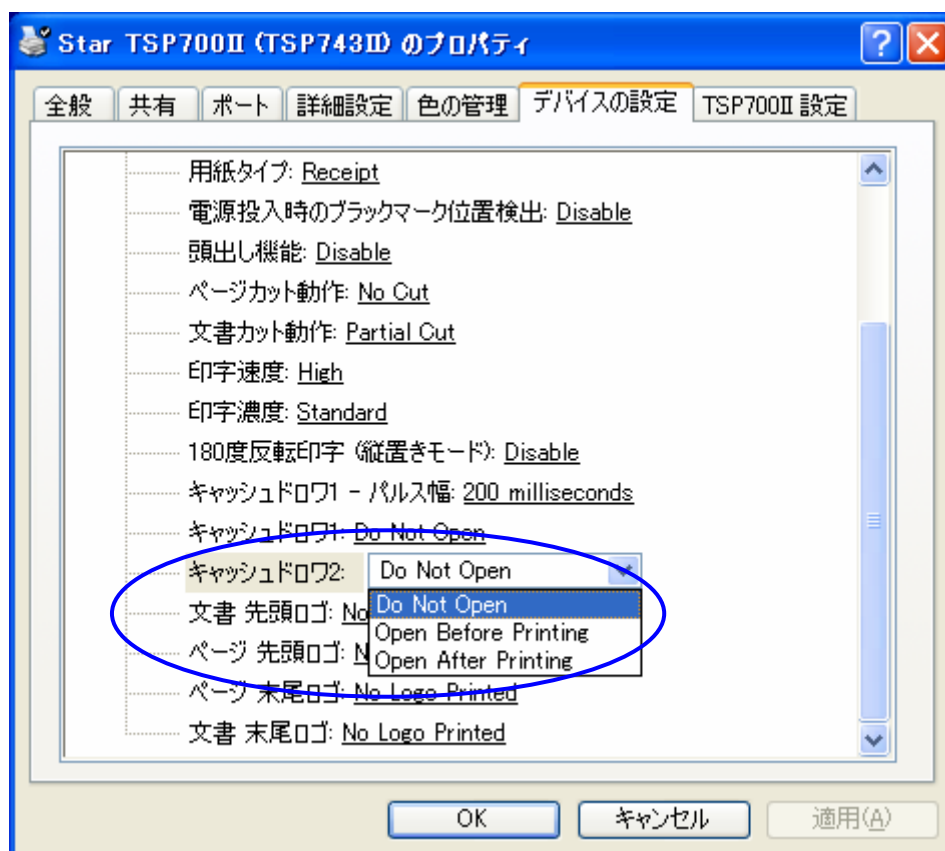
3.1.12 キャッシュドロワ2の動作設定

キャッシュドロワ2の動作を設定します。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
Do Not Open	○	キャッシュドロワ2を駆動しません。
Open Before Printing		キャッシュドロワ2を印刷直前に駆動します。
Open After Printing		キャッシュドロワ2を印刷直後に駆動します。

キャッシュドロワ2の動作設定画面



3.1.13 文書 先頭ロゴの設定

この設定を行う前に、ロゴを事前に登録しておく必要があります。

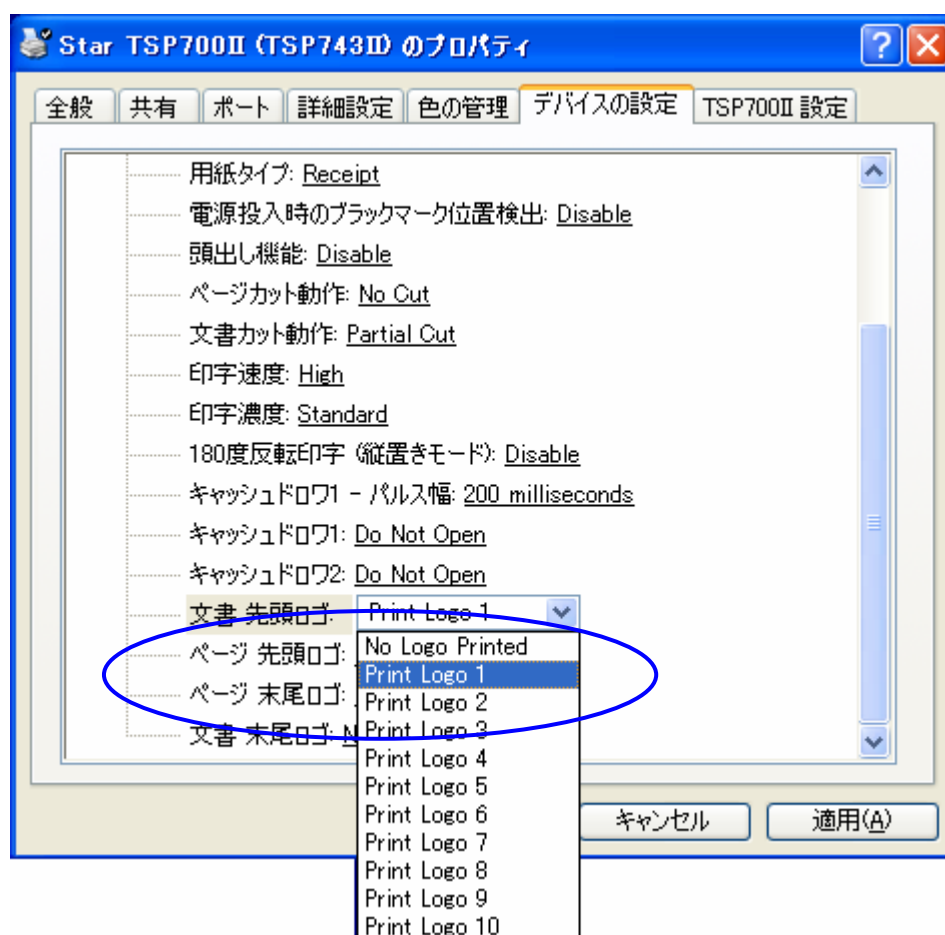
文書の先頭にロゴを印字する場合、登録されているロゴの番号を選択します。


注記: この機能は印字モードが“Raster モード”に設定されている時は無効です。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
No Logo Printed	○	文書の先頭にロゴを印刷しません。
Print Logo 1~10		選択された番号のロゴを文書の先頭に印刷します。

文書先頭ロゴの設定画面

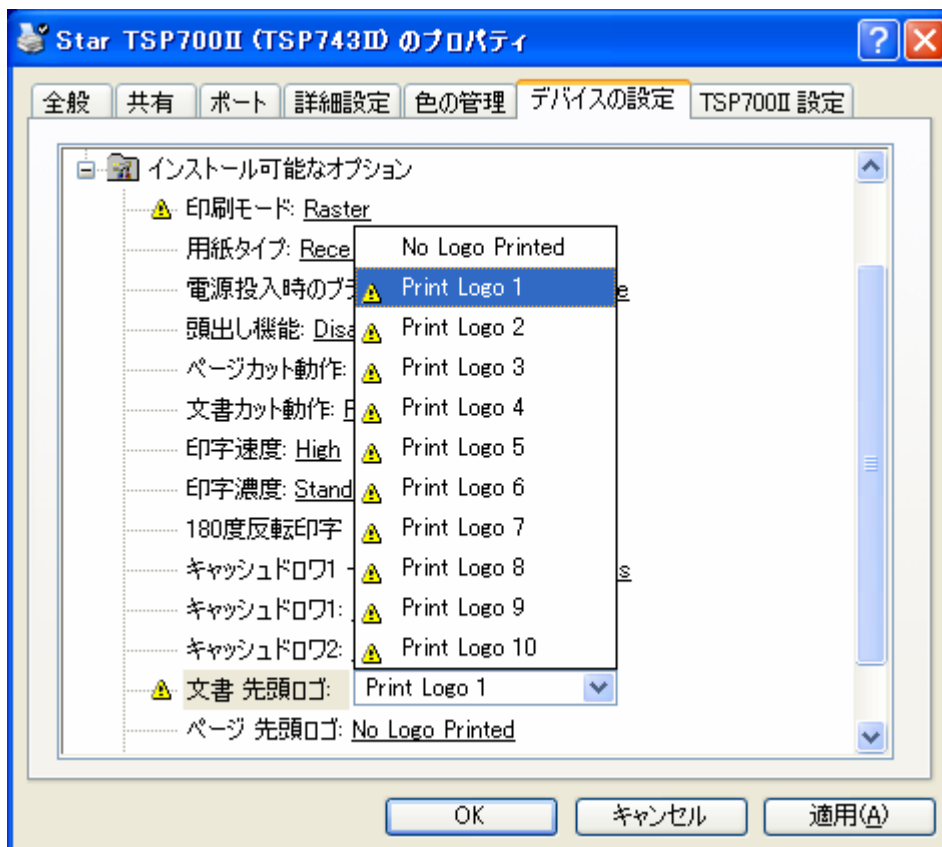


 ログの登録方法の詳細につきましては、「4.3.1 グラフィックデータ」をご参照ください。



印刷モードが“Raster”に設定されている時に Print Logo の選択をすると、デバイス設定の画面に マークが表示されます。このマークが表示されている箇所の設定は正しくありません。ご確認後、設定を変更してください。

印刷モードが“Raster”に設定されている時は、文書 先頭ロゴ、ページ 先頭ロゴ、ページ 末尾ロゴ、文書 末尾ロゴの全てのロゴ印刷設定が無効です。



3.1.14 ページ先頭ロゴの設定

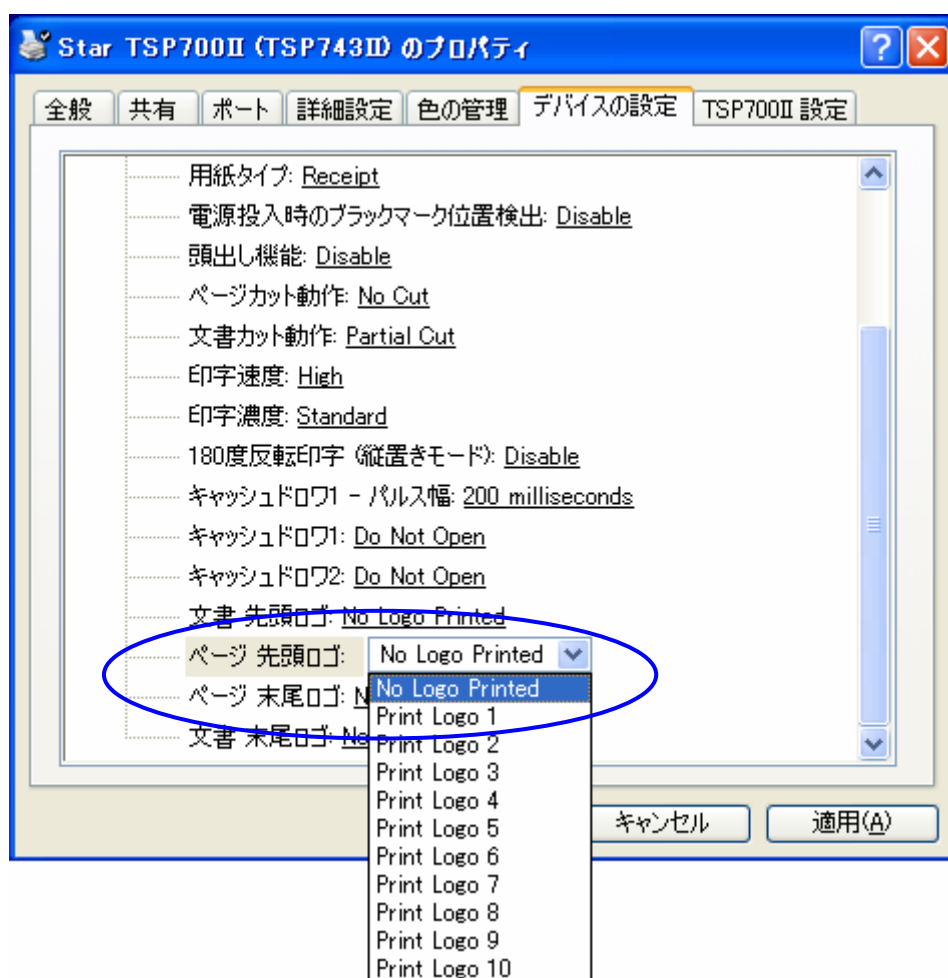
この設定を行う前に、ロゴを事前に登録しておく必要があります。


ページの先頭にロゴを印字する場合、登録されているロゴの番号を選択します。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
No Logo Printed	○	ページ先頭にロゴを印刷しません。
Print Logo 1~10		選択された番号のロゴをページ先頭に印刷します。

ページ先頭ロゴの設定画面



 ロゴの登録方法の詳細につきましては、「4.3.1 グラフィックデータ」をご参照ください。

3.1.15 ページ末尾ロゴの設定

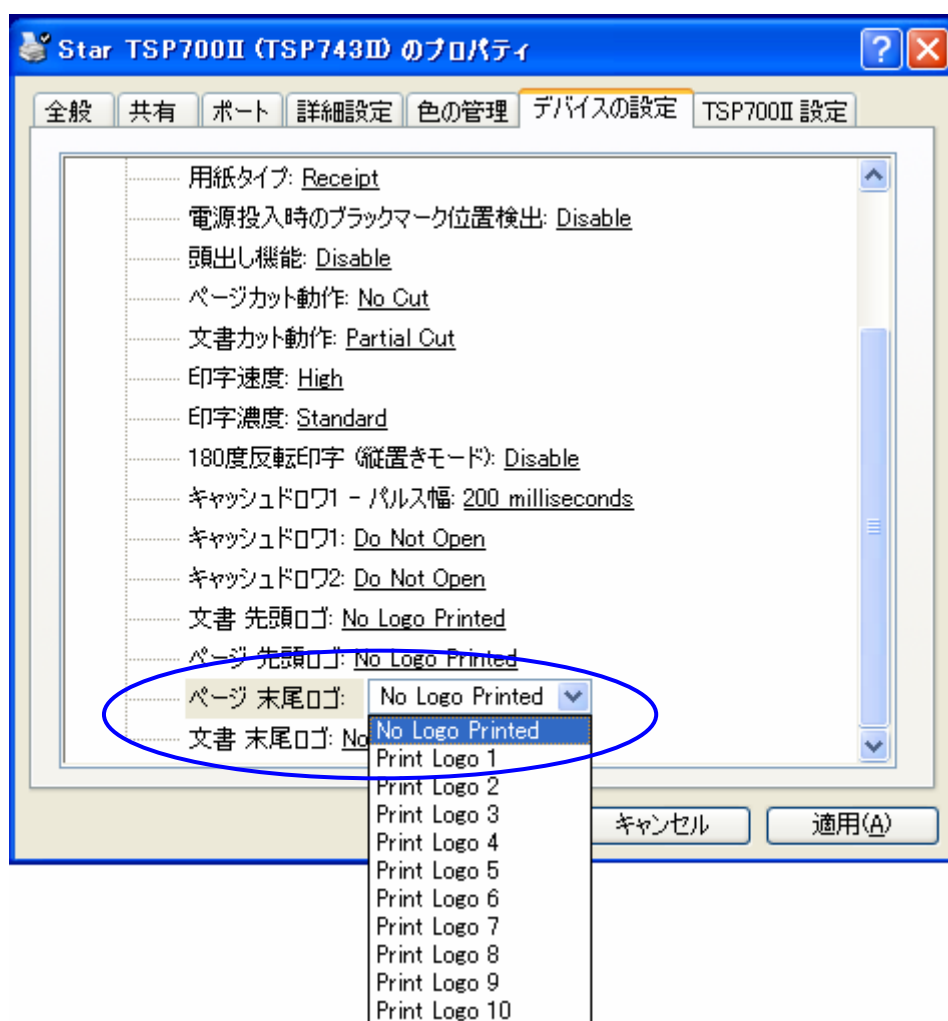
この設定を行う前に、ロゴを事前に登録しておく必要があります。


ページの末尾にロゴを印字する場合、登録されているロゴの番号を選択します。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
No Logo Printed	○	ページの末尾にロゴを印刷しません。
Print Logo 1~10		選択された番号のロゴをページの末尾に印刷します。

ページ末尾ロゴの設定画面



 ログの登録方法の詳細につきましては、「4.3.1 グラフィックデータ」をご参照ください。

3.1.16 文書 末尾ロゴの設定

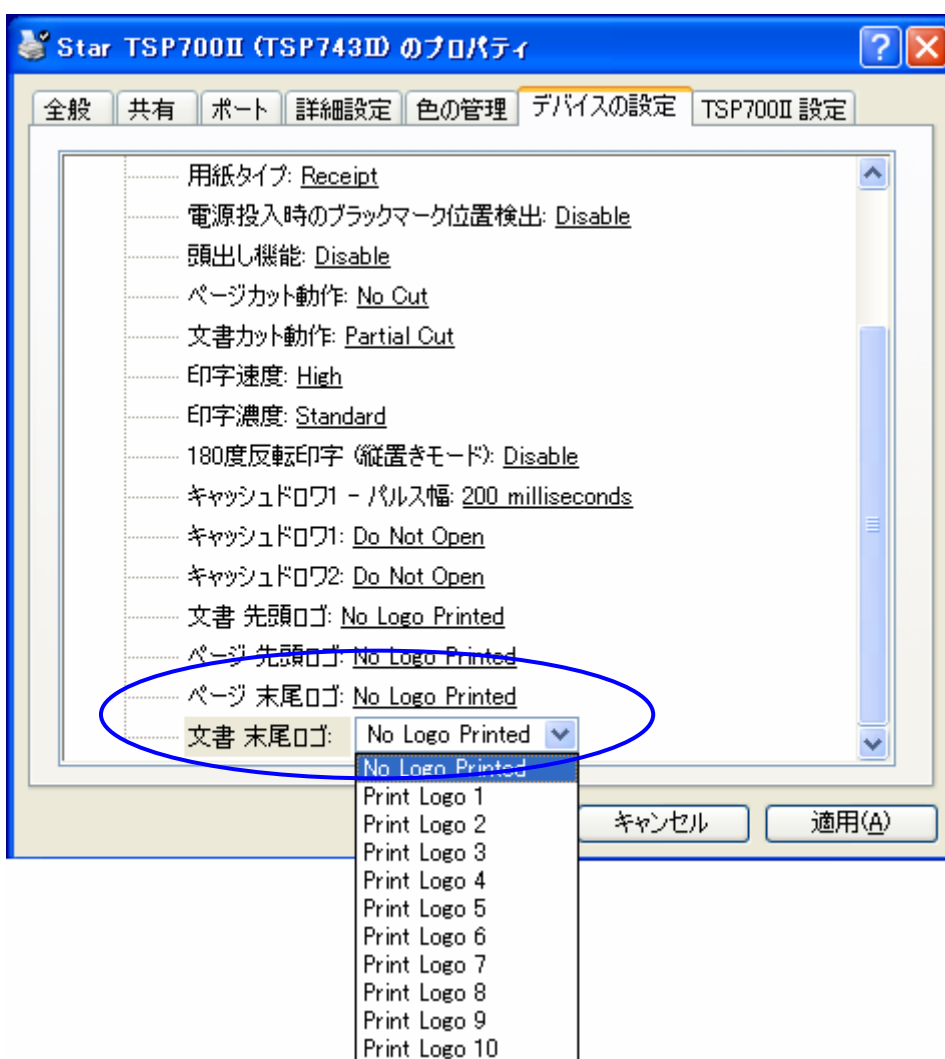
この設定を行う前に、ロゴを事前に登録しておく必要があります。


文書の末尾にロゴを印字する場合、登録されているロゴの番号を選択します。

次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
No Logo Printed	○	文書の末尾にロゴを印刷しません。
Print Logo 1~10		選択された番号のロゴを文書の末尾に印刷します。

文書末尾ロゴの設定画面



 ログの登録方法の詳細につきましては、「4.3.1 グラフィックデータ」をご参照ください。

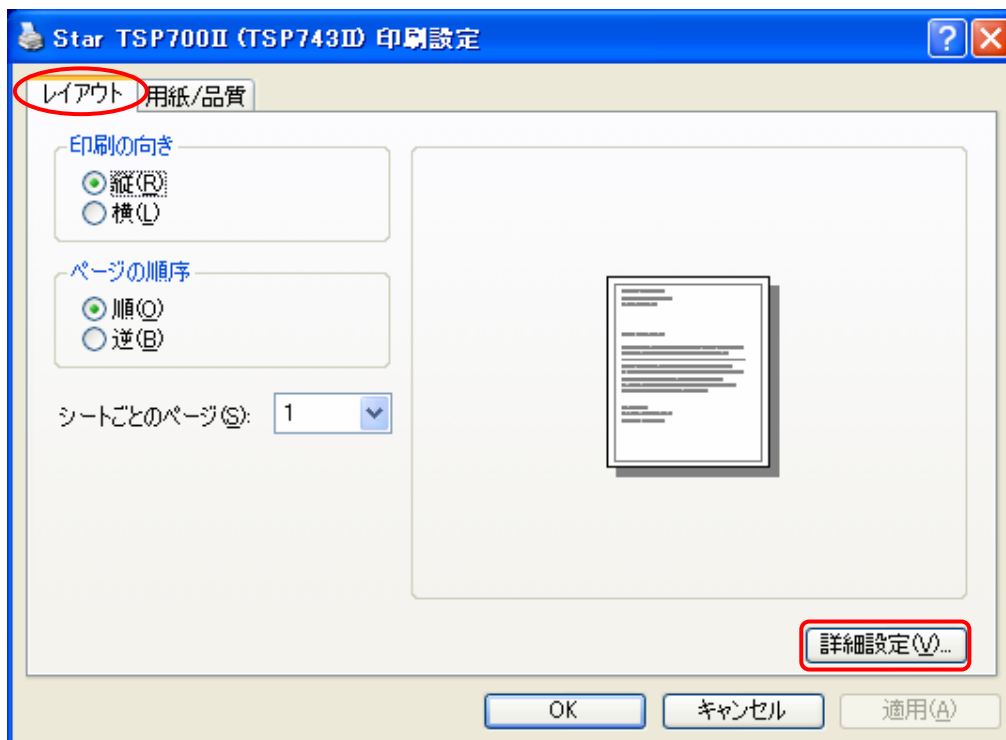
3.1.17 印字品質の設定

以下の手順で印字品質の設定をします。

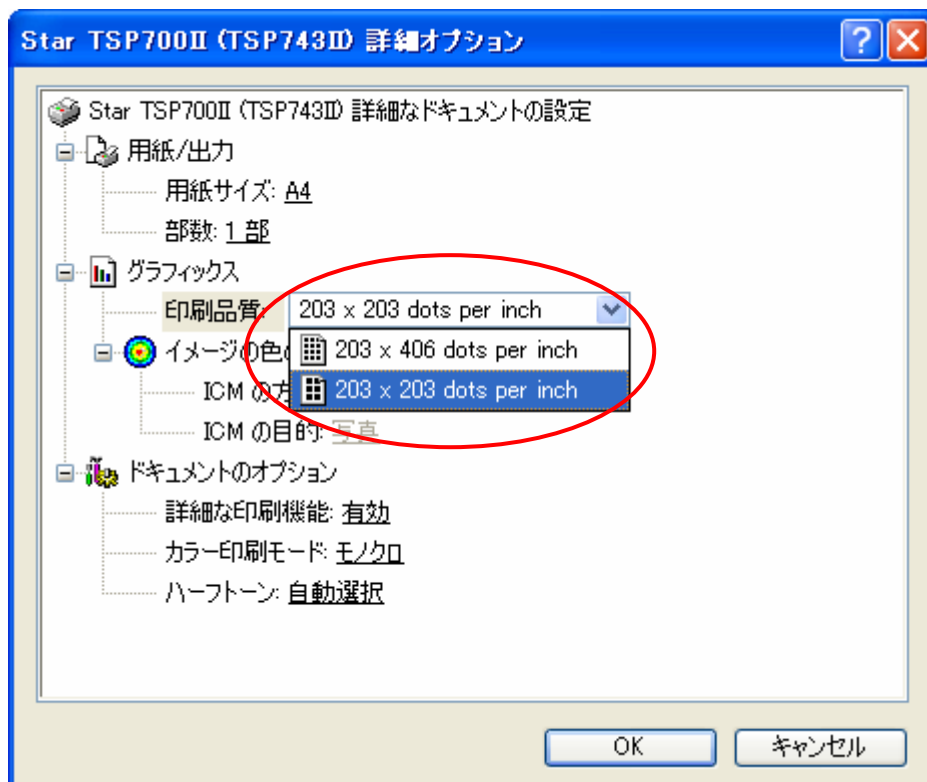
- ① Windows のスタートメニューから「プリンタと F A X」を選択し、「プリンタと F A X」のフォルダを開きます。
- ② 「Star TSP700 II (TSP743 II)」の表示を右クリックし、「印刷設定」を選択します。



- ③ 「レイアウト」タブをクリックし、[詳細設定]ボタンをクリックします。

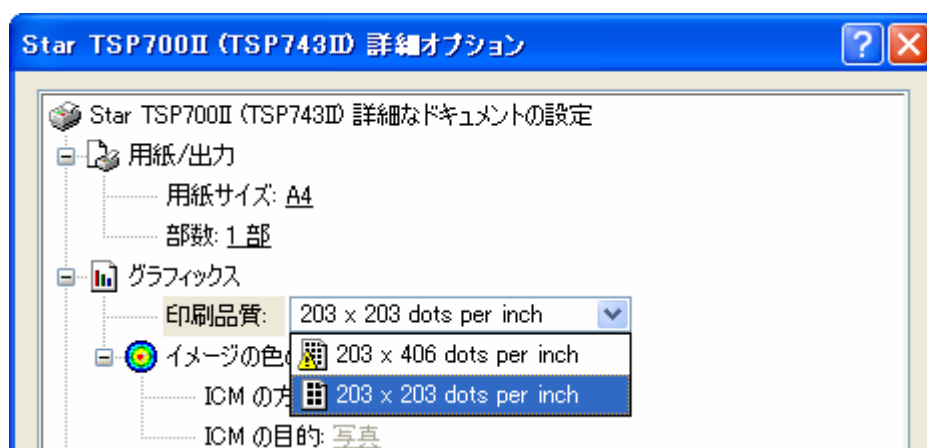


④ 詳細オプション画面の「グラフィックス」－「印刷品質」で設定します。



次の内容の設定ができます。

設定値	初期値	詳細
203×406 dot per inch		幅：203dpi、縦：406dpi で印刷します。
203×203 dot per inch	○	幅：203dpi、縦：203dpi で印刷します。



注記: 印刷モードが Line モード時およびカラー印字が有効に設定されている時、「203×406 dot per inch」の設定は無効です。

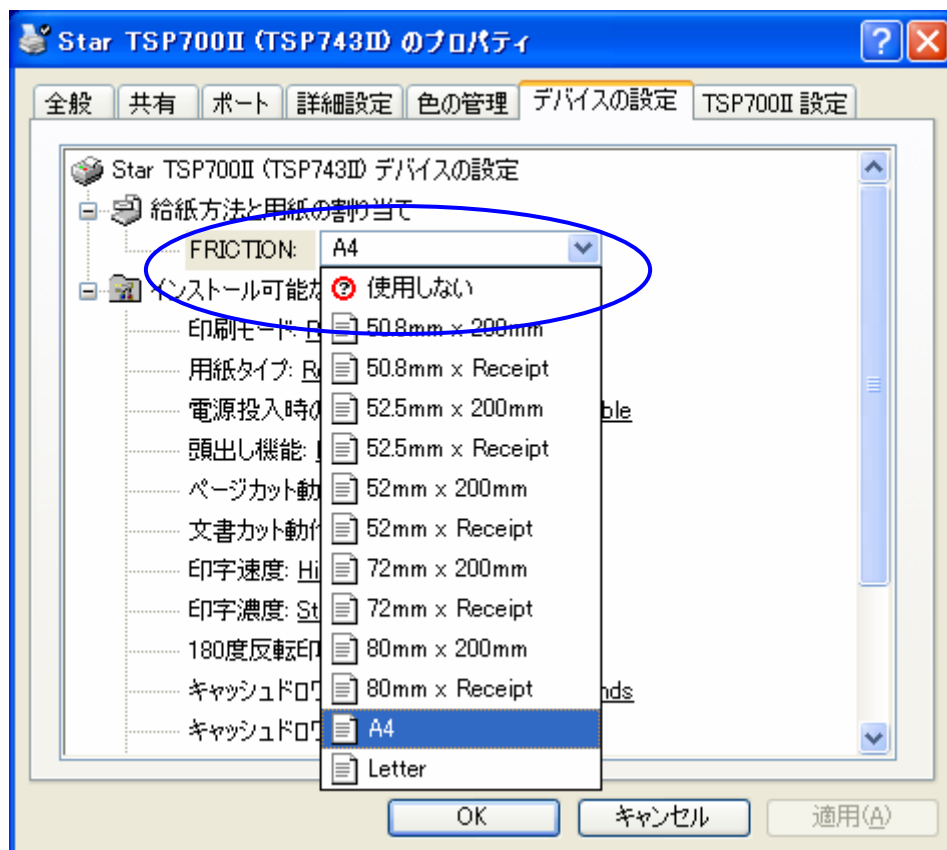
3.2 用紙サイズの設定

本ドライバではあらかじめ定義されている用紙サイズとユーザーが定義する用紙サイズを使用することができます。

3.2.1 標準用紙サイズ

次の内容はあらかじめ定義されている用紙サイズです。

設定値	初期値	幅	長さ
50.8mm × 200mm		50.8mm	200mm
50.8mm × Receipt		50.8mm	2,047mm
52.5mm × 200mm		52.5mm	200mm
52.5mm × Receipt		52.5mm	2,047mm
52mm × 200mm		52mm	200mm
52mm × Receipt		52mm	2,047mm
72mm × 200mm		72mm	200mm
72mm × Receipt		72mm	2,047mm
80mm × 200mm		80mm	200mm
80mm × Receipt		80mm	2,047mm
A 4	○	210mm	297mm
Letter		8.5 インチ	11 インチ





幅とは、印刷可能な範囲のことを示します。

マージン（余白）を考慮して用紙幅よりも小さい用紙サイズを選択してください。

たとえば、57.5mm 幅のロール紙を使用する場合は、52.5mm 幅までの用紙サイズを設定してください。また、52.5mm×Receipt など Receipt 長の用紙サイズを選択し、さらに用紙タイプを Receipt (可変長制御) に設定 (3.1.2 参照) しますと、改ページのないジャーナル印刷が実現できます。

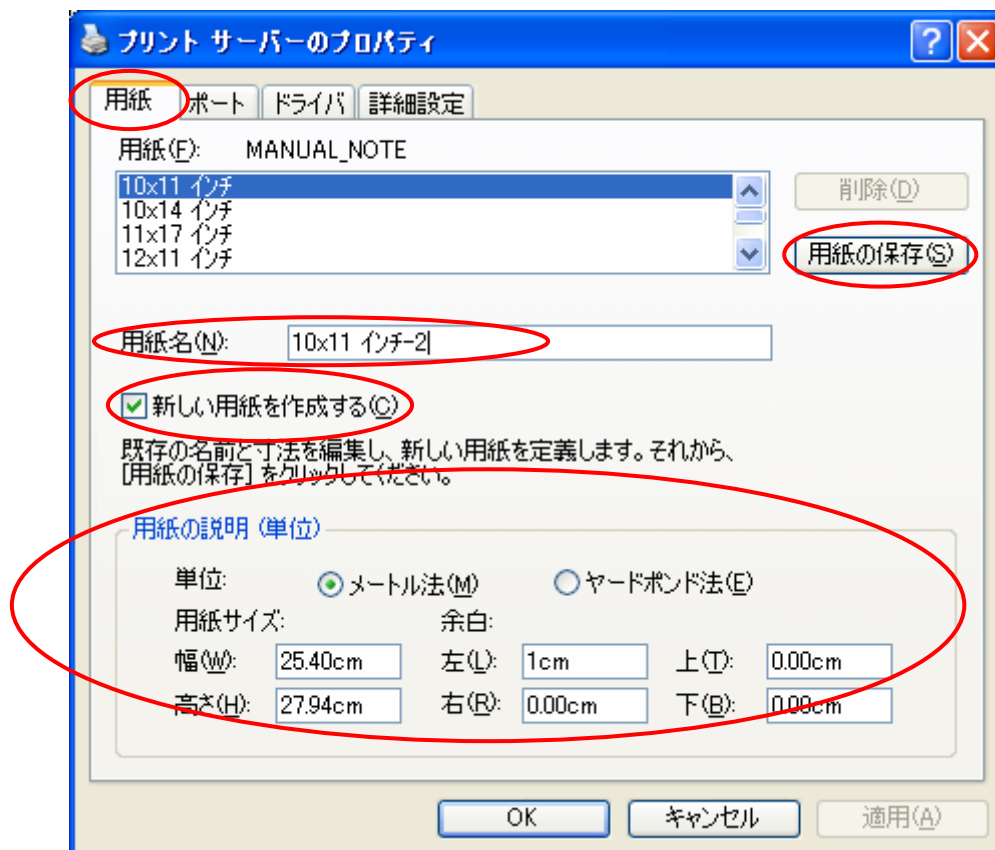
3.2.2 ユーザー定義による用紙サイズ

ユーザー定義の用紙サイズは「プリンタとFAX」フォルダの「ファイル」メニュー内の「サーバーのプロパティ」で作成します。定義する手順は以下の通りです。

- ① 「プリンタとFAX」フォルダの「ファイル」メニューから「サーバーのプロパティ」を開き、「用紙」タブをクリックします。
- ② 「新しい用紙を作成する」のチェックボックスを選択します。
- ③ 「用紙名」に現在表示されている名前を編集して、新しい名前を設定します。
- ④ 「用紙の説明」内で寸法の単位を選択し、用紙サイズの『幅』と『高さ』を入力します。

注記：余白は左右と上下とすべての値を“0”に設定してください。

- ⑤ [用紙の保存(S)]ボタンをクリックします。[OK]ボタンをクリックして画面を閉じます。



注記：ユーザー定義により指定された印刷用紙は、その用紙サイズがプリンタにとって適切な範囲であれば、本ドライバで利用可能となります。

設定可能な用紙サイズは、下記の通りです。

用紙幅 25.4mm～80mm

用紙長 25.4mm～2,047mm

3.3 デバイスフォント

本ドライバにはデバイスフォントが用意されています。

デバイスフォントは、プリンタの特性に合わせてデザインされているため、TrueType フォントを使用した時よりも、より鮮明な印刷が可能となります。

また、本ドライバのデバイスフォントは、スターPOS シリーズプリンタ TSP600/TSP700/TSP800/TSP1000 シリーズのデバイスフォントと互換性があるので、これらのプリンタと同一の印字結果を得ることができます。

注記：デバイスフォントを使用する時は、正しいフォント高さを選択してください。

下表のデバイスフォントがサポートされています。

フォント名	幅 (ピクセル)	高さ (ピクセル)	桁数 72mm (576ドット)	詳細
Printer 17cpi	12	24	48	サーマルプリンタフォント
Printer 8.5cpi	24	24	24	
Printer 17cpi Tall	12	48	48	
Printer 8.5cpi Tall	24	48	24	
Printer 16cpi	13	24	44	
Printer 8cpi	26	24	22	
Printer 16cpi Tall	13	48	44	
Printer 8cpi Tall	26	48	22	
Printer 14cpi	15	24	38	
Printer 7cpi	30	24	19	
Printer 14cpi Tall	15	48	38	
Printer 7cpi Tall	30	48	19	
Printer 17cpi (RED)	12	24	48	
Printer 8.5cpi (RED)	24	24	24	
Printer 17cpi Tall (RED)	12	48	48	
Printer 8.5cpi Tall (RED)	24	48	24	
Printer 16cpi (RED)	13	24	44	
Printer 8cpi (RED)	26	24	22	
Printer 16cpi Tall (RED)	13	48	44	
Printer 8cpi Tall (RED)	26	48	22	
Printer 14cpi (RED)	15	24	38	
Printer 7cpi (RED)	30	24	19	
Printer 14cpi Tall (RED)	15	48	38	
Printer 7cpi Tall (RED)	30	48	19	

フォント名	幅 (ピクセル)	高さ (ピクセル)	桁数 72mm (576ドット)	詳細
漢字全角 8cpi	26	24	22	漢字フォント
漢字横倍角 4cpi	52	24	11	
漢字縦倍角 8cpi	26	48	22	
漢字 4 倍角 4cpi	52	48	11	
漢字縦横 3 倍角 2.5cpi	78	72	7	
漢字全角 8cpi(RED)	26	24	22	
漢字横倍角 4cpi(RED)	52	24	11	
漢字縦倍角 8cpi(RED)	26	48	22	
漢字 4 倍角 4cpi(RED)	52	48	11	
漢字縦横 3 倍角 2.5cpi(RED)	78	72	7	
Control	12	24	48	コントロールフォント
ESC_FONT	1	24	576	
ESC_FONT_KANJI	2	24	288	
UPC-E	12	24	48	バーコードフォント
UPC-A	12	24	48	
JAN/EAN-8	12	24	48	
JAN/EAN-13	12	24	48	
CODE39	12	24	48	
ITF	12	24	48	
NW-7(Codaber)	12	24	48	
QR_CNTL	1	24	576	
PDF417	1	24	576	二次元コードフォント
DATA1	1	24	576	
DATA2	1	24	576	
DATA3	1	24	576	

3.4 Control フォント

Control フォントは、印字するためのフォントではなく、プリンタが持つ機能を実行するために使用します。

各機能にはそれぞれ文字が割り当てられています。

3.4.1 Control フォント機能一覧

下表の内容は、Control フォントによって実行できる機能です。

文 字	機 能
A	キャッシュドロワ1の駆動（50ms 駆動）
B	キャッシュドロワ1の駆動（100ms 駆動）
C	キャッシュドロワ1の駆動（150ms 駆動）
D	キャッシュドロワ1の駆動（200ms 駆動）
E	キャッシュドロワ1の駆動（250ms 駆動）
d	キャッシュドロワ2の駆動（200ms 駆動）
6	LFの出力
7	CRの出力
F	オートカッター：フルカット
P	オートカッター：パーシャルカット
G	NVビットイメージ番号1：ノーマルモード印刷
H	NVビットイメージ番号2：ノーマルモード印刷
I	NVビットイメージ番号3：ノーマルモード印刷
J	NVビットイメージ番号4：ノーマルモード印刷
K	NVビットイメージ番号5：ノーマルモード印刷
Q	NVビットイメージ番号1：横倍モード印刷
R	NVビットイメージ番号2：横倍モード印刷
S	NVビットイメージ番号3：横倍モード印刷
T	NVビットイメージ番号4：横倍モード印刷
U	NVビットイメージ番号5：横倍モード印刷
V	NVビットイメージ番号1：縦倍モード印刷
W	NVビットイメージ番号2：縦倍モード印刷
X	NVビットイメージ番号3：縦倍モード印刷
Y	NVビットイメージ番号4：縦倍モード印刷
Z	NVビットイメージ番号5：縦倍モード印刷
[NVビットイメージ番号1：4倍モード印刷
]	NVビットイメージ番号2：4倍モード印刷
^	NVビットイメージ番号3：4倍モード印刷

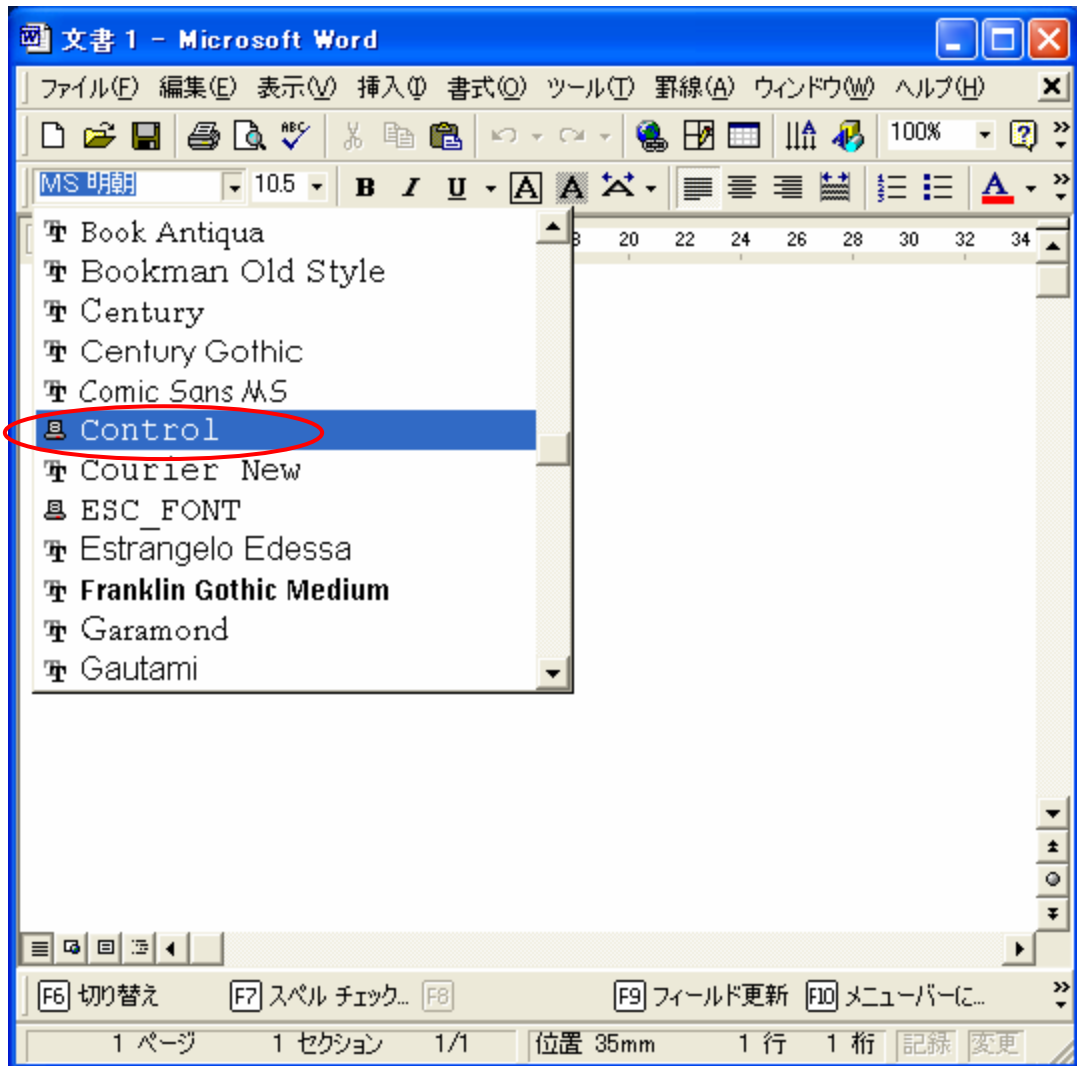
文 字	機 能
_	NVビットイメージ番号4：4倍モード印刷
`	NVビットイメージ番号5：4倍モード印刷
a	位置揃えの指定：左揃え
b	位置揃えの指定：中央揃え
c	位置揃えの指定：右揃え
e	3mm（1/8インチ）改行の設定
f	4mm（1/6インチ）改行の設定
g	国際文字の選択：USA
h	国際文字の選択：フランス
i	国際文字の選択：ドイツ
j	国際文字の選択：イギリス
k	国際文字の選択：デンマークⅠ
l	国際文字の選択：スウェーデン
m	国際文字の選択：イタリア
n	国際文字の選択：スペインⅠ
o	国際文字の選択：日本
p	国際文字の選択：ノルウェー
q	国際文字の選択：デンマークⅡ
r	国際文字の選択：スペインⅡ
s	国際文字の選択：ラテンアメリカ
t	白黒反転印字の設定
u	白黒反転印字の解除
v	カスタマディスプレイ：データ転送開始
w	カスタマディスプレイ：データ転送終了
x	カスタマディスプレイ：ディスプレイクリア

注記：プリンタがサポートしていない機能を割り当てられた Control フォントは無視されます。

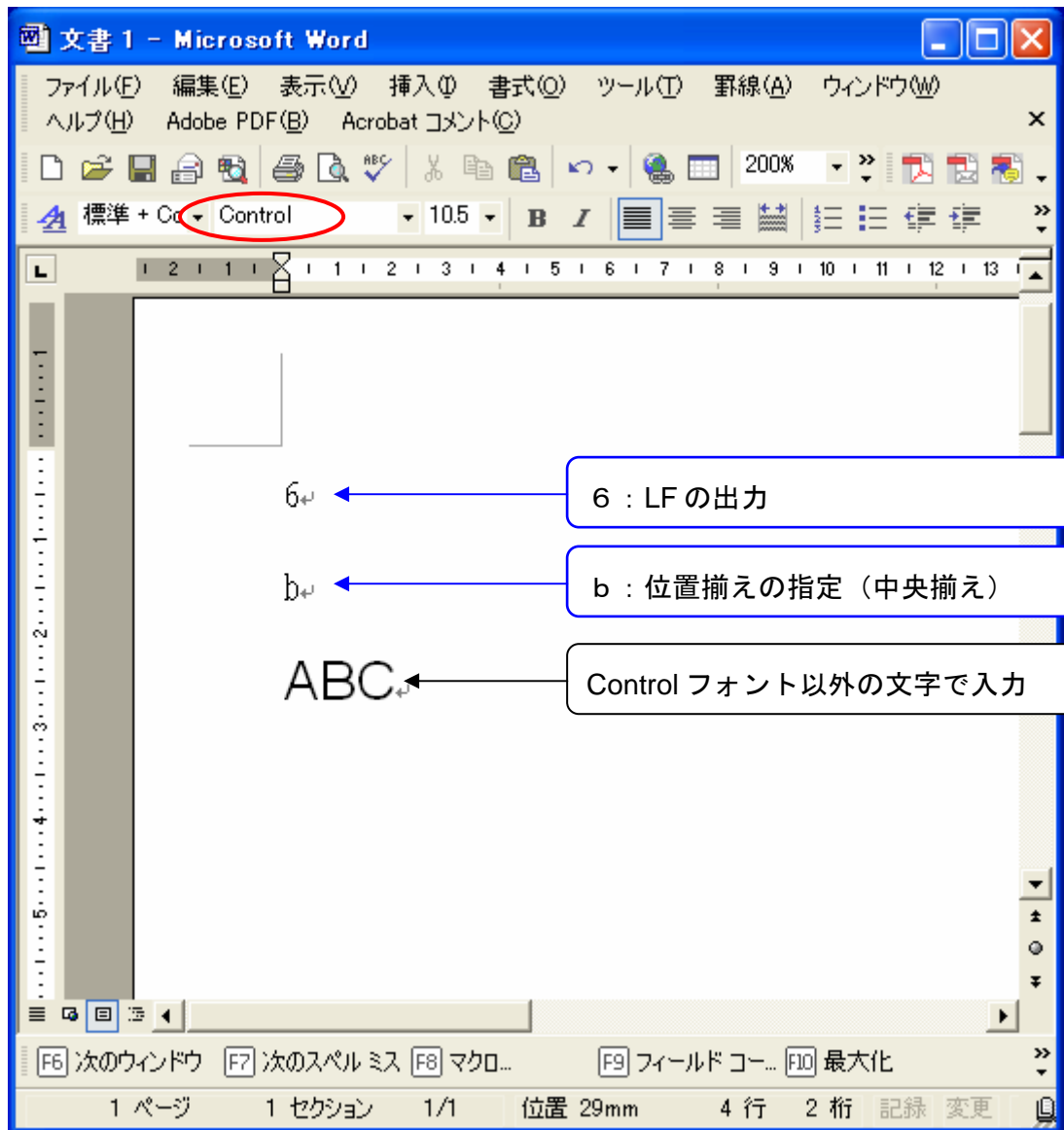
3.4.2 Control フォントの使用法

次の内容は Control フォントの設定手順と使用例です。

- ① フォントの一覧より「Control」フォントを選択します。



② 実行したい機能に割り当てられた文字（3.4.1の一覧表を参照）を入力します。




印刷することで、指定された機能が実行します。

上記の使用例の場合、1行分改行後、用紙の中央にABCと印字されるという結果になります。

3.5 バーコード印刷機能

バーコードフォントを選択し、コード入力することによってバーコードの生成と印刷が可能です。バーコード印刷を実行しますと、まずバーコードイメージを印刷した後にバーコードイメージの下に添え字が印刷されます。

 バーコードイメージはアプリケーションの画面上には表示されません。

3.5.1 バーコードフォント一覧

下表の内容はサポートされているバーコードフォントの種類と使用可能な文字の種類です。

バーコードタイプ	文字桁数	使用可能な文字セット
UPC-E	12 桁	数値：0～9
UPC-A	12 桁	数値：0～9
JAN/EAN-8	8 桁	数値：0～9
JAN/EAN-13	13 桁	数値：0～9
CODE39	1 桁以上	数値：0～9 記号：-, ., <SP>, \$, /, +, % アルファベット：A～Z スタート・ストップコード：* (※1)
ITF	1 桁以上 (ただし、偶数)	数値：0～9
XW-7 (Codabar)	1 桁以上	数値：0～9 記号：-, \$, :, /, ., +, アルファベット：A～D

※1) スタート・ストップコードは自動的に入力されるため、コード入力字には指定不要です。

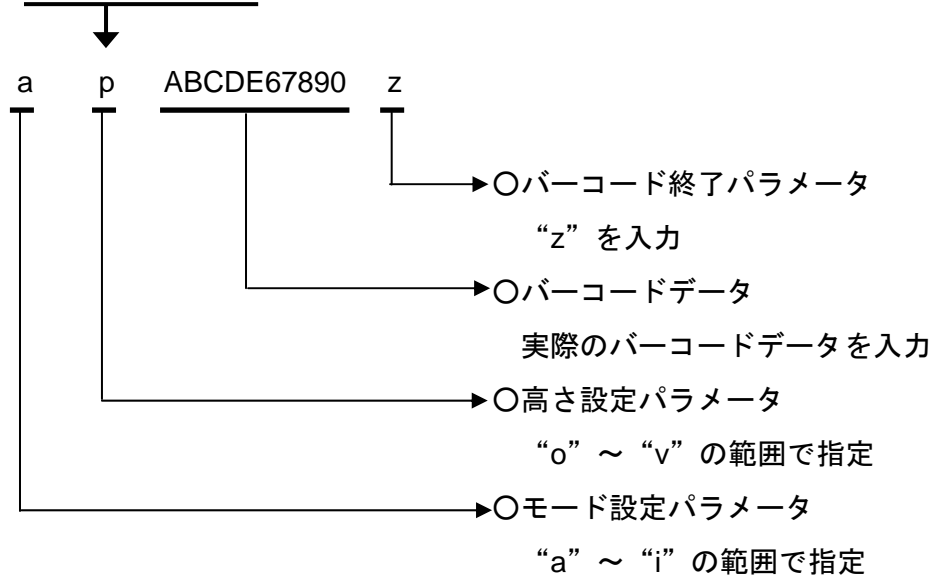
3.5.2 バーコードフォントの入力


バーコードフォントは下記のフォーマットで入力してください。

コードの最後にはバーコードフォント終了文字の“Z”を入力してください。

例) CODE39 の場合

入力データ : apABCDE67890z



 各パラメータの詳細は、次ページの「バーコードフォントパラメータ一覧」を参照してください。

■バーコードフォントパラメーター一覧

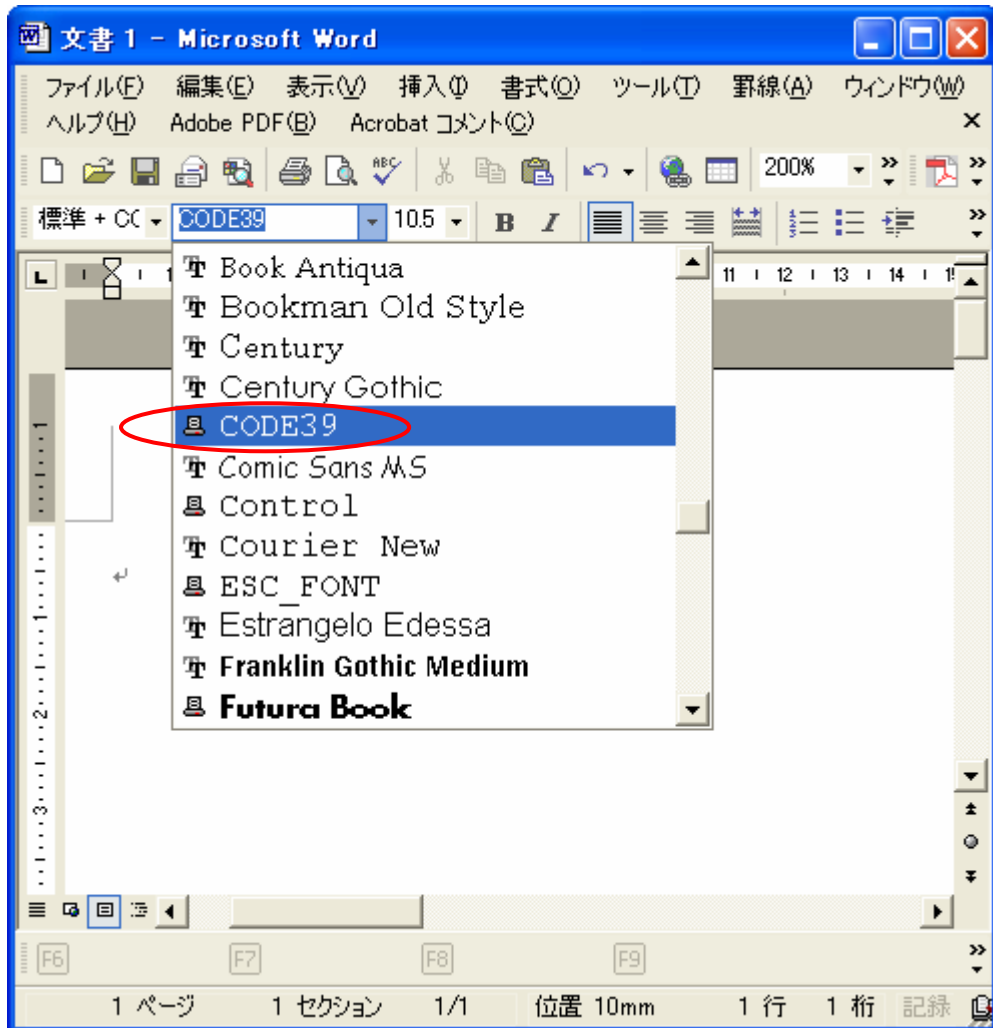
バーコードフォント 使用時の文字	機 能			備 考 UPC-E, UPC-A, JAN/EAN-8, JAN/EAN-13
	UPC-E, UPC-A, JAN/EAN-8, JAN/EAN-13	CODE39 NW-7 (※1)	ITF (※1)	
a	2 ドット	2 ドット(6)	2 ドット(5)	最小モジュール幅
b	3 ドット	3 ドット(9)	4 ドット(10)	〃
c	4 ドット	4 ドット(12)	6 ドット(15)	〃
d	—	2 ドット(5)	2 ドット(4)	〃
e	—	3 ドット(8)	4 ドット(8)	〃
f	—	4 ドット(10)	6 ドット(12)	〃
g	—	2 ドット(4)	2 ドット(6)	〃
h	—	3 ドット(6)	3 ドット(9)	〃
i		4 ドット(8)	4 ドット(12)	〃
o	バーコード高さ : 32 ドット (4mm)			
p	バーコード高さ : 64 ドット (8mm)			
q	バーコード高さ : 96 ドット (12mm)			
r	バーコード高さ : 128 ドット (16mm)			
s	バーコード高さ : 160 ドット (20mm)			
t	バーコード高さ : 192 ドット (24mm)			
u	バーコード高さ : 224 ドット (28mm)			
v	バーコード高さ : 255 ドット (31.9mm)			
z	バーコードデータの終了コード (1EH)			

※1) モードの () 内の数字は、太いパターンのドット数を示しています。

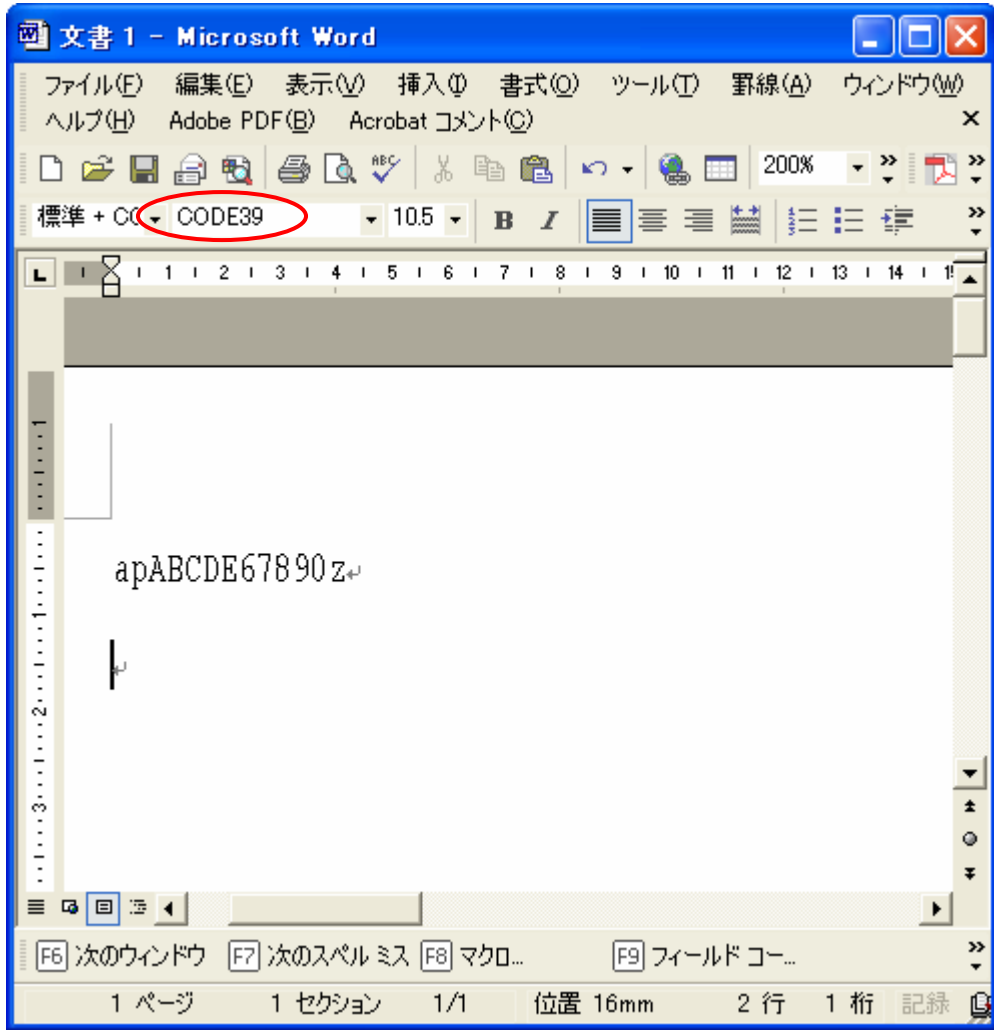
3.5.3 バーコードフォント使用方法

次の内容はバーコードフォントの設定手順と使用例です。

- ① フォントの一覧よりバーコード名のついたデバイスフォントを選択します。
下記例では「CODE39」のバーコードフォントを選択します。



- ② コードを入力します。
印刷を実行することによって、バーコードが生成され印刷されます。



<印字結果サンプル>



3.6 二次元コード印刷機能（二次元コードフォント）

本ドライバがサポートする（デバイスフォントを用いて QR コード・PDF417 の印刷を実現する機能です。

QR コード・PDF417 の印刷は、2次元コードフォント（“QR_CNTL” , “PDF417” , “DATA1” , “DATA2” , “DATA3”）および、コントロールフォント（“ESC_FONT” , “ESC_FONT_KANJI”）を組み合わせ使用します。

各フォントは、以下の役割を持ちます。

フォント名	機能	詳細	備考
QR_CNTL	QR コード コマンド設定	二次元コード印刷用の各コマンドを出力します。	
PDF417	PDF417 コマンド設定	PDF417 印刷用の各コマンドを出力します。	
DATA1	データ設定	¥x20～¥x7F を ¥x00～¥x5F へ置換えます。	¥x00～ ¥xFF の 出力が可 能
DATA2		¥x20～¥x7F を ¥x60～¥xBF へ置換えます。	
DATA3		¥x20～¥x5F を ¥xC0～¥xFF へ置換えます。	
ESC_FONT		¥x20～¥x7F を置き換えしないで出力します。	¥x20～ ¥x7F の出力が 可能
ESC_FONT_KANJI ※1		¥x8140～¥x9FFC、¥xE040～¥xEAA4 の範囲 で、シフト JIS に登録されている漢字を出力しま す。	

※ 1 QR コードのみ（PDF417 では、漢字は使用できません。）

3.6.1 二次元コードコマンド設定フォント

● QRコード設定フォント(QR_CNTL)

下表は QR_CNTL フォントの設定内容です。

“QR_CNTL” フォント使用時 の文字	機 能	ドライバの出力する コード
0	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x00
1	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x01
2	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x02
3	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x03
4	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x04
5	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x05
6	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x06
7	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x07
8	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x08
9	各 QR コード設定コマンドのパラメータ用	¥x09
M	QR コードのモデル設定	¥x1b¥x1dyS0
M1	QR コードのモデル設定：モデル 1	¥x1b¥x1dyS0¥x01
M2	QR コードのモデル設定：モデル 2	¥x1b¥x1dyS0¥x02
E	誤り訂正レベル設定	¥x1b¥x1dyS1
* E1(E0)	誤り訂正レベル L (誤り訂正率 7%)	¥x1b¥x1dyS1¥x00
* Em(E1)	誤り訂正レベル M (誤り訂正率 15%)	¥x1b¥x1dyS1¥x01
* Eq(E2)	誤り訂正レベル Q (誤り訂正率 25%)	¥x1b¥x1dyS1¥x02
* Eh(E3)	誤り訂正レベル H (誤り訂正率 30%)	¥x1b¥x1dyS1¥x03
S1~S8	モジュールサイズ設定 (単位：ドット)	¥x1b¥x1dyS2(¥x01~08)
A0	QR コードデータ設定 (データ自動解析)	¥x1b¥x1dyD1¥x00
B	QR コードデータ設定 (データマニュアル解析)	¥x1b¥x1dyD2
P	QR コードの印字	¥x1b¥x1dyP

*) 誤り訂正レベルは () 内の設定方法でも可能です。

●PDF417 設定フォント(PDF417)

以下表に PDF417 フォントの設定内容を示します。

“PDF417”フォント 使用時の文字	機 能	ドライバの出力する コード
0	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x00
1	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x01
2	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x02
3	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x03
4	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x04
5	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x05
6	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x06
7	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x07
8	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x08
9	各 PDF417 設定コマンドのパラメータ用	¥x09
S	PDF417 バーコードサイズの設定	¥x1b¥x1dxS0
E	PDF417 セキュリティレベル (ECC) の設定	¥x1b¥x1dxS1
M	PDF417 モジュールの X 方向サイズの設定	¥x1b¥x1dxS2
A	PDF417 モジュールのアスペクト比の設定	¥x1b¥x1dxS3
D	PDF417 バーコードデータの設定	¥x1b¥x1dxD
P	PDF417 バーコードの印字	¥x1b¥x1dxP
I	PDF417 バーコードの展開情報取得	¥x1b¥x1dxI

3.6.2 二次元コード データ設定フォント (DATA1、DATA2、DATA3、ESC_FONT)

下表は DATA1、DATA2、DATA3、ESC_FONT フォントの設定内容です。

入力データ アプリケーション(Word、VB、etc) でユーザーが指定する文字情報		出力データ 実際にプリンタドライバがプリンタに出力する文字コード			
文字	文字コード	ESC_FONT	DATA1	DATA2	DATA3
空白	¥ x20	¥ x20	¥ x00	¥ x60	¥ xC0
!	¥ x21	¥ x21	¥ x01	¥ x61	¥ xC1
“	¥ x22	¥ x22	¥ x02	¥ x62	¥ xC2
#	¥ x23	¥ x23	¥ x03	¥ x63	¥ xC3
\$	¥ x24	¥ x24	¥ x04	¥ x64	¥ xC4
%	¥ x25	¥ x25	¥ x05	¥ x65	¥ xC5
&	¥ x26	¥ x26	¥ x06	¥ x66	¥ xC6
‘	¥ x27	¥ x27	¥ x07	¥ x67	¥ xC7
(¥ x28	¥ x28	¥ x08	¥ x68	¥ xC8
)	¥ x29	¥ x29	¥ x09	¥ x69	¥ xC9
*	¥ x2A	¥ x2A	¥ x0A	¥ x6A	¥ xCA
+	¥ x2B	¥ x2B	¥ x0B	¥ x6B	¥ xCB
,	¥ x2C	¥ x2C	¥ x0C	¥ x6C	¥ xCC
-	¥ x2D	¥ x2D	¥ x0D	¥ x6D	¥ xCD
.	¥ x2E	¥ x2E	¥ x0E	¥ x6E	¥ xCE
/	¥ x2F	¥ x2F	¥ x0F	¥ x6F	¥ xCF
0	¥ x30	¥ x30	¥ x10	¥ x70	¥ xD0
1	¥ x31	¥ x31	¥ x11	¥ x71	¥ xD1
2	¥ x32	¥ x32	¥ x12	¥ x72	¥ xD2
3	¥ x33	¥ x33	¥ x13	¥ x73	¥ xD3
4	¥ x34	¥ x34	¥ x14	¥ x74	¥ xD4
5	¥ x35	¥ x35	¥ x15	¥ x75	¥ xD5
6	¥ x36	¥ x36	¥ x16	¥ x76	¥ xD6
7	¥ x37	¥ x37	¥ x17	¥ x77	¥ xD7
8	¥ x38	¥ x38	¥ x18	¥ x78	¥ xD8
9	¥ x39	¥ x39	¥ x19	¥ x79	¥ xD9
:	¥ x3A	¥ x3A	¥ x1A	¥ x7A	¥ xDA
;	¥ x3B	¥ x3B	¥ x1B	¥ x7B	¥ xDB
<	¥ x3C	¥ x3C	¥ x1C	¥ x7C	¥ xDC
=	¥ x3D	¥ x3D	¥ x1D	¥ x7D	¥ xDD

入力データ アプリケーション(Word、VB、etc) でユーザーが指定する文字情報		出力データ 実際にプリンタドライバがプリンタに出力する文字コード			
文字	文字コード	ESC_FONT	DATA1	DATA2	DATA3
>	¥ x3E	¥ x3E	¥ x1E	¥ x7E	¥ xDE
?	¥ x3F	¥ x3F	¥ x1F	¥ x7F	¥ xDF
@	¥ x40	¥ x40	¥ x20	¥ x80	¥ xE0
A	¥ x41	¥ x41	¥ x21	¥ x81	¥ xE1
B	¥ x42	¥ x42	¥ x22	¥ x82	¥ xE2
C	¥ x43	¥ x43	¥ x23	¥ x83	¥ xE3
D	¥ x44	¥ x44	¥ x24	¥ x84	¥ xE4
E	¥ x45	¥ x45	¥ x25	¥ x85	¥ xE5
F	¥ x46	¥ x46	¥ x26	¥ x86	¥ xE6
G	¥ x47	¥ x47	¥ x27	¥ x87	¥ xE7
H	¥ x48	¥ x48	¥ x28	¥ x88	¥ xE8
I	¥ x49	¥ x49	¥ x29	¥ x89	¥ xE9
J	¥ x4A	¥ x4A	¥ x2A	¥ x8A	¥ xEA
K	¥ x4B	¥ x4B	¥ x2B	¥ x8B	¥ xEB
L	¥ x4C	¥ x4C	¥ x2C	¥ x8C	¥ xEC
M	¥ x4D	¥ x4D	¥ x2D	¥ x8D	¥ xED
N	¥ x4E	¥ x4E	¥ x2E	¥ x8E	¥ xEE
O	¥ x4F	¥ x4F	¥ x2F	¥ x8F	¥ xEF
P	¥ x50	¥ x50	¥ x30	¥ x90	¥ xF0
Q	¥ x51	¥ x51	¥ x31	¥ x91	¥ xF1
R	¥ x52	¥ x52	¥ x32	¥ x92	¥ xF2
S	¥ x53	¥ x53	¥ x33	¥ x93	¥ xF3
T	¥ x54	¥ x54	¥ x34	¥ x94	¥ xF4
U	¥ x55	¥ x55	¥ x35	¥ x95	¥ xF5
V	¥ x56	¥ x56	¥ x36	¥ x96	¥ xF6
W	¥ x57	¥ x57	¥ x37	¥ x97	¥ xF7
X	¥ x58	¥ x58	¥ x38	¥ x98	¥ xF8
Y	¥ x59	¥ x59	¥ x39	¥ x99	¥ xF9
Z	¥ x5A	¥ x5A	¥ x3A	¥ x9A	¥ xFA
[¥ x5B	¥ x5B	¥ x3B	¥ x9B	¥ xFB
¥	¥ x5C	¥ x5C	¥ x3C	¥ x9C	¥ xFC
]	¥ x5D	¥ x5D	¥ x3D	¥ x9D	¥ xFD
^	¥ x5E	¥ x5E	¥ x3E	¥ x9E	¥ xFE

入力データ アプリケーション(Word、VB、etc) でユーザーが指定する文字情報		出力データ 実際にプリンタドライバがプリンタに出力する文字コード			
文字	文字コード	ESC_FONT	DATA1	DATA2	DATA3
_	¥ x5F	¥ x5F	¥ x3F	¥ x9F	¥ xFF
`	¥ x60	¥ x60	¥ x40	¥ xA0	-
a	¥ x61	¥ x61	¥ x41	¥ xA1	-
b	¥ x62	¥ x62	¥ x42	¥ xA2	-
c	¥ x63	¥ x63	¥ x43	¥ xA3	-
d	¥ x64	¥ x64	¥ x44	¥ xA4	-
e	¥ x65	¥ x65	¥ x45	¥ xA5	-
f	¥ x66	¥ x66	¥ x46	¥ xA6	-
g	¥ x67	¥ x67	¥ x47	¥ xA7	-
h	¥ x68	¥ x68	¥ x48	¥ xA8	-
i	¥ x69	¥ x69	¥ x49	¥ xA9	-
j	¥ x6A	¥ x6A	¥ x4A	¥ xAA	-
k	¥ x6B	¥ x6B	¥ x4B	¥ xAB	-
l	¥ x6C	¥ x6C	¥ x4C	¥ xAC	-
m	¥ x6D	¥ x6D	¥ x4D	¥ xAD	-
n	¥ x6E	¥ x6E	¥ x4E	¥ xAE	-
o	¥ x6F	¥ x6F	¥ x4F	¥ xAF	-
p	¥ x70	¥ x70	¥ x50	¥ xB0	-
q	¥ x71	¥ x71	¥ x51	¥ xB1	-
r	¥ x72	¥ x72	¥ x52	¥ xB2	-
s	¥ x73	¥ x73	¥ x53	¥ xB3	-
t	¥ x74	¥ x74	¥ x54	¥ xB4	-
u	¥ x75	¥ x75	¥ x55	¥ xB5	-
v	¥ x76	¥ x76	¥ x56	¥ xB6	-
w	¥ x77	¥ x77	¥ x57	¥ xB7	-
x	¥ x78	¥ x78	¥ x58	¥ xB8	-
y	¥ x79	¥ x79	¥ x59	¥ xB9	-
z	¥ x7A	¥ x7A	¥ x5A	¥ xBA	-
{	¥ x7B	¥ x7B	¥ x5B	¥ xBB	-
	¥ x7C	¥ x7C	¥ x5C	¥ xBC	-
}	¥ x7D	¥ x7D	¥ x5D	¥ xBD	-
~	¥ x7E	¥ x7E	¥ x5E	¥ xBE	-
.	¥ x7F	¥ x7F	¥ x5F	¥ xBF	-

3.6.3 二次元コードフォント使用方法

QRコード・PDF417フォントを使用した場合の二次元コードのデータは、500バイトまで指定可能です。（500バイトには、入力データ種別および、区切り記号も含まれます。）

以下に、二次元コードフォントを使用した Visual Basic のサンプルプログラムを示します。

QRコード印刷 - サンプル1（QRコードデータ設定：データマニュアル解析設定の場合）

```

Private Sub Command1_Click()
    Printer.Font.Name = "Printer 17cpi Tall"
    Printer.Print "QR Code Test Print for VB 6.0"

    Printer.Font.Name = "Printer 17cpi"
    Printer.Print
    Printer.Print "DATA:"
    Printer.Print "http://www.star-m.jp/"
    Printer.Print
    Printer.Print "QR code:";

    Printer.Font.Name = "QR_CNTL"      ' QR_CNTL フォント設定
    Printer.Print "M2";                ' バーコードのモデル設定
    Printer.Print "Em";                ' 誤り訂正レベルの設定 (誤り訂正率 15%)
    Printer.Print "S3"                 ' モジュールサイズの設定 (モジュールサイズ3ドット)

    Printer.Print "B1";                ' バーコードデータの設定(マニュアル解析)+ブロック数
    Printer.Print "2";                 ' 英数字 (データ種)

    Printer.Font.Name = "DATA1"        ' DATA1 = 0x0000 - 0x005F
    Printer.Print Chr(&H35);           ' 0x35→0x15, 0x20→0x0 に変換
    Printer.Print Chr(&H20);           ' バイト数: 21(0x15)+0(0x0)=21byte

    Printer.Font.Name = "ESC_FONT"     ' ESC_FONT = 0x0020 - 0x007F
    Printer.Print "http://www.star-m.jp/"; ' バーコードデータ (21byte)

    Printer.Font.Name = "QR_CNTL"      ' QR_CNTL フォント設定
    Printer.Print "P"                  ' バーコードデータの印字

    Printer.EndDoc
End Sub

```



QRコードデータ設定をデータマニュアル解析に設定した場合は、必ずブロック数と入力データ種を設定してください。

設定方法の詳細は、別冊の「STAR Line Mode コマンド仕様書」を参照してください。

QRコード印刷 - サンプル 2 (QRコードデータ設定 : データ自動解析設定の場合)

```

Private Sub Command2_Click()
    Printer.Font.Name = "Printer 17cpi Tall"
    Printer.Print "QR Code Test Print for VB 6.0"

    Printer.Font.Name = "Printer 17cpi"
    Printer.Print
    Printer.Print "DATA:"
    Printer.Print "http://www.star-m.jp/"
    Printer.Print
    Printer.Print "QR code:";

    Printer.Font.Name = "QR_CNTL"      ' QR_CNTL フォント設定
    Printer.Print "M1";                ' バーコードのモデル設定
    Printer.Print "Eq";                ' 誤り訂正レベルの設定 (誤り訂正率 25%)
    Printer.Print "S7"                 ' モジュールサイズの設定 (モジュールサイズ 7 ドット)

    Printer.Print "A0";                ' バーコードデータの設定(自動解析)

    Printer.Font.Name = "DATA1"        ' DATA1 = 0x0000 - 0x005F
    Printer.Print Chr(&H35);           ' 0x35→0x15, 0x20→0x0 に変換
    Printer.Print Chr(&H20);           ' バイト数: 21(0x15)+0(0x0)=21byte

    Printer.Font.Name = "ESC_FONT"     ' ESC_FONT = 0x0020 - 0x007F
    Printer.Print "http://www.star-m.jp/"; ' バーコードデータ (21byte)

    Printer.Font.Name = "QR_CNTL"     ' QR_CNTL フォント設定
    Printer.Print "P"                  ' バーコードデータの印字

    Printer.EndDoc
    End Sub

```

QRコード印刷 - サンプル 3 (QRコードデータ設定 : データ自動解析設定の場合)

```

Private Sub Command3_Click()
  Printer.Font.Name = "Printer 17cpi Tall
  Printer.Print "QR Code Test Print for VB 6.0"

  Printer.Font.Name = "Printer 17cpi
  Printer.Print
  Printer.Print "DATA:"
  Printer.Font.Name ="漢字全角 8cpi"
  Printer.Print "スター精密株式会社"
  Printer.Print
  Printer.Font.Name = "Printer 17cpi"
  Printer.Print "QR code:";

  Printer.Font.Name = "QR_CNTL"           ' QR_CNTL フォント設定
  Printer.Print "M2";                     ' バーコードのモデル設定
  Printer.Print "E1";                     ' 誤り訂正レベルの設定 (誤り訂正率 7%)
  Printer.Print "S6"                     ' モジュールサイズの設定(モジュールサイズ 6 ドット)

  Printer.Print "A0";                     ' バーコードデータの設定 (データ自動解析)

  Printer.Font.Name = "DATA1"             ' DATA1 = 0x0000 - 0x005F
  Printer.Print Chr(&H32);                 ' 0x32→0x12, 0x20→0x0 に変換
  Printer.Print Chr(&H20);                 ' バイト数: 18(0x12)+0(0x0)=18byte

  Printer.Font.Name = "ESC_FONT_KANJI"    ' ESC_FONT_KANJI = シフト JIS
  Printer.Print "スター精密株式会社";     ' バーコードデータ (18byte)

  Printer.Font.Name = "QR_CNTL"           ' QR_CNTL フォント設定
  Printer.Print "P"                       ' バーコードデータの印字

  Printer.EndDoc
  End Sub

```

PDF417 印刷 - サンプル 1

```
Private Sub Command4_Click()
  Printer.Font.Name = "Printer 17cpi Tall"
  Printer.Print "PDF417 Test Print for VB 6.0"

  Printer.Font.Name = "Printer 17cpi"
  Printer.Print
  Printer.Print "DATA:"
  Printer.Print "1234567890"
  Printer.Print
  Printer.Print "PDF417: ";

  Printer.Font.Name = "PDF417"

  Printer.Print "S023";           ' バーコードサイズ設定
  Printer.Print "E3";           ' ECC レベルの設定
  Printer.Print "M3"           ' モジュールの X 方向サイズの設定
  Printer.Print "A3"           ' モジュールのアスペクト比の設定
  Printer.Print "D";           ' バーコードデータの設定

  Printer.Font.Name = "DATA1"    ' DATA1 = 0x0000 - 0x005F
  Printer.Print Chr(&H2A);      ' バーコードデータのバイト数
  Printer.Print Chr(&H20);

  Printer.Font.Name = "ESC_FONT" ' ESC_FONT = 0x0020 - 0x007F
  Printer.Print "1234567890";

  Printer.Font.Name = "PDF417"
  Printer.Print "P"             ' バーコードデータの印字

  Printer.EndDoc
End Sub
```


PDF417 印刷 - サンプル 2

```
Private Sub Command5_Click()
  Printer.Font.Name = "Printer 17cpi Tall"
  Printer.Print "PDF417 Test Print for VB 6.0"

  Printer.Font.Name = "Printer 17cpi"
  Printer.Print
  Printer.Print "DATA:"
  Printer.Print "http://star-m.jp/"
  Printer.Print
  Printer.Print "PDF417:";

  Printer.Font.Name = "PDF417"

  Printer.Print "S023";           ' バーコードサイズ設定
  Printer.Print "E3";           ' ECC レベルの設定
  Printer.Print "M3"           ' モジュールの X 方向サイズの設定
  Printer.Print "A3"           ' モジュールのアスペクト比の設定

  Printer.Print "D";           ' バーコードデータの設定

  Printer.Font.Name = "DATA1"    ' DATA1 = 0x0000 - 0x005F
  Printer.Print Chr(&H31);      ' バーコードデータのバイト数
  Printer.Print Chr(&H20);

  Printer.Font.Name = "ESC_FONT" ' ESC_FONT = 0x0020 - 0x007F
  Printer.Print "http://star-m.jp/";

  Printer.Font.Name = "PDF417"

  Printer.Print "P"           ' バーコードデータの印字

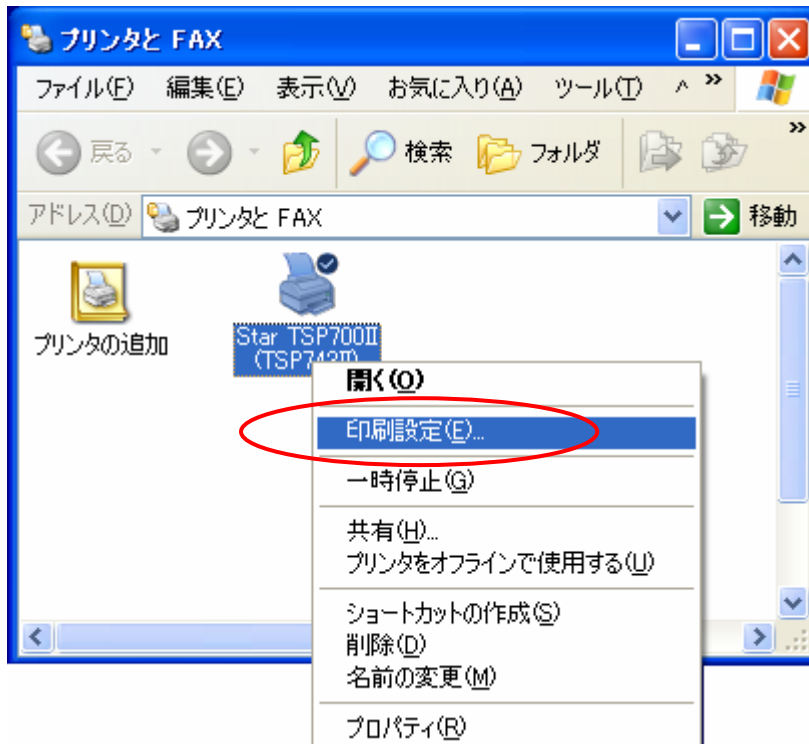
  Printer.EndDoc
End Sub
```

3.7 印刷色の設定

本ドライバは、2色のカラー印刷に対応しています。

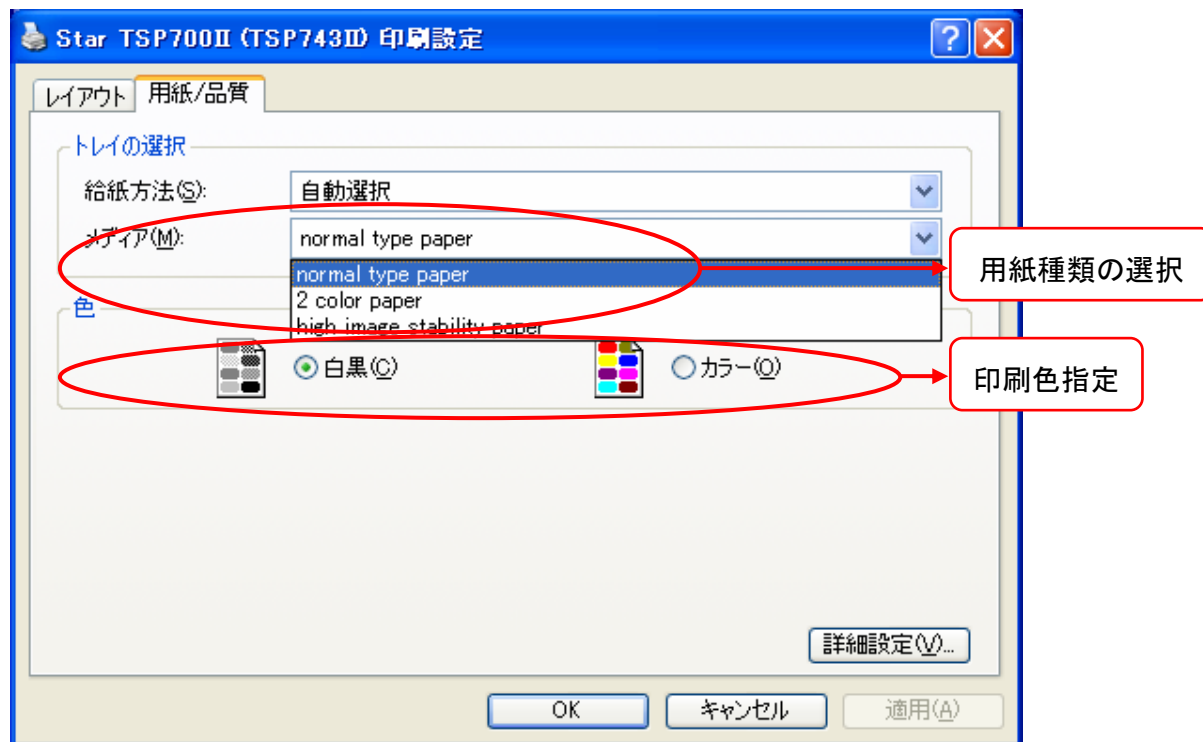
2色印刷を行う際は以下の内容を参照し、設定してください。

- ① Windows のスタートメニューから「プリンタと F A X」を選択し、「プリンタと F A X」のフォルダを開きます。
- ② 「Star TSP700 II (TSP743 II)」の表示を右クリックし、「印刷設定」を選択します。



- ③ 印刷設定画面が開きますので、「用紙/品質」タブをクリックします。
指定する印刷色に合った用紙の種類を選択してください。

用紙種類および印刷色の設定画面



- 通常の黒印刷を行う場合
通常のサーマル紙を使って黒印刷を行う場合は、以下のような選択をしてください。
メディア：“normal type paper”を選択
色：“白黒”のチェックボタンを選択
- カラー印刷を行う場合
2色サーマル紙を使ってカラー印刷を行う場合は、以下のような選択をしてください。
メディア：“2 color paper”を選択
色：“カラー”のチェックボタンを選択
- 特殊用紙への印刷を行う場合
通常の黒印刷よりも濃い黒印刷が必要な時、または一部高保存紙のような特殊用紙を使用して印刷を行う場合は、は以下のような選択をしてください。
メディア：“high image stability paper”を選択
色：“白黒”のチェックボタンを選択

4. Windows 2000/XP “Star 設定ユーティリティ”

“Star 設定ユーティリティ” は、印刷に関するさまざまな設定を行うためのものです。

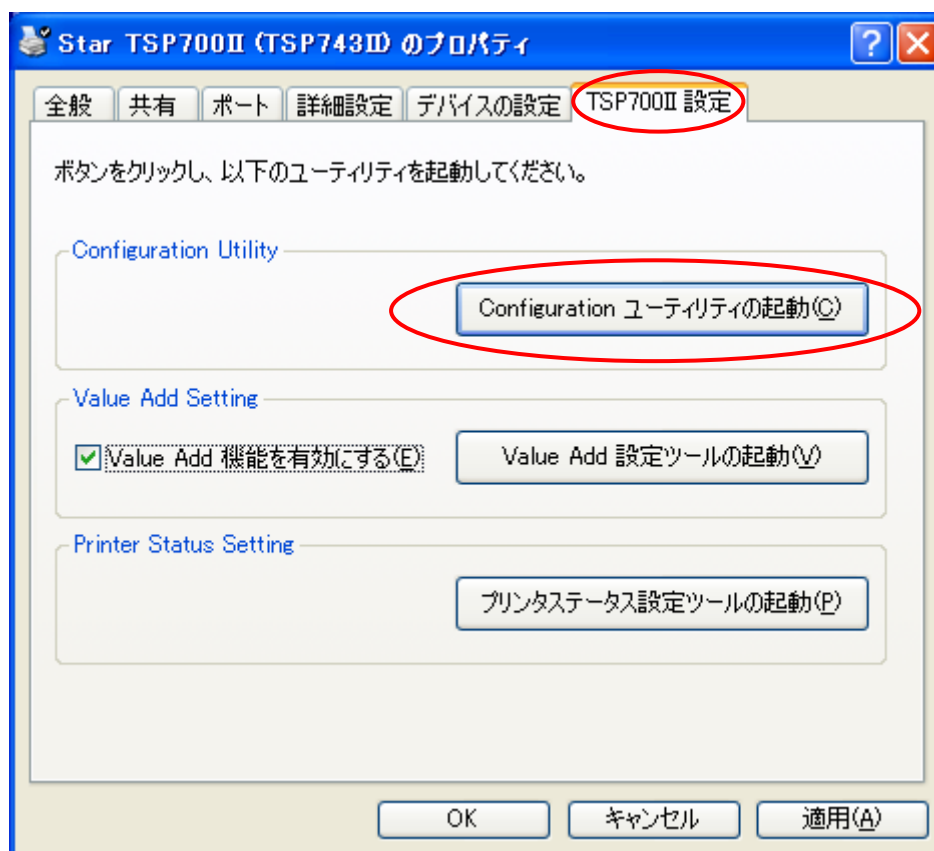
“Star 設定ユーティリティ” には『スターラインモード』と『ESC/POS モード』があり、用途に合わせ選択し、設定を行うことができます。

『スターラインモード』と『ESC/POS モード』の切替はディップスイッチによって行ってください。ディップスイッチに関する詳細は「プリンタハードウェアマニュアル」をご参照ください。

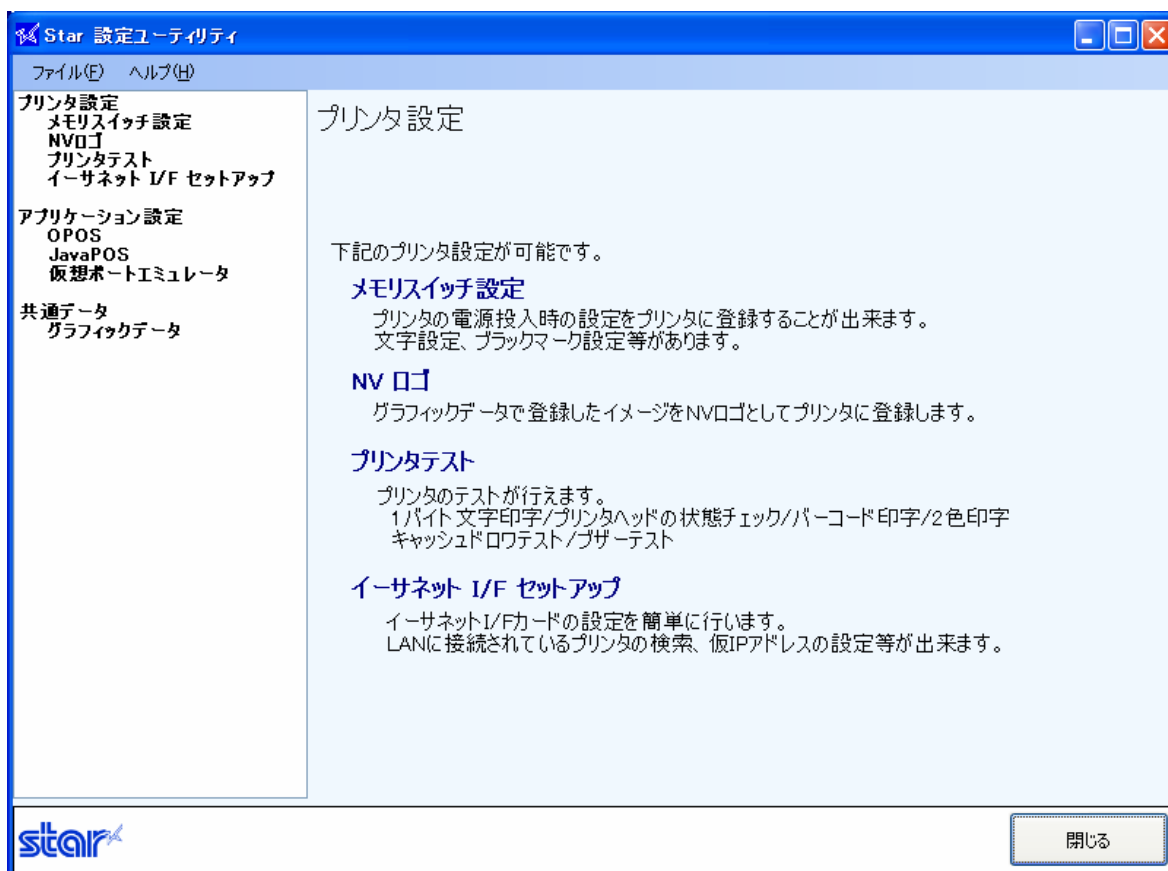
以下の方法で、“プリンタ 設定ユーティリティ” の画面を開いてください。

Windows のスタートメニューから「すべてのプログラム」－「StarMicronics」－「TSP700 II」－「ユーティリティ」－「TSP700 II 設定ユーティリティ」を選択する、または下記①～④の手順を行います。

- ① Windows のスタートメニューから「プリンタと F A X」を選択し、「プリンタと F A X」のフォルダを開きます。
- ② 「Star TSP700 II (TSP743 II)」の表示を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- ③ プロパティ画面が開きますので「TSP700 II 設定」タブをクリックします。
- ④ [Configuration 設定ユーティリティの起動(C)] ボタンをクリックします。



- ⑤ Star 設定ユーティリティの画面が表示されます。

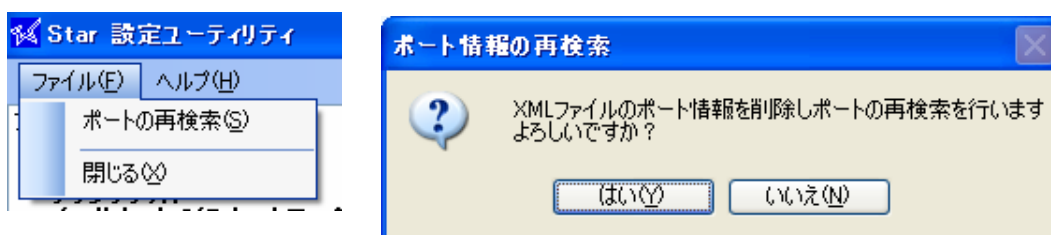


■ メニューバー

- (1) ファイル

「ファイル」－「ポートの再検索」でポートを再検索します。

再検索を行う場合は[はい]ボタンをクリックします。



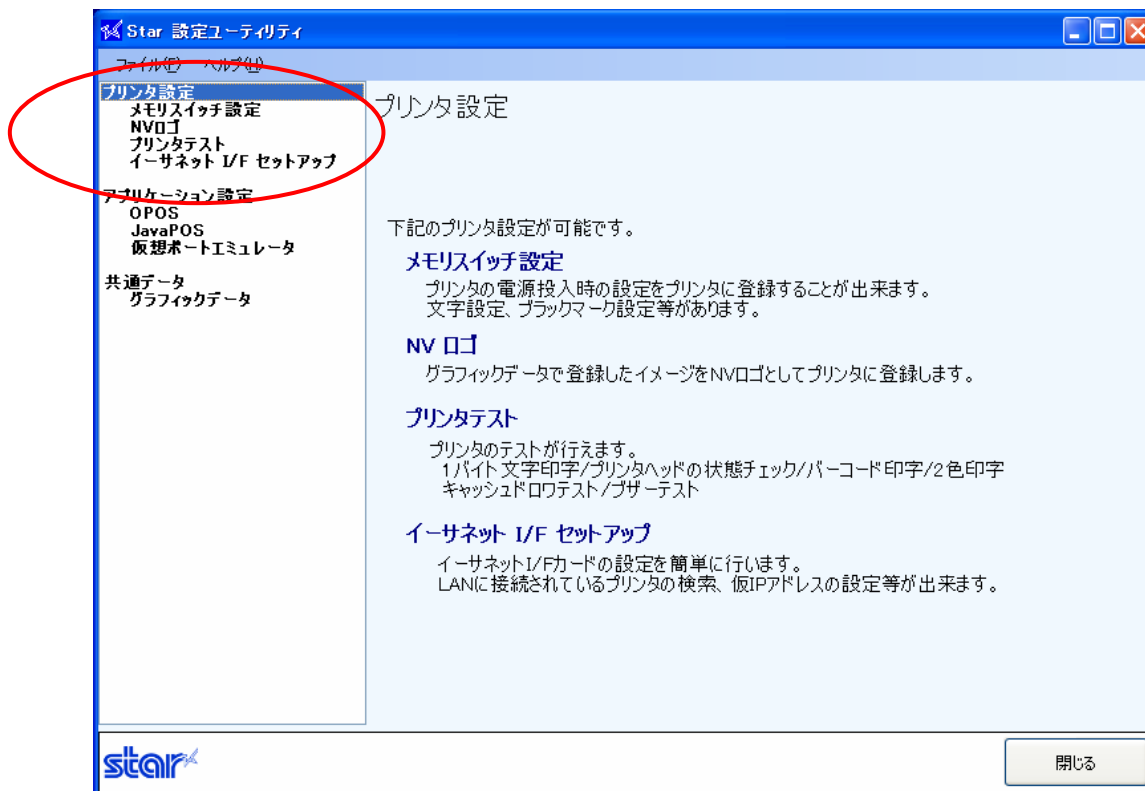
- (1) ヘルプ

「ヘルプ」－「バージョン」で Star 設定ユーティリティのバージョンを表示します。



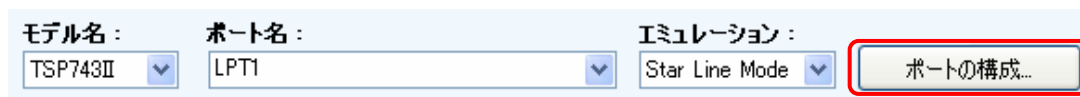
4.1 プリンタ設定

メモリスイッチ設定、NVロゴの設定、プリンタテストおよびイーサネット I/F セットアップを行うことができます。

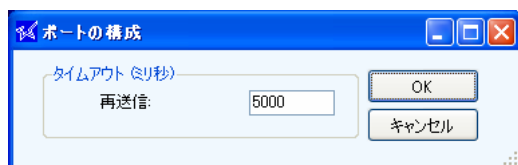


いずれの項目を選択した場合も画面上部に、接続されているプリンタ名、ポート名、エミュレーション、[ポートの構成]ボタンが表示されます。

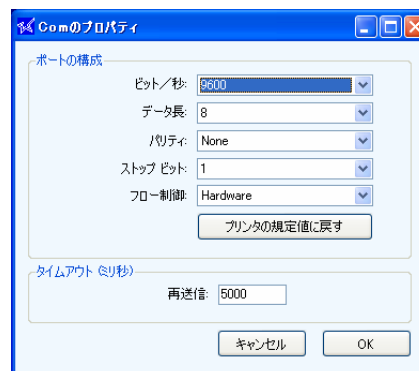
メモ エミュレーションは「Star Line Mode」がデフォルトで表示されます。「ESC/POS Mode」時はプルダウンメニューより手動で選択してください。



[ポートの構成]ボタンをクリックしますと、使用されているポートによる設定画面が表示されますので、設定後[OK]ボタンをクリックします。



<LPT >

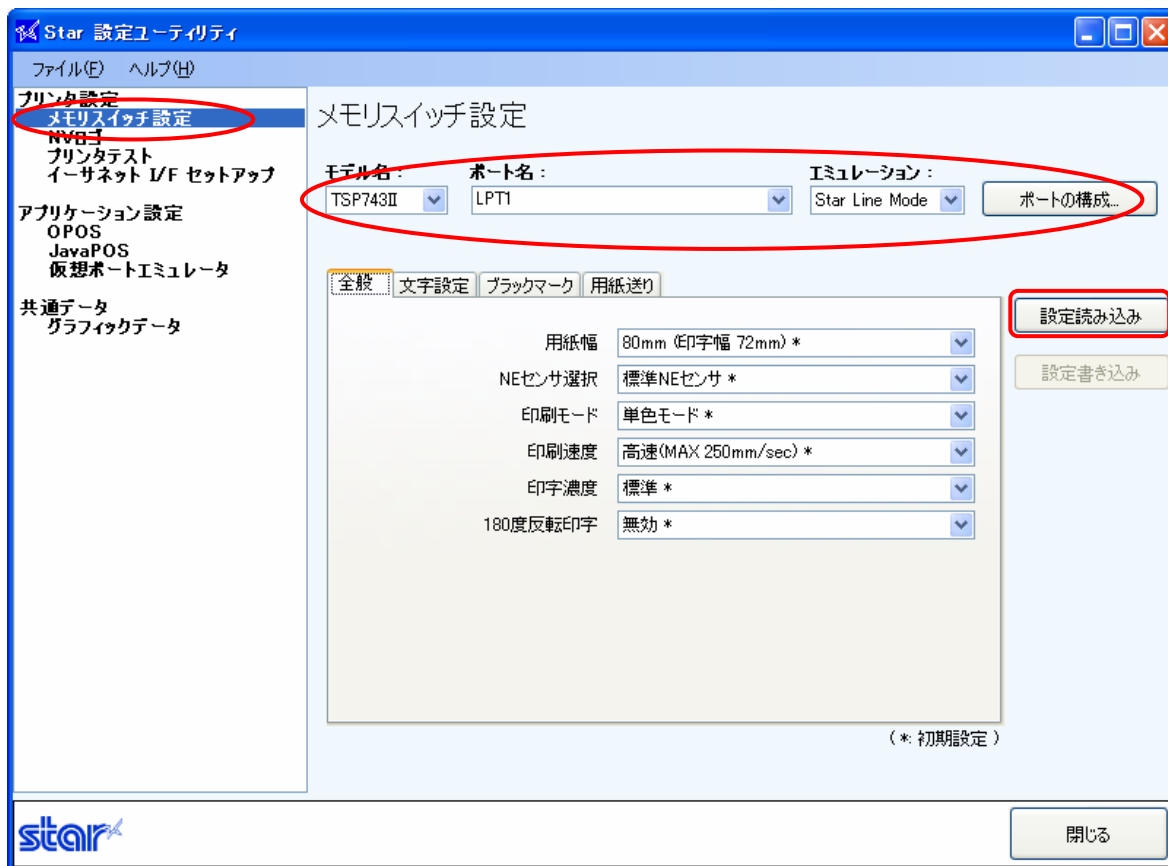


<COM >

4.1.1 メモリスイッチ設定

画面左側の「メモリスイッチ設定」タブをクリックしてください。

[設定読み込み]ボタンをクリックしますと、プリンタの現在のメモリスイッチの設定を読み込んで表示します。



* が付いている設定値は工場出荷時の初期設定です。

注記：①読み込みを行う前に、接続ポートとエミュレーションの設定がプリンタと合っているかご確認ください。
 ②仮想シリアルポートは、メモリスイッチ設定にご利用できません。
 ③ポートをプリンタクラスのUSBに設定してある場合、メモリスイッチの現状の設定を読み込むことはできません。
 現状の設定値ではなく、工場出荷時の設定が表示されます。
 変更後の設定をプリンタへ書き込むことは可能です。

設定を変更する場合は、変更したい箇所のプルダウンメニューより項目を選択後、[設定書き込み]ボタンをクリックします。

変更したメモリスイッチの内容がプリンタに書き込まれます。

メモリスイッチ設定

モデル名: TSP743II ポート名: LPT1 エミュレーション: Star Line Mode ボートの構成...

全般 文字設定 ブラックマーク 用紙送り

用紙幅: 58mm (印字幅 50.8mm)

NEセンサ選択: 標準NEセンサ *

印刷モード: 単色モード *

印刷速度: 高速(MAX 250mm/sec) *

印字濃度: 70%

180度反転印字: 無効 *


設定読み込み

設定書き込み

(*: 初期設定)

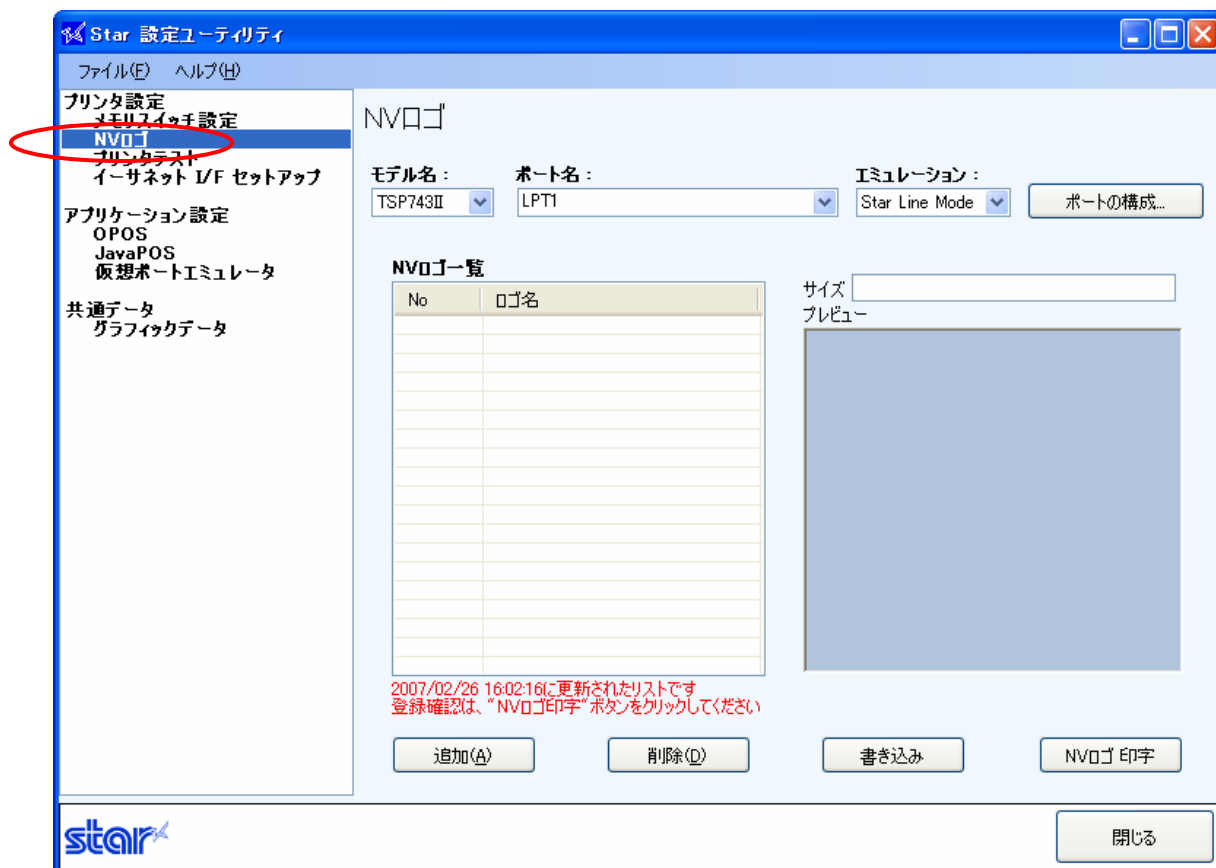
閉じる

注記: [設定書き込み]ボタンをクリックすることで変更内容が有効になります。
設定変更後は必ず[設定書き込み]ボタンをクリックしてください。

 メモリスイッチの機能および設定方法の詳細につきましては、別冊の「製品仕様書」をご参照ください。

4.1.2 NVロゴ

画面左側の「NVロゴ」タブをクリックしてください。



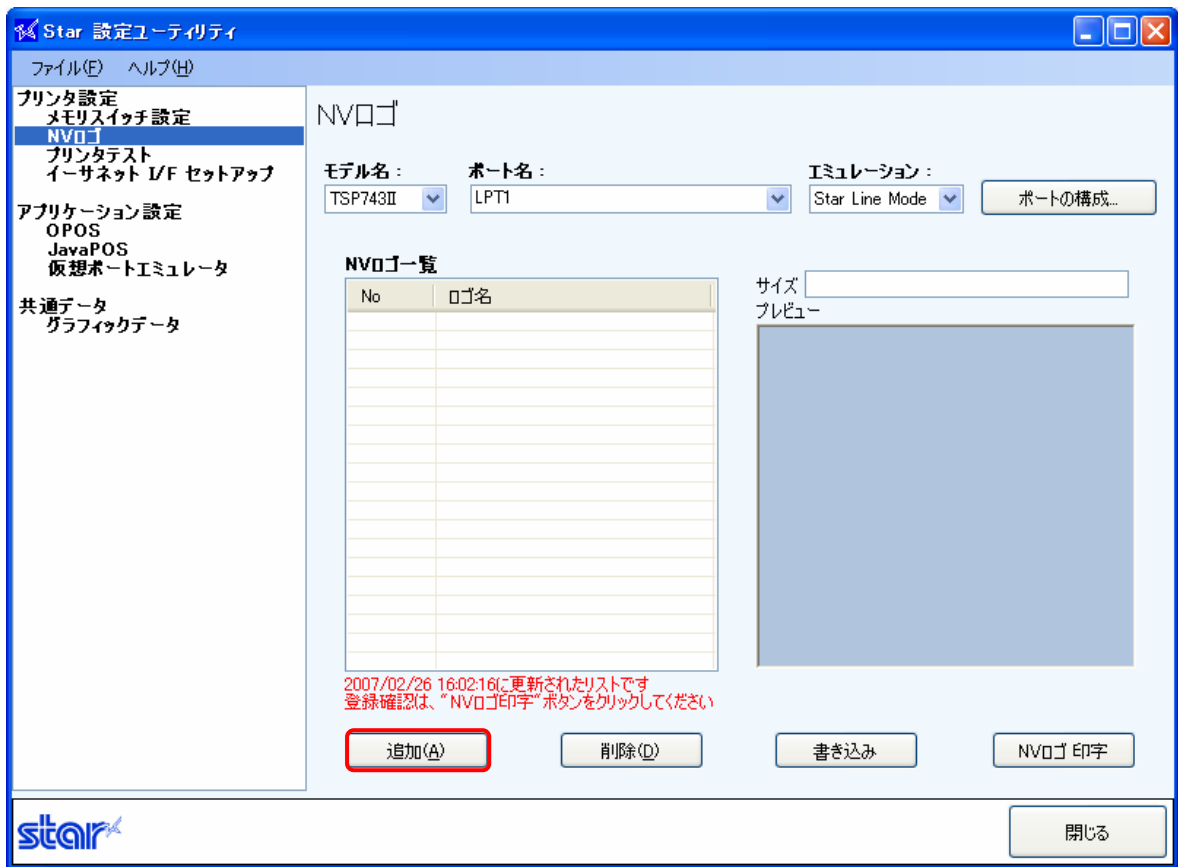
「NVロゴ」はあらかじめ「グラフィックデータ」項目の一覧内に登録されているデータから選択したイメージデータをプリンタに登録し、ページの先頭や末尾に印刷するための機能です。

この機能は、NVロゴをプリンタに登録するためのツールであり、NVロゴの印刷データへの設定については、プリンタドライバから行ってください。

グラフィックデータのプリンタへの書き込みは次ページの手順に従って、行ってください。

注記： 仮想シリアルポートはNVロゴをご利用できません

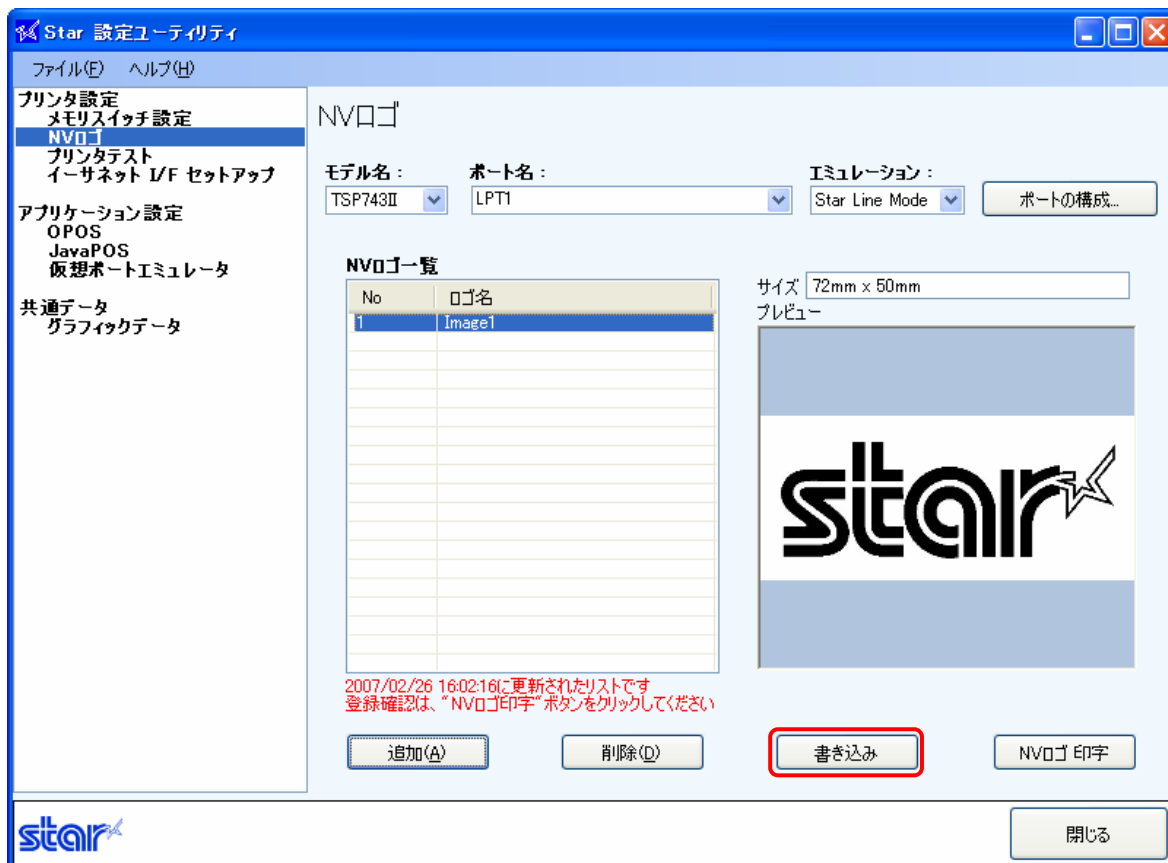
- ① [追加]ボタンをクリックします。



- ② 登録するグラフィックデータを選択し、 [適用]ボタンをクリックします。



- ③ 選択したグラフィックデータがNVロゴ一覧に入ります。
 登録したグラフィックデータは[NVロゴ印字]で確認することができます。
 登録するグラフィックデータが全てNVロゴ一覧に準備できた時点で[書き込み]ボタンをクリックします。

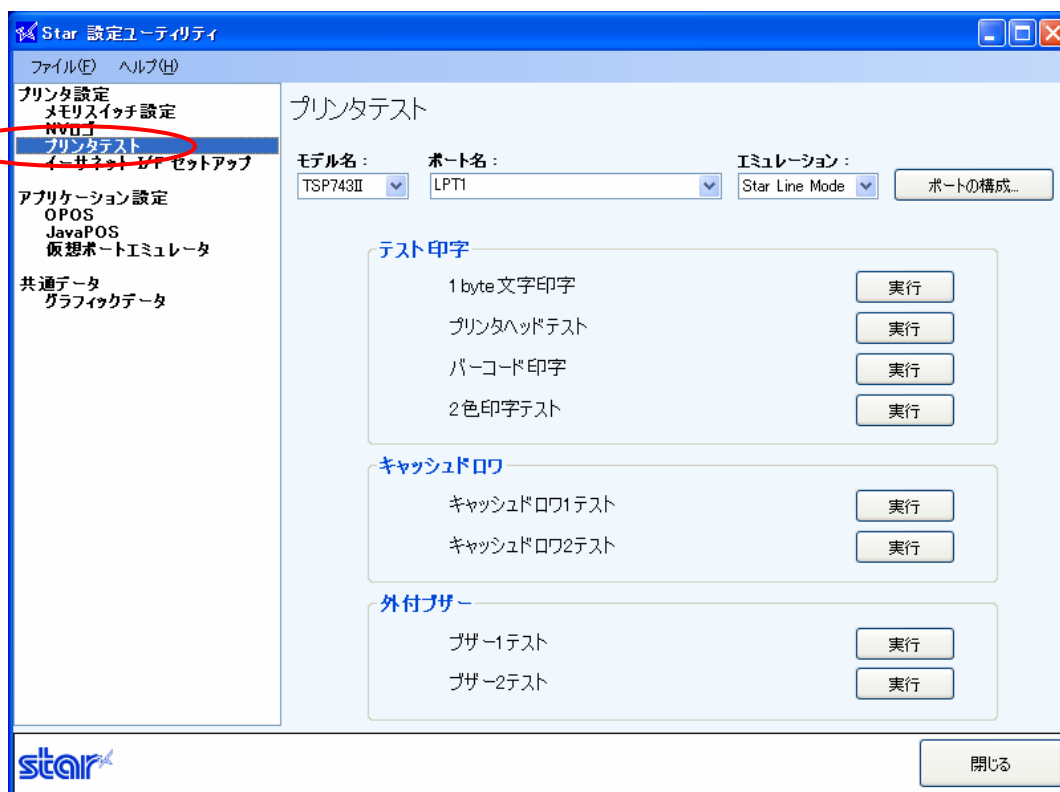


 NVロゴの記憶容量は508Kバイトです。

注記：[書き込み]は登録するグラフィックデータが全てNVロゴ一覧に準備できてから行ってください。
 [書き込み]の実行によって、ロゴリストに表示されているデータがプリンタのNVに上書きされます。
 前回プリンタに登録されていたデータは全て消去されます。

4.1.3 プリンタテスト

プリンタテストは、プリンタの印刷機能を実行し、いくつかのサンプルを印刷します。また周辺機器が正しく可動するか確認することができます。画面左側の「プリンタテスト」タブをクリックしてください。



注記： 仮想シリアルポートはプリンタテストをご利用できません

テスト印字

■ 1byte 文字印字

[実行]ボタンをクリックしますと、1 byte キャラクターテーブルが印刷されます。

■ プリンタヘッドテスト

[実行]ボタンをクリックしますと、複数のラインから成る黒ベタ印刷を実行し、プリントヘッドのテストを行います。

このサンプルの黒ベタ部分に白い縦のラインが入る場合は、プリントヘッドを清掃してください。

ヘッドの清掃はCD-ROM内の「ハードウェアマニュアル」を参照し、行ってください。また、ヘッドの清掃を行っても印刷結果が改善されない場合は、販売店までお問い合わせください。

■ バーコード印字

[バーコード印字]ボタンをクリックしますと、サポートしている全てのバーコードが印字されます。

■ 2色印字テスト

2色のサンプル印字を行います。



2色印字を行う場合は、2色タイプ用の紙がセットされていることをご確認ください。この用紙が使用されていない場合は、モノクロ印字になります。

キャッシュドロワ

■ キャッシュドロワ1テスト

[実行]ボタンをクリックすることで、キャッシュドロワ1が正しく可動しているかを確認することができます。

■ キャッシュドロワ2テスト

[実行]ボタンをクリックすることで、キャッシュドロワ2が正しく可動しているかを確認することができます。

外付ブザー

■ ブザー1テスト

[実行]ボタンをクリックすることで、ブザー1が正しく可動しているかを確認することができます。

■ ブザー2テスト

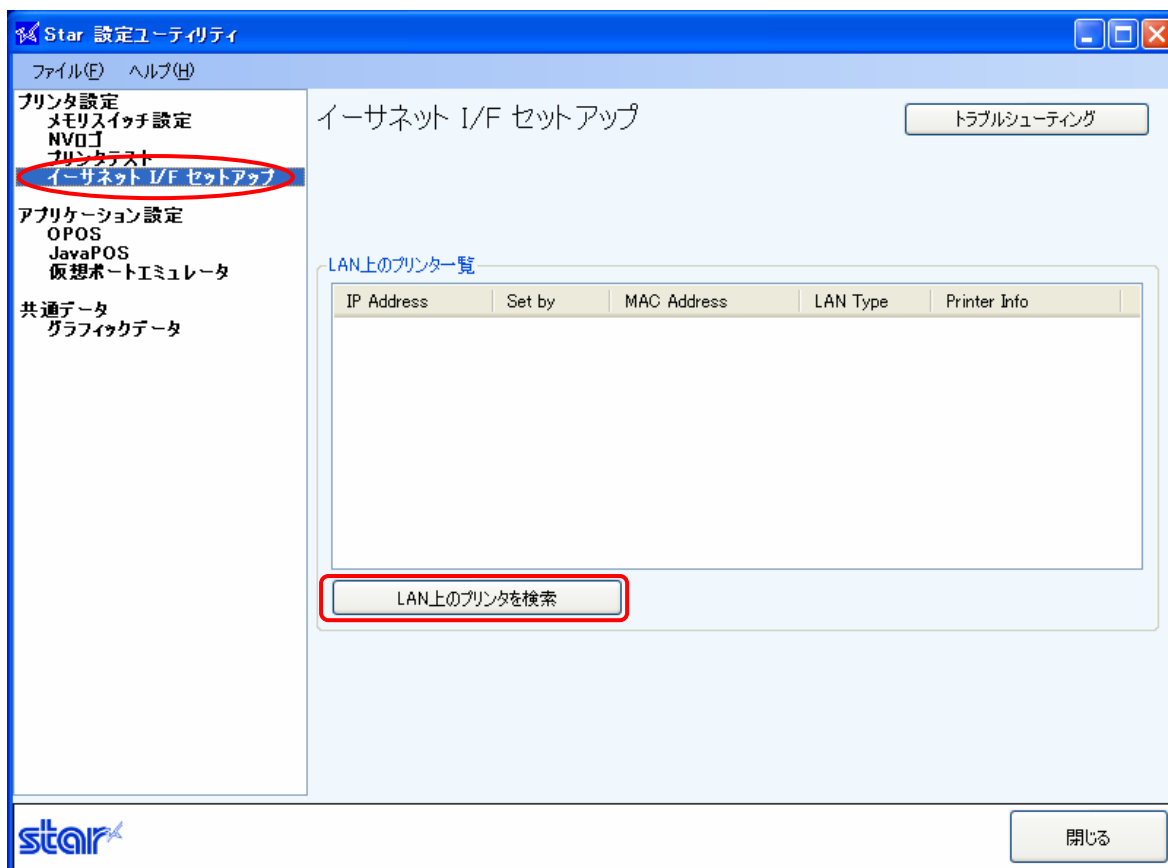
[実行]ボタンをクリックすることで、ブザー2が正しく可動しているかを確認することができます。

注記：ブザーはオプションのデバイスです。

また、ブザーとキャッシュドロワは同時に使用することはできません。

4.1.4 イーサネット I/F セットアップ

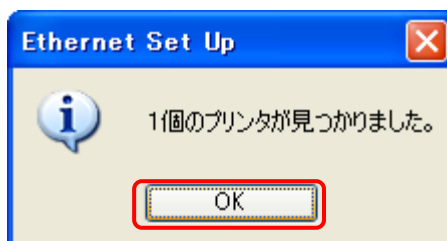
画面左側の「イーサネット I/F セットアップ」タブをクリックしてください。



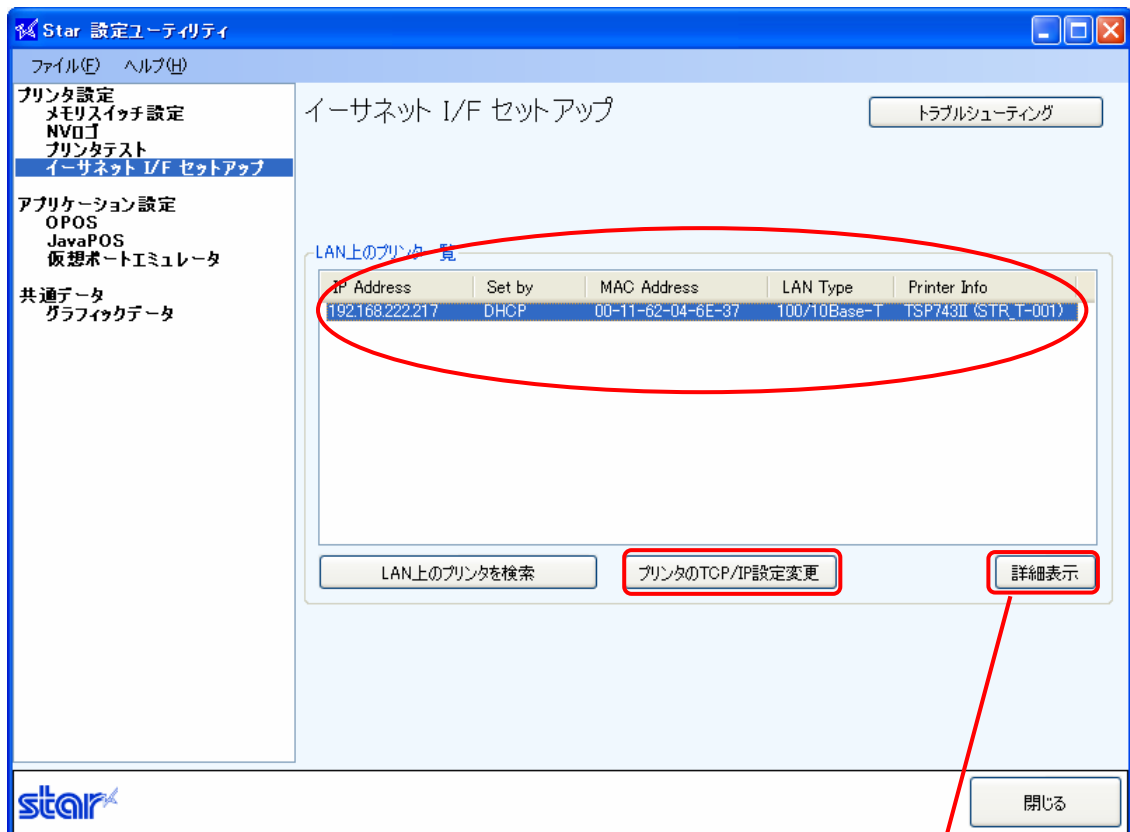
[LAN 上のプリンタを検索]ボタンをクリックして、プリンタを検索後、設定を行います。設定はこれ以降の手順に従って行ってください。また、DHCP サーバーによって自動的に IP アドレスが割り当てられる場合と、DHCP サーバーを介さず IP アドレスが割り当てられない場合では手順が異なります。

■DHCP サーバによって自動的に IP アドレスが割り当てられる場合

- ① プリンタが見つかったと下記の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。



② LAN 上のプリンター一覧に表示されます。

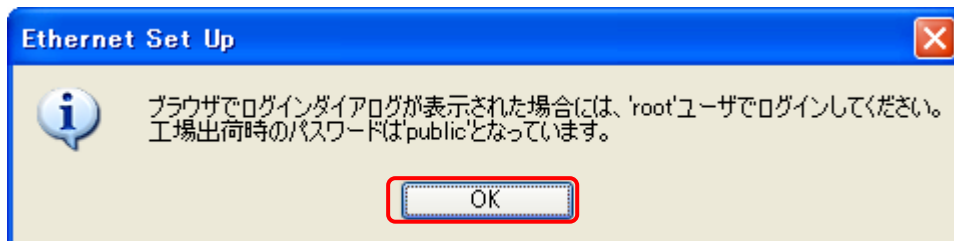


[詳細表示]ボタンをクリックしますと、現在の状態が表示されます。



- ③ [プリンタの TCP/IP 設定変更] ボタンをクリックしますと、イーサネット I/F カードの種類をユーティリティ側が判別し、それによるユーザ名と工場出荷時のパスワードが表示されます。

[OK] ボタンをクリックします。



- ④ 前画面で表示されたユーザ名とパスワードを入力します。

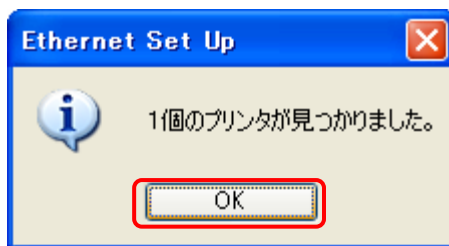
[OK] ボタンをクリックします。



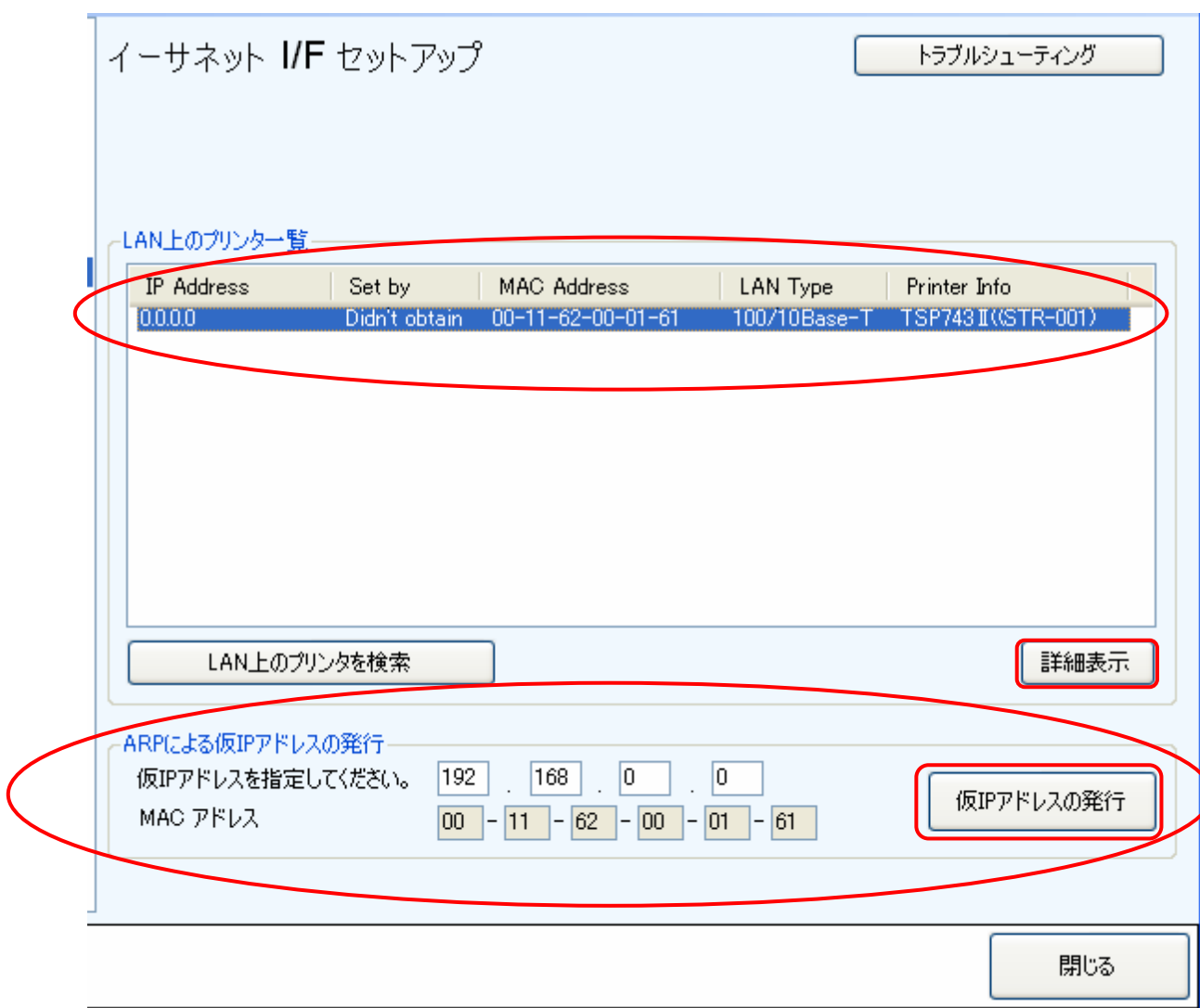
 パスワードはWEBブラウザ画面上で変更することができます。

■DHCP サーバを介さない場合

- ① プリンタが見つかったと下記の画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックしてください。

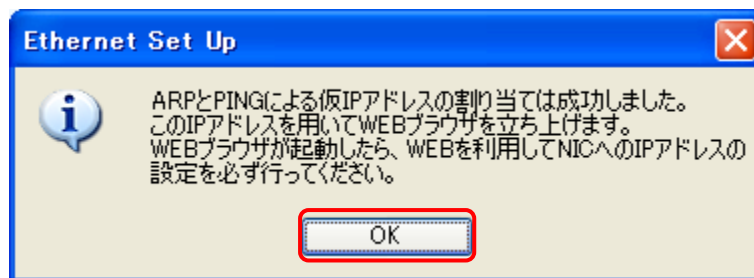


- ② LAN 上のプリンター一覧に表示されます。

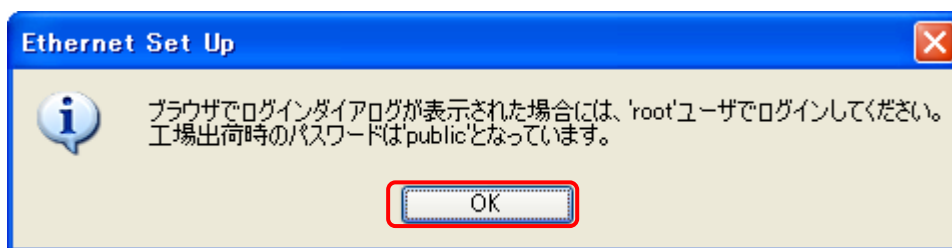


IPアドレスが無い場合、プリンタのTCP/IP設定変更画面に進むことができません。プリンタを選択すると、仮IPアドレスの設定が可能になりますので、入力後、[仮IPアドレスの発行]ボタンをクリックします。

- ③ 仮IPアドレスの発行に成功した場合、下記画面が表示されますので、[OK]ボタンをクリックします。



- ④ イーサネット I/F カードの種類をユーティリティ側が判別し、それによるユーザ名と工場出荷時のパスワードが表示されます。
[OK]ボタンをクリックします。

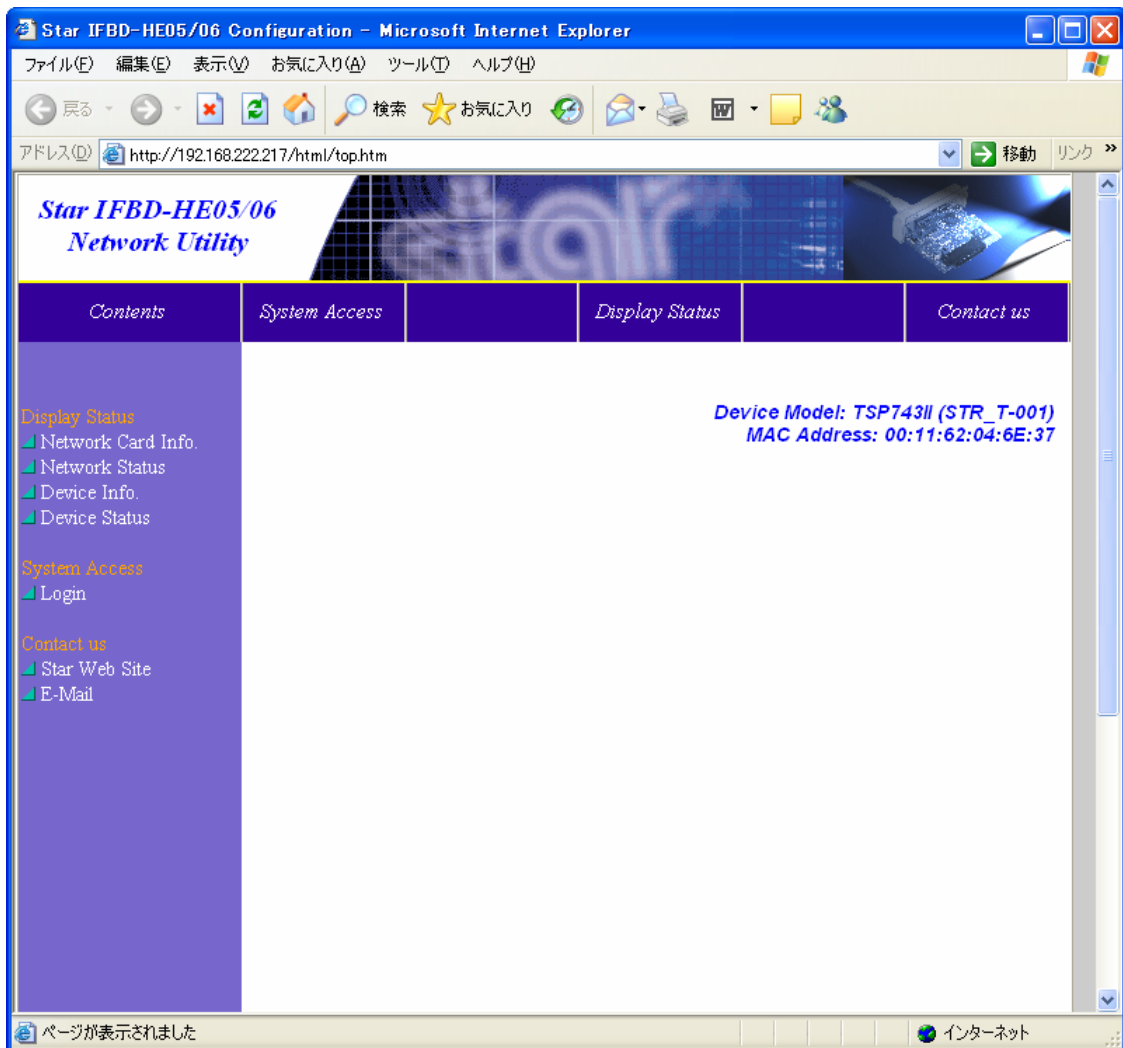


- ⑤ 前画面で表示されたユーザ名とパスワード入力します。
[OK]ボタンをクリックします。



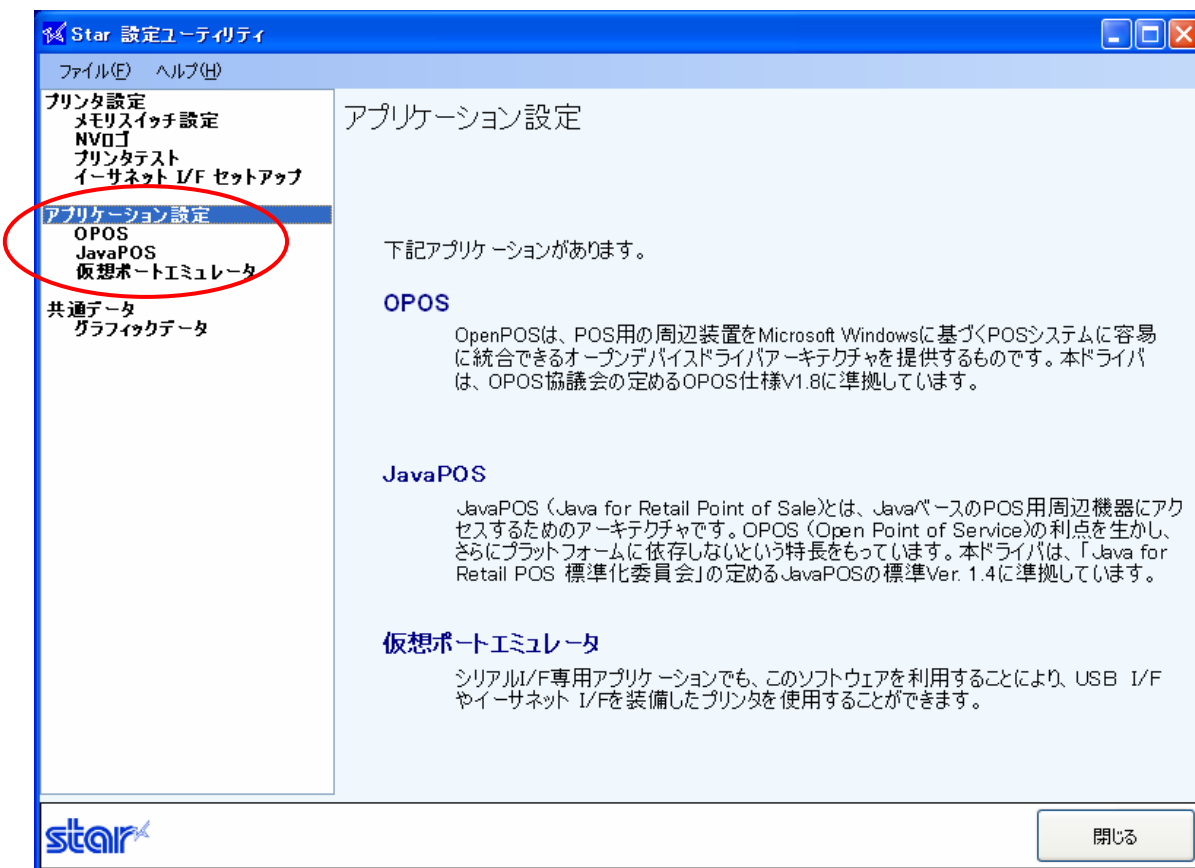
 パスワードはWEBブラウザ画面上で変更することができます。


⑥ WEBブラウザ画面が表示されますので、TCP/IP 設定作業を行ってください。



4.2 アプリケーション設定

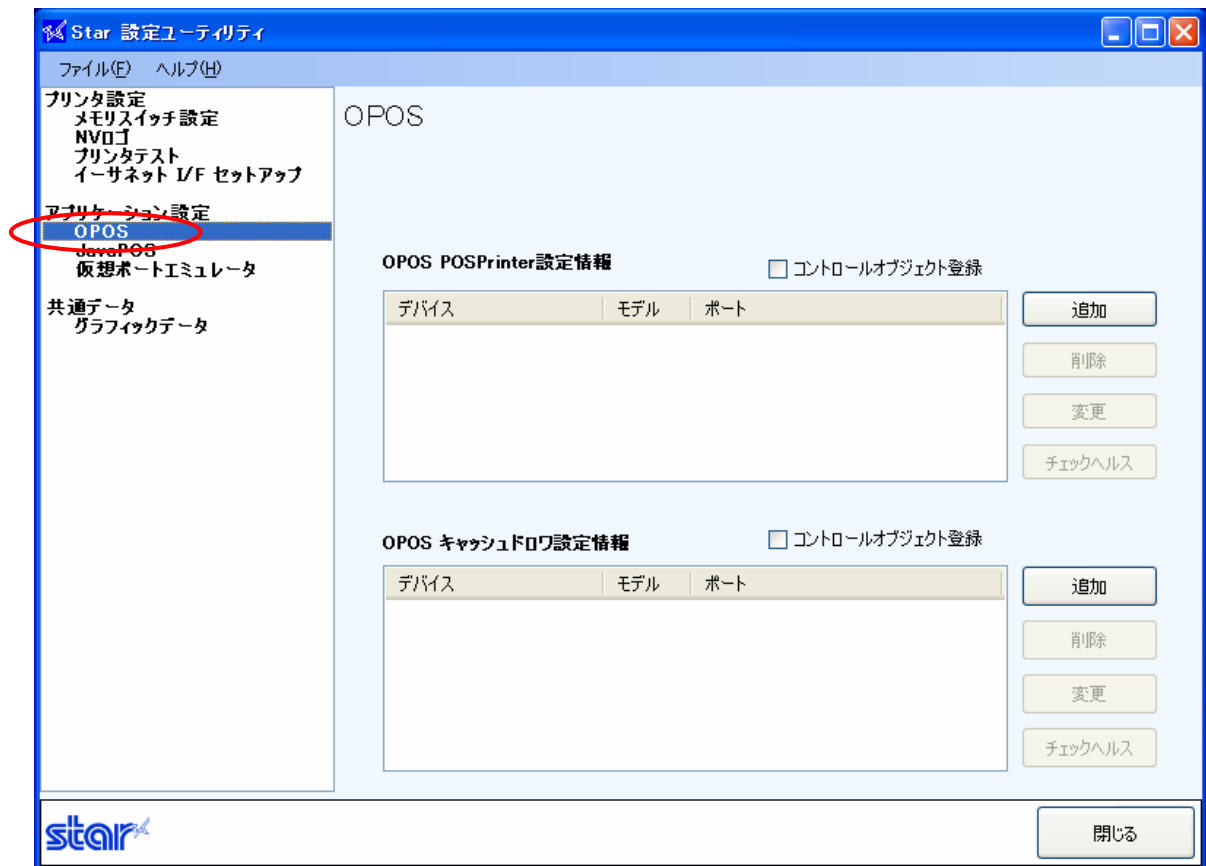
各アプリケーションの設定を行うことができます。



 アプリケーション設定は各キューごとに行うことができます。

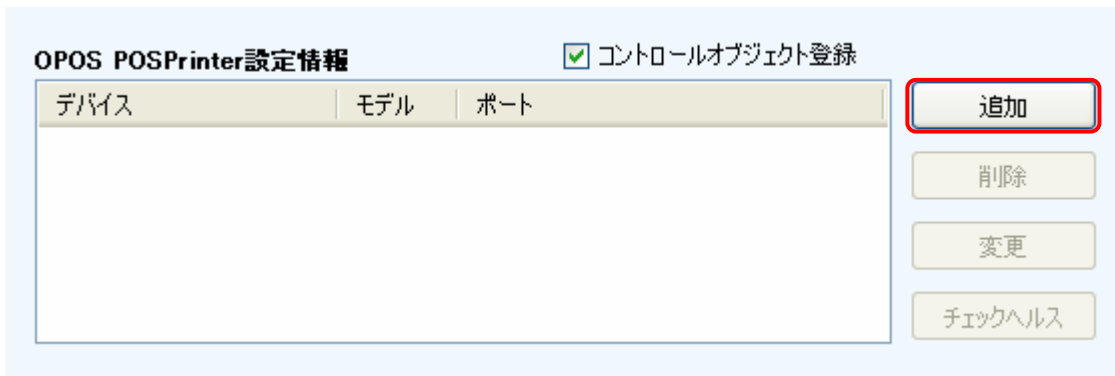
4.2.1 OPOS

画面左側の「OPOS」タブをクリックしてください。



■ プリンタの追加

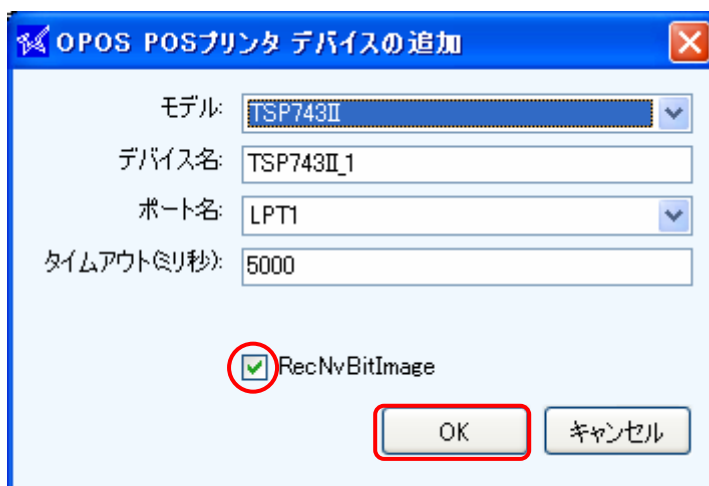
[追加]ボタンをクリックします。



[追加]ボタンをクリックしますと、「コントロールオブジェクト登録」のチェックボックスにチェックが入り、以下の画面が表示されます。適宜設定を行ってください。

「RecNvBitImage」のチェックボックスはデフォルトでチェックされています。

チェックされていることで OPOS でのロゴ機能が有効になります。



[OK]ボタンをクリックすると、プリンタが追加されます。

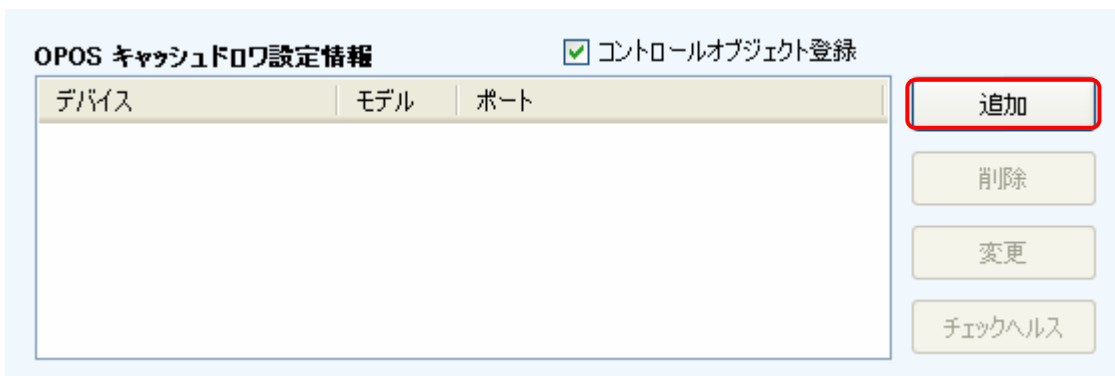
注記：コントロールオブジェクトは一件しか登録できません。

Star のコントロールオブジェクトを登録しますと、他社のコントロールオブジェクトは無効になります。

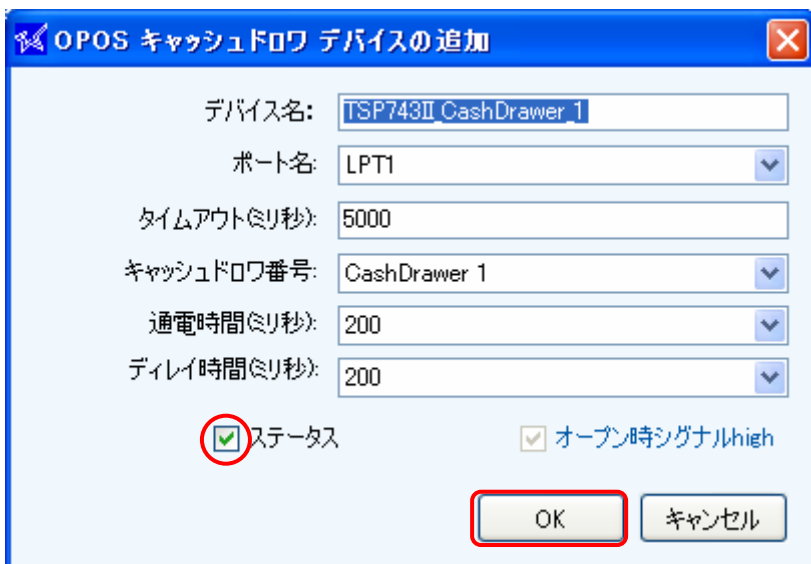
また、本プリンタを使用する際は、Star のコントロールオブジェクトを登録してください。登録されずに本プリンタを使用した場合の保証はできません。

■ キャッシュドロワの追加

[追加]ボタンをクリックします。



[追加]ボタンをクリックしますと、「コントロールオブジェクト登録」のチェックボックスにチェックが入り、以下の画面が表示されます。適宜設定を行ってください。



「ステータス」のチェックボックスを選択しますと、キャッシュドロワの開閉状態を通知することができます。

注記：本機能は、ご利用になるキャッシュドロワ機器が開閉SWをサポートしている場合のみ有効です。

また、オープン時シグナル high のチェックボックスを選択した場合は、ご利用のキャッシュドロワの開閉検出SWの特性に合わせて設定します。

キャッシュドロワが開いている状態で開閉検出SWがオープンになる機器においては、オープン時シグナル high のチェックボックスを選択してください。

キャッシュドロワが開いている状態で開閉検出SWがクローズ（ショート）になる機器においては、オープン時シグナル high のチェックボックスを選択しないでください。

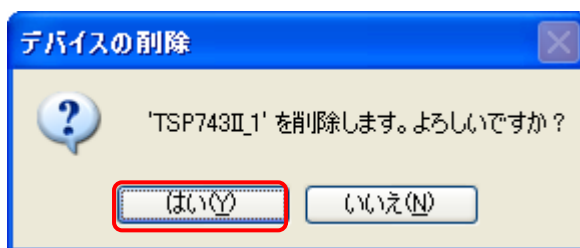
各設定を行います。

- キャッシュドロワ番号
キャッシュドロワの番号を選択します。
- 通電時間（ミリ秒）：
選択された番号のキャッシュドロワについて、通電時間の設定をします。
- デイレイ時間（ミリ秒）：
選択された番号のキャッシュドロワについて、デイレイ時間を設定します。

[OK]ボタンをクリックすると、キャッシュドロワが追加されます。

■ 削除

- ① プリンタおよびキャッシュドロワの[削除]ボタンをクリックします。
- ② 削除が実行される前に以下の確認画面が表示されますので、続行する場合は[はい]ボタンをクリックします。



■ 変更

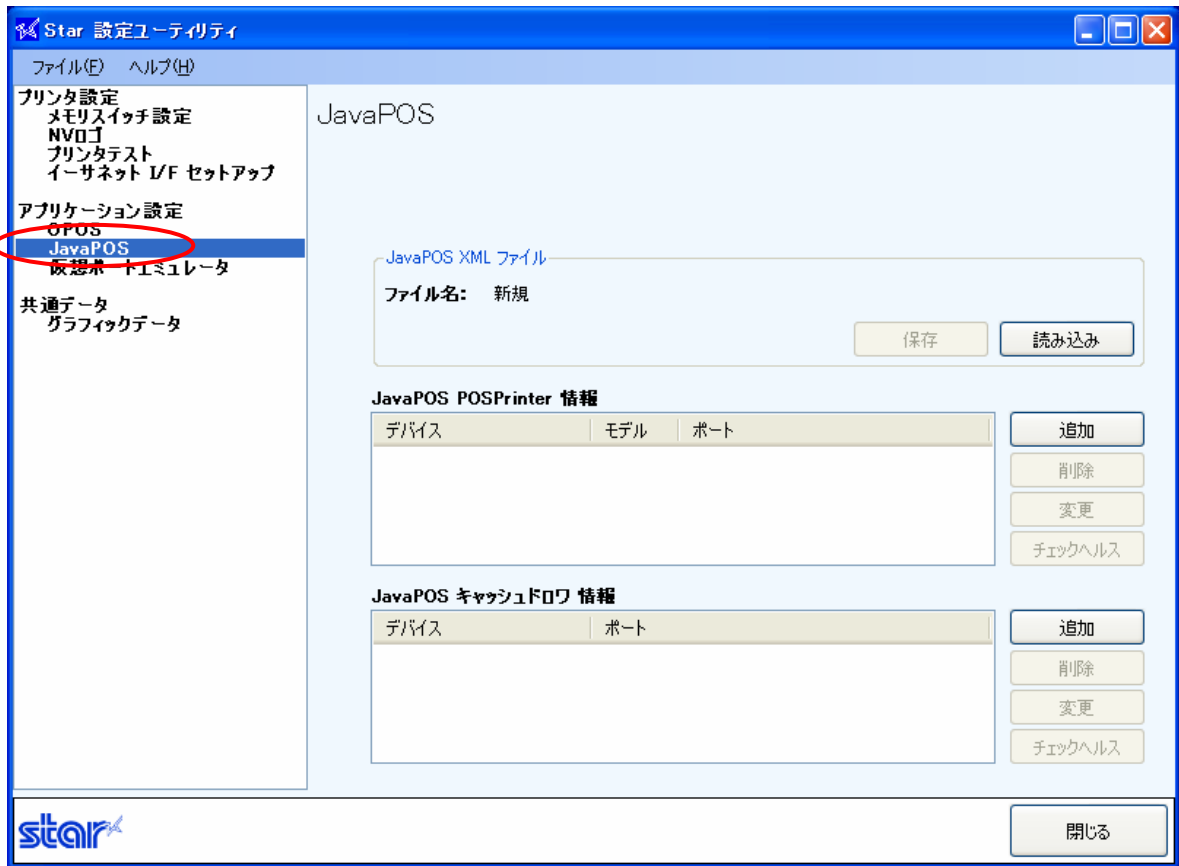
[変更]ボタンをクリックしますと、プリンタまたはキャッシュドロワの設定を変更することができます。変更方法については、[追加]ボタンをクリックした際と同じ画面が表示されますので、最初の設定時と同じ要領で行います。

■ チェックヘルス

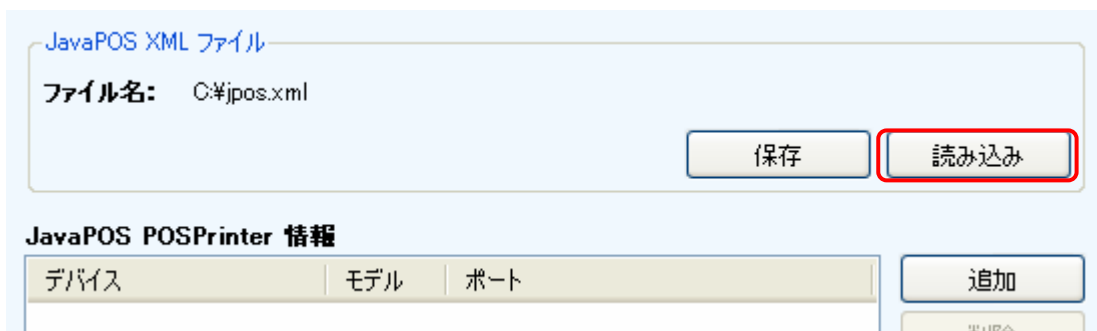
プリンタおよびキャッシュドロワの[チェックヘルス]ボタンをクリックすることで、プリンタまたはキャッシュドロワが正しく接続されているか、また、OPOSによって正確に動作するか、システムのチェックを行います。

4.2.2 JavaPOS

画面左側の「JavaPOS」タブをクリックしてください。



[読み込み]ボタンをクリックすることで、既存の JavaPOS XML ファイルを読み込むことができます。



■ プリンタの追加

[追加]ボタンをクリックします。

デバイス	モデル	ポート
------	-----	-----

追加
削除
変更
チェックヘルス

以下の画面が表示されます。適宜設定を行ってください。

「指定範囲印刷確認」のチェックボックスを選択しますと、印刷されるデータが正しくプリンタに送られたことを確認できます。

JavaPOS デバイスの追加

モデル: TSP743II
デバイス名: TSP743II_1
ポート名: LPT1
タイムアウト(秒): 5000

指定範囲印刷確認

OK キャンセル

[OK]ボタンをクリックすると、プリンタが追加されます。

設定が終了しましたら、[保存]ボタンをクリックして Java POS XML ファイルを保存してください。

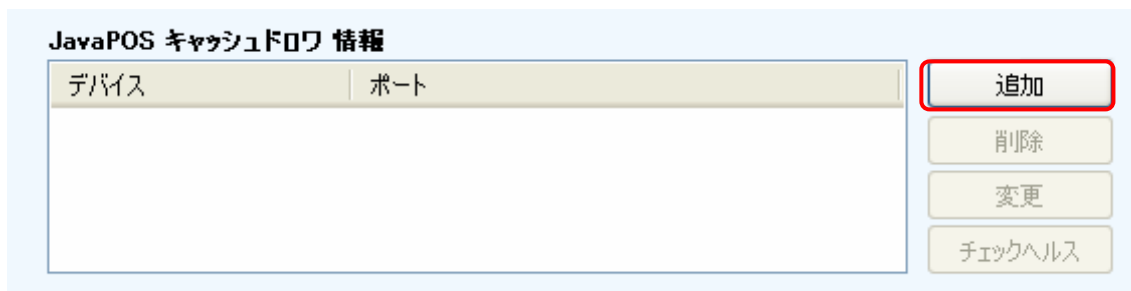
JavaPOS XML ファイル

ファイル名: 新規

保存 読み込み

■ キャッシュドロワの追加

[追加]ボタンをクリックします。



以下の画面が表示されます。適宜設定を行ってください。

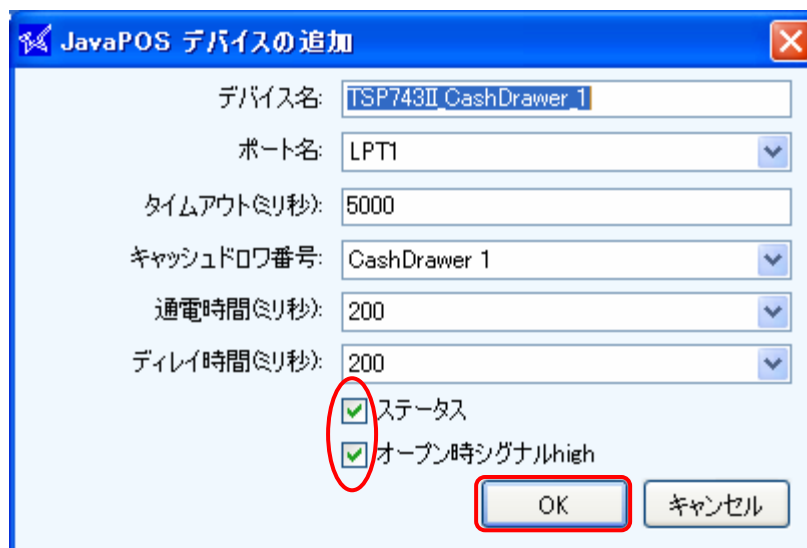
「ステータス」のチェックボックスを選択しますと、キャッシュドロワの開閉状態を通知することができます。

注記：本機能は、ご利用になるキャッシュドロワ機器が開閉SWをサポートしている場合のみ有効です。

また、オープン時シグナル high のチェックボックスを選択した場合は、ご利用のキャッシュドロワの開閉検出 SW の特性に合わせて設定します。

キャッシュドロワが開いている状態で開閉検出 SW がオープンになる機器においては、オープン時シグナル high のチェックボックスを選択してください。

キャッシュドロワが開いている状態で開閉検出 SW がクローズ（ショート）になる機器においては、オープン時シグナル high のチェックボックスを選択しないでください。

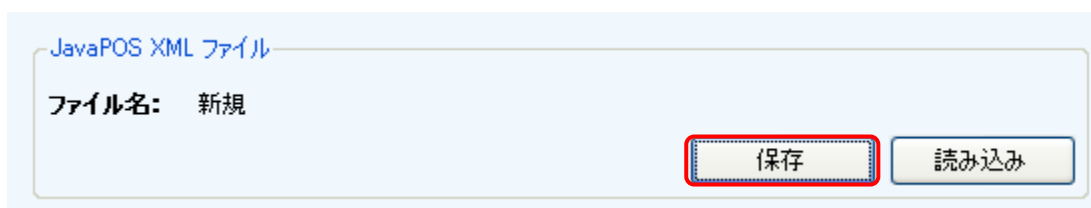


各設定を行います。

- キャッシュドロワ番号
キャッシュドロワの番号を選択します。
- 通電時間（ミリ秒）：
選択された番号のキャッシュドロワについて、通電時間の設定をします。
- デイレイ時間（ミリ秒）：
選択された番号のキャッシュドロワについて、デイレイ時間を設定します。

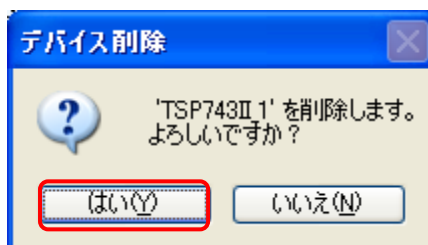
[OK]ボタンをクリックすると、キャッシュドロワが追加されます。

設定が終了しましたら、[保存]ボタンをクリックして Java POS XML ファイルを保存してください。



■ 削除

- ① プリンタおよびキャッシュドロワの[削除]ボタンをクリックします。
- ② 削除が実行される前に以下の確認画面が表示されますので、続行する場合は[はい]ボタンをクリックしてください。



■ 変更

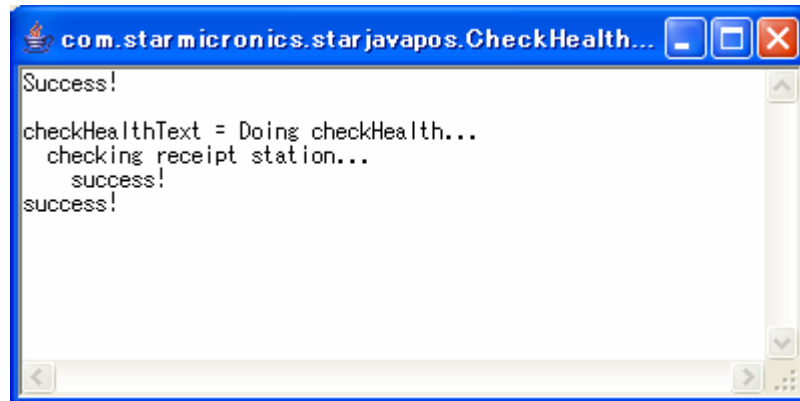
[変更]ボタンをクリックしますと、プリンタまたはキャッシュドロワの設定を変更することができます。変更方法については、[追加]ボタンをクリックした際と同じ画面が表示されますので、最初の設定時と同じ要領で行います。

■ チェックヘルス

プリンタおよびキャッシュドロワの[チェックヘルス]ボタンをクリックすることで、プリンタまたはキャッシュドロワが正しく接続されているか、また、JavaPOS によって正確に動作するか、システムのチェックを行います。

最初のプリンタチェック後、プリンタが所有する印字に関する全機能の印字結果を印刷します。チェックが成功した場合は、以下の画面が表示されます。

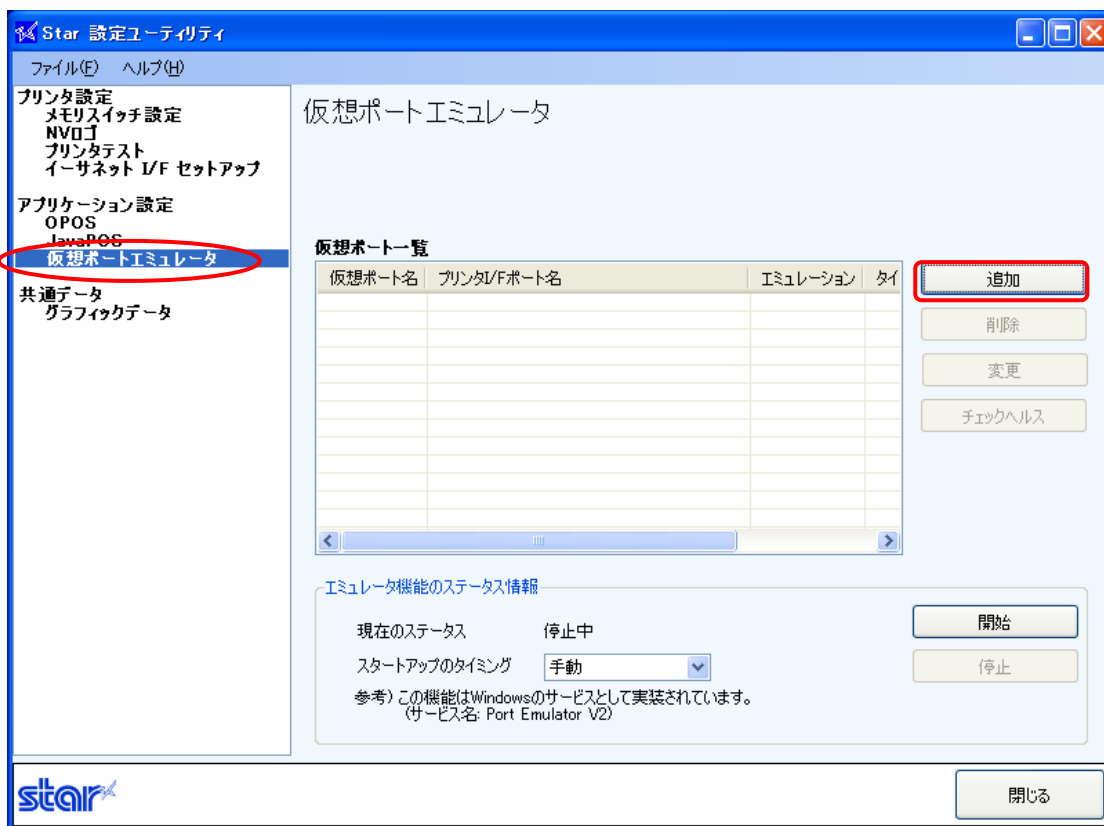
(以下の画面内容はプリンタのチェックヘルス結果)



注記： チェックヘルスを行う前に[保存]ボタンをクリックして、Java POS XML ファイルを保存してください。

4.2.3 仮想ポートエミュレータ

画面左側の「仮想ポートエミュレータ」タブをクリックしてください。



- ① [追加]ボタンをクリックしますと下記の画面<ステップ1>が表示されますので全ての項目を設定して、[次へ>>]ボタンをクリックして下さい。

仮想ポートのポート名には POS アプリケーションの出力ポート名を入力します。

プリンタ I/F ポートのポート名は、実際に使用するプリンタの I/F 名を選択してください。USB I/F または Ethernet I/F のみ選択可能です。



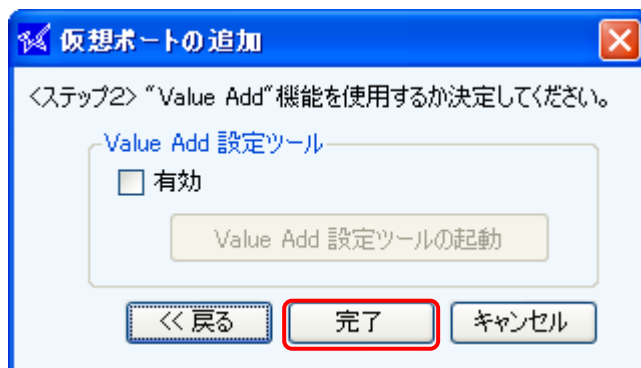
注記：仮想ポートのエミュレーションを ESC/POS モードに設定し、Value Add 設定ツールを起動する場合には、プリンタの DIP SW を Star Line Mode に設定してください。

② 下記の画面<ステップ2>が表示されます。

“Value Add” 機能を使用する場合は、有効のチェックボックスをチェックし、[Value Add 設定ツールの起動]ボタンをクリックします。



“Value Add” 機能を使用しない場合は、[完了]ボタンをクリックします。



- ③ [Value Add 設定ツールの起動]ボタンをクリックした場合、Star Value Add 設定ツールが起動し、下記の画面が表示されます。



この時インフォメーションには仮想ポート名が表示されます。

「Star Value Add 設定ツール」上で設定変更し、[適用]ボタンをクリックした場合、初回のみ xml ファイルの作成を行います。

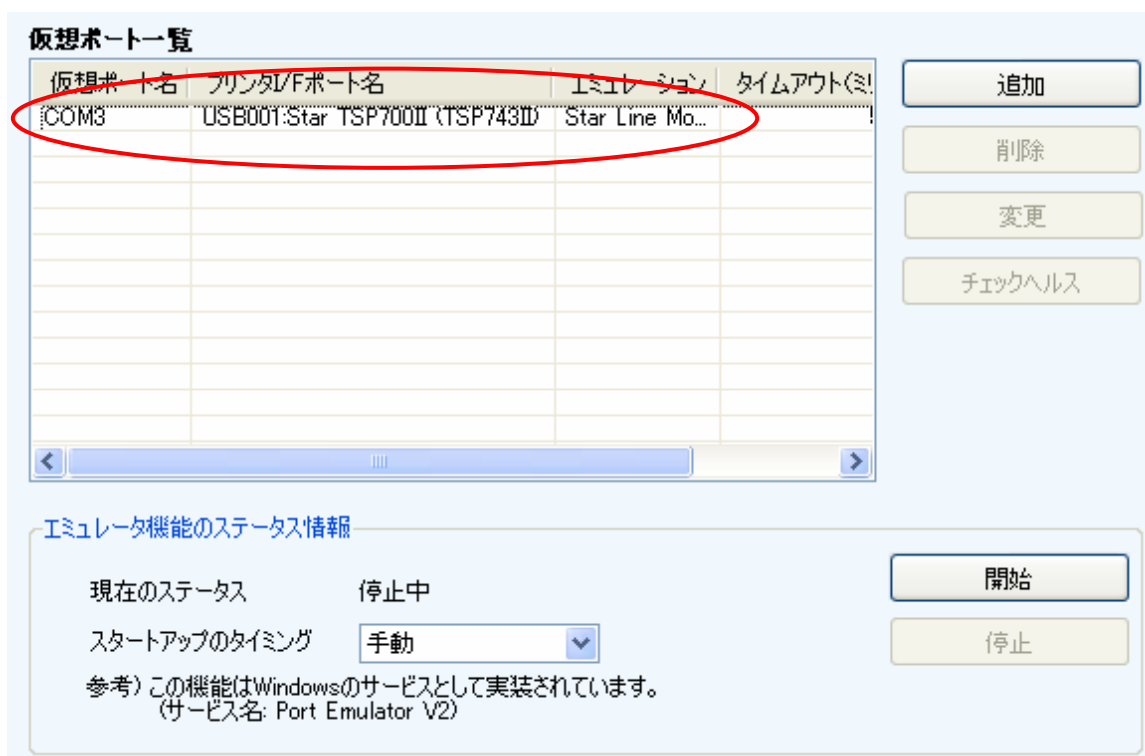
格納場所を指定し、[保存]ボタンをクリックして、xml ファイルを作成してください。

「Star Value Add 設定ツール」の画面左側にあるインフォメーションをクリックしますと、ファイルパスの箇所に xml ファイルの格納場所とファイル名が表示されます。

(Star Value Add 設定ツールに関する詳細は「5. Star Value Add 設定ツール」を参照してください。)

必要な設定を行った後、[閉じる]ボタンをクリックしますと、<ステップ 2>の画面に戻ります。

＜ステップ2＞の画面で[完了]ボタンをクリックしますと、仮想ポート作成が完了します。



④ スタートアップのタイミングを選択します。

自動はもっとも一般的な用法でシステムが起動すると同時に本機能を開始します。

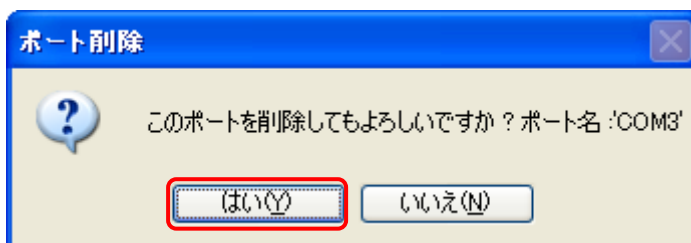
自動を選択した場合は、[開始]ボタンをクリックしてください。次回の起動時には[開始]ボタンをクリックする必要はありません。

手動の場合は、仮想ポートエミュレータを使用する前に手動で[開始]ボタンをクリックして、開始させる必要があります。

■ 削除

① [削除]ボタンをクリックします。

② 削除が実行される前に以下の確認画面が表示されますので、続行する場合は[はい]ボタンをクリックしてください。

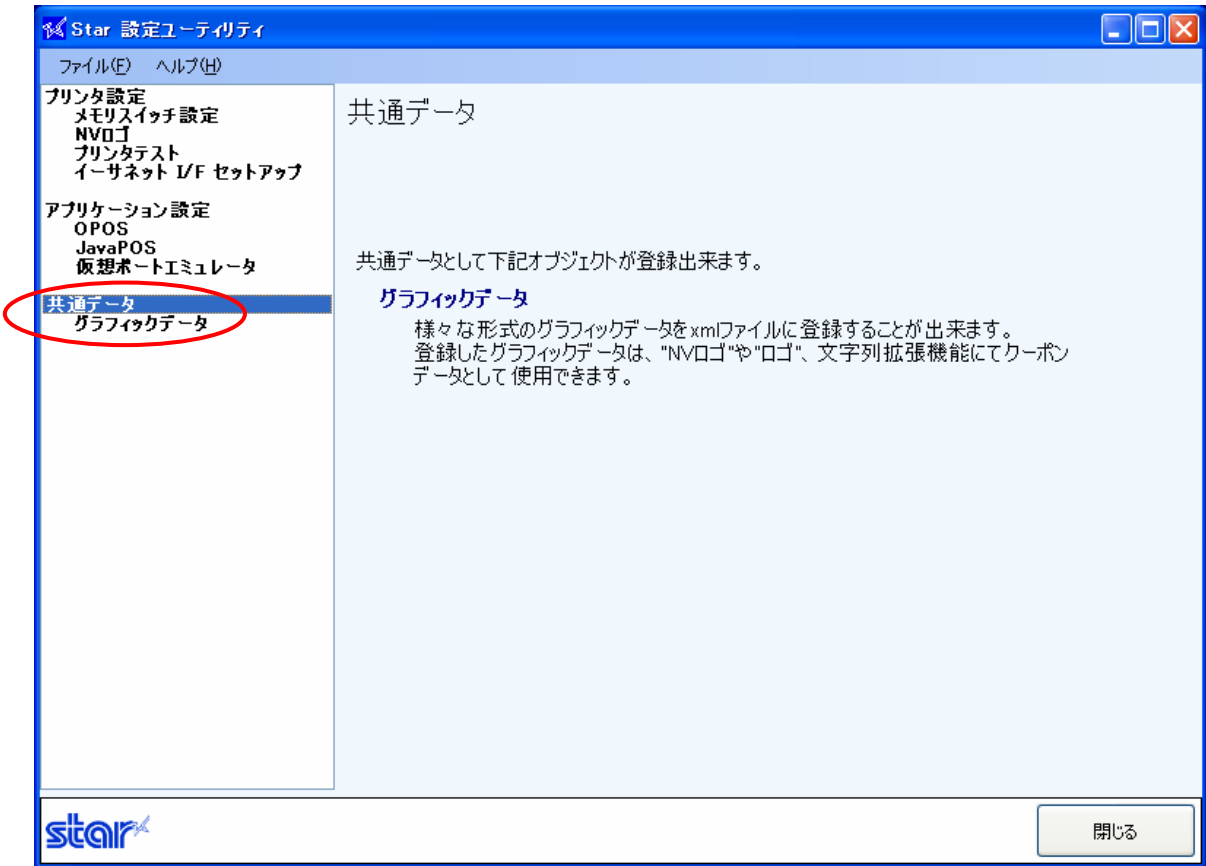


■ チェックヘルス

[チェックヘルス]ボタンをクリックすると、ポートのチェックを行います。

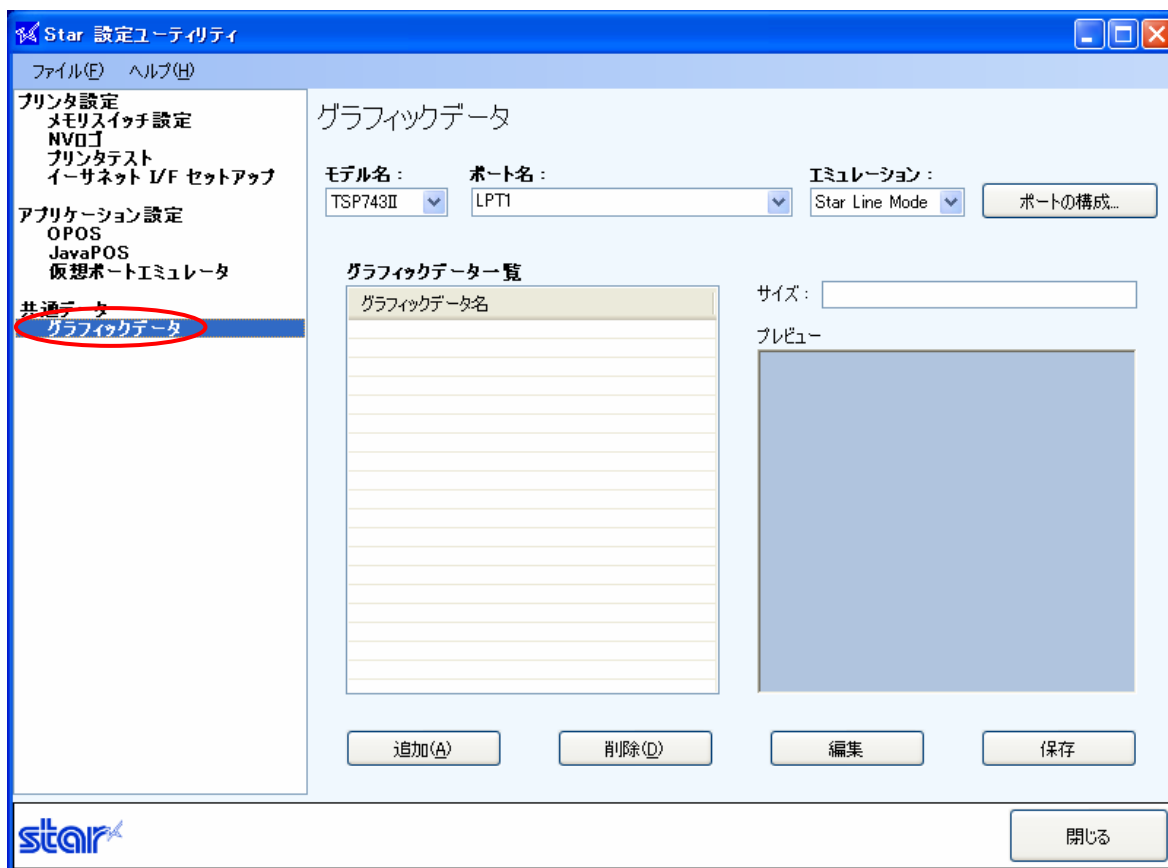
4.3 共通データ

Star 設定ユーティリティの NV ロゴ および Star Value Add 設定ツールのロゴの設定で共通に使用できるグラフィックデータの登録を行うことができます。



4.3.1 グラフィックデータ

画面左側の「グラフィックデータ」タブをクリックしてください。

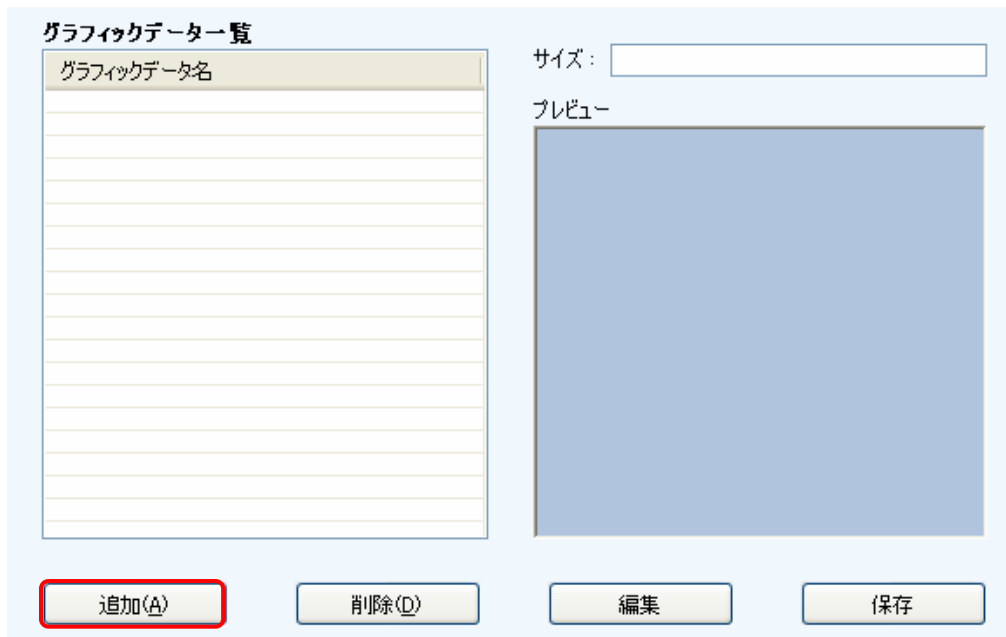


グラフィックデータでは、今後繰り返し使用する、例えばロゴマークなどのグラフィックデータを登録しておくことができます。

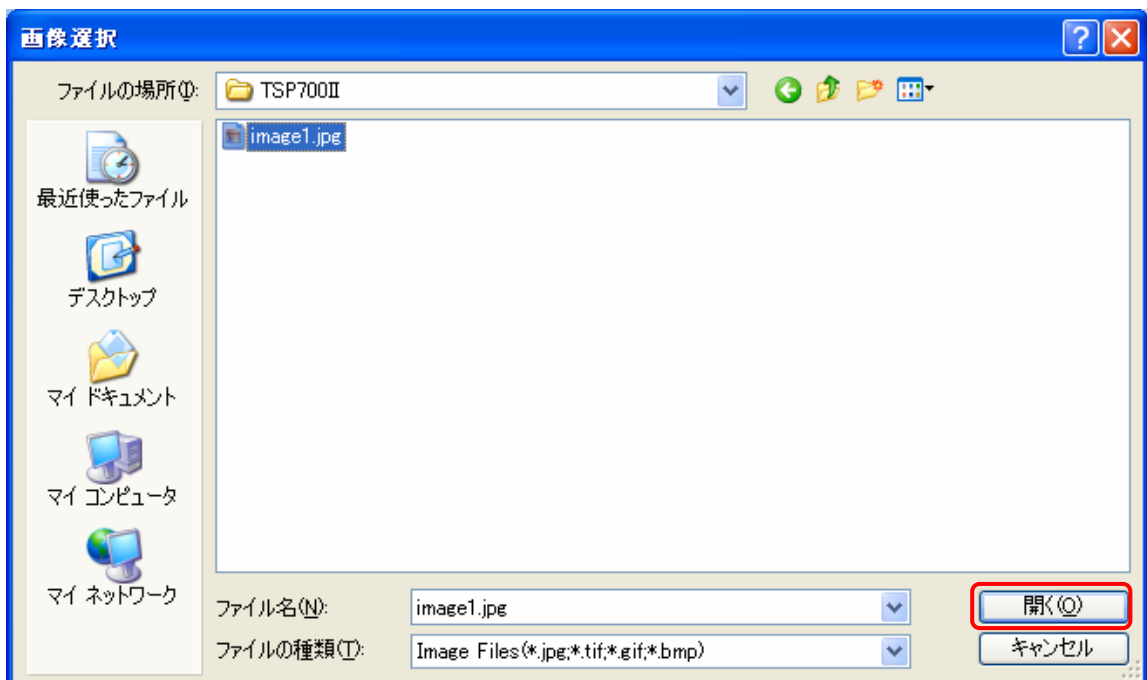
ここで登録されたデータは Star 設定ユーティリティの NV ロゴ または Star Value Add 設定ツールのロゴおよび文字列拡張機能などで使用できます。

登録可能なグラフィックデータのフォーマットは BMP, JPG, GIF, PNG, EMF です。


- ① [追加]ボタンをクリックします。



- ② 登録したいグラフィックデータを選択し、[開く]ボタンをクリックします。



- ③ 以下の「画像処理」画面が表示されます。
データの設定をします。
- 「名前」の欄に登録する名前を入力します。
 - グラフィック幅のスライダーを使って、グラフィックデータの幅を調整します。
 - 適切なディザリング方法を選択します。
 - 「誤差拡散・調整」を適切に調整します。
- ディザリングを無しに設定した場合は、「ディザ無しオプション」にて明るさを適切に調整します。

 選択するディザリングの方法によって、「誤差拡散・調整」内の項目は異なります。いくつかの設定を組み合わせ、どの設定が適切であるかを特定することで、より良い印字結果が得られます。



注記：プリンタの実印字特性と PC ディスプレイ上の表現能力の違いによって、登録されたグラフィックデータの印字結果とプレビュー表示では、印字濃度など細かな部分の再現性において印象が異なる場合があります。テスト印字によって印字結果を確認することをおすすめします。

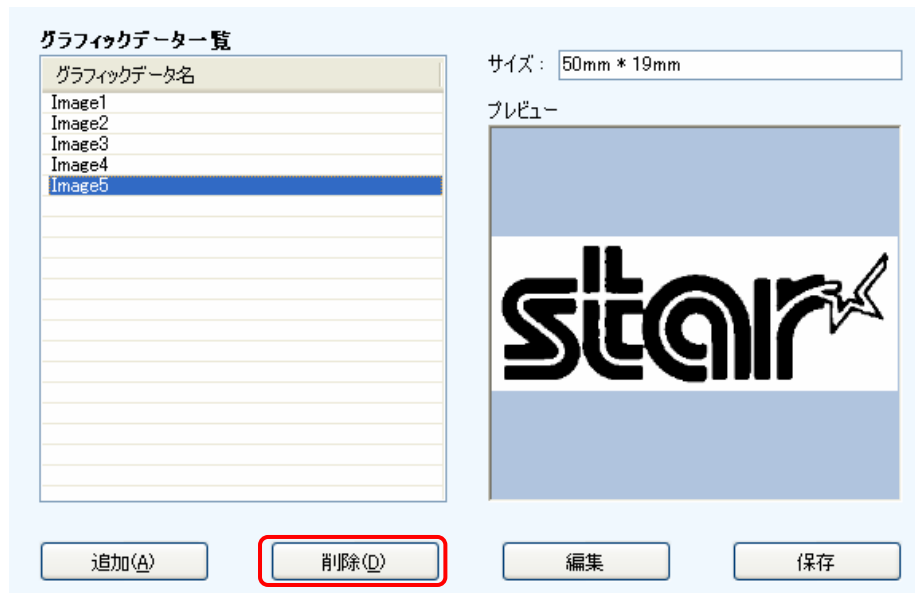
④ [OK]ボタンをクリックしますと、グラフィックデータ一覧に入ります。



グラフィックデータ一覧にグラフィックデータが追加され、「NVロゴ」および“Star Value Add 設定ツール”の「ロゴ」「文字列拡張機能」での使用が可能になります。

使用方法の詳細は「4.1.2 NVロゴ」「5.3 ロゴ」「5.4 文字列拡張機能」を参照してください。

- ⑤ グラフィックデータを削除する場合は、グラフィックデータ一覧から不要になったデータを選択し、[削除]ボタンをクリックします。



- ⑥ 削除が実行される前に以下の確認画面が表示されますので、続行する場合は[はい]ボタンをクリックします。



5. Star Value Add 設定ツール

“Star Value Add 設定ツール”には、ロゴ、文字拡張機能などの設定があり、これらの機能を活用しますと、イメージを利用して印刷に拡張性をもたらすことができます。
また、180度反転印字やページ終端コマンドにより印刷に関する細かな設定が可能です。
すべての機能は、設定後“Star Value Add 設定ツール”画面上の[適用]ボタンをクリックすることで有効になります。

以下の方法で、“Star Value Add 設定ツール”の画面を開いてください。

- ① Windowsのスタートメニューから「プリンタとFAX」を選択し、「プリンタとFAX」のフォルダを開きます。
- ② <Star TSP700 II (TSP743 II)>の表示を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- ③ プロパティ画面が開きますので「TSP700 II 設定」タブをクリックします。
- ④ 「Value Add 機能を有効にする」チェックボックスにチェックを入れて、[Value Add 設定ツールの起動]ボタンをクリックします。

注記：“Star Value Add 設定ツール”は「デバイスの設定」タブ内の印刷モードがLineモードに設定されている時のみ有効です。また、“Star 設定ユーティリティ”の仮想ポートエミュレータからも起動できます。仮想ポートエミュレータから起動し、使用する場合は、90ページを参照してください。

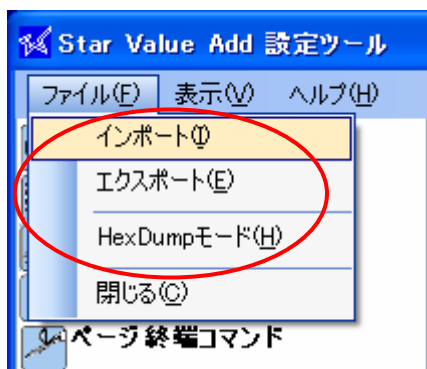


5.1 メニュー機能



“Star Value Add 設定ツール”のメニューバーには「ファイル」「表示」「ヘルプ」があります。各メニューの詳細は以下の通りです。

5.1.1 ファイル

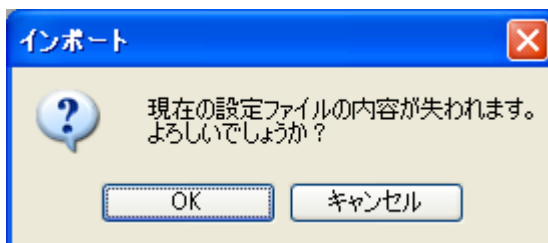


(1) インポート

すでに保存されている“Star Value Add 設定ツール”の設定内容を取り込むことができます。 .xml の拡張子ファイルを読み込み、[開く]ボタンをクリックしてください。下記の画面が表示され、インポートが完了します。



注記：インポートの前に設定を変更している場合、以下の画面が表示されます。
[OK]ボタンをクリックしないと現在の設定内容が失われます。

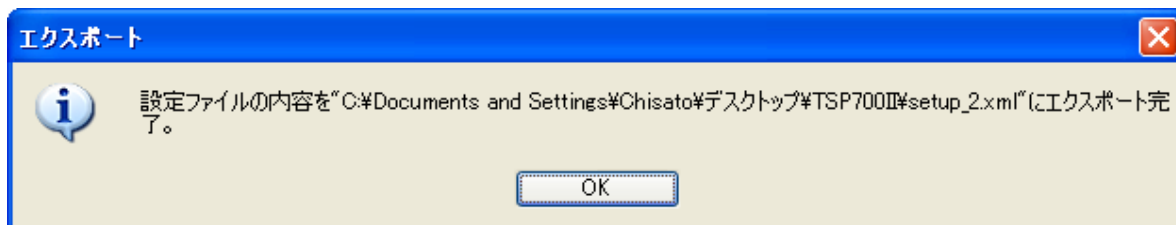


(2) エクスポート

“Star Value Add 設定ツール”上で設定した内容は別ファイルに保存することができます。ファイル名を設定し、[保存]ボタンをクリックします。

下記の画面が表示され、エクスポートが完了します。

設定内容を保存したファイルは、.xml という拡張子のファイルになります。



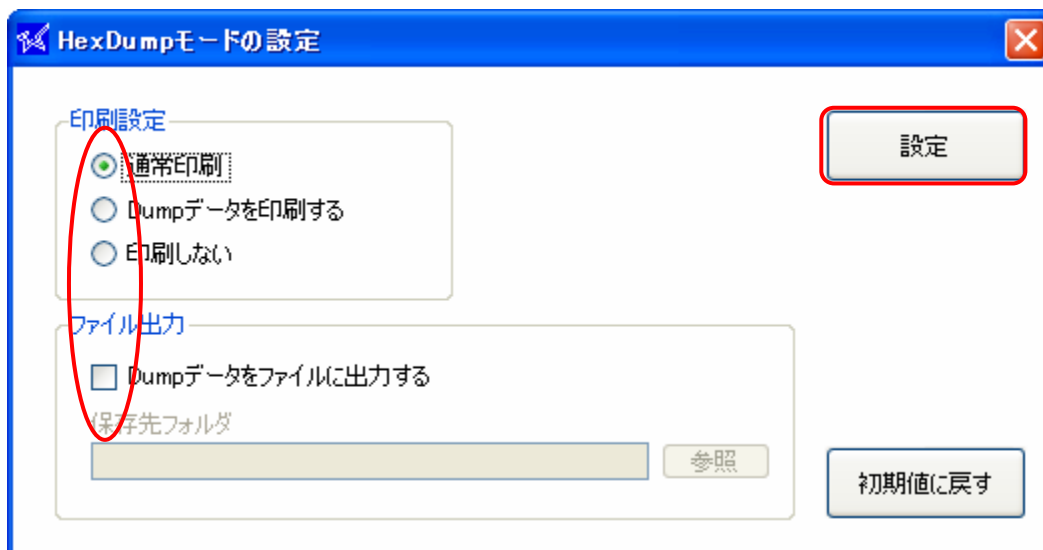
注記：

- 1) 『スターラインモード』と『ESC/POS モード』は各々設定内容が異なります。インポートによって設定内容を取り込む際には、選択されているモードをご確認の上、設定ファイルをインポートしてください。
- 2) “Star Value Add 設定ツール”において、グラフィックデータの内容はインポート/エクスポートの適用外になります。

(3) HexDump モード

コンピュータからプリンタへ送られる全てのデータを16進コードで印字およびファイル出力します。

プリンタへ送っているデータが正しいかどうか、またエラーなどの原因を調べることができます。



■通常印刷

16進コードではなく、通常の印字をします。

■Dump データを印刷する

コンピュータからプリンタへ送られる全てのデータを16進コードで印字します。

■印刷しない

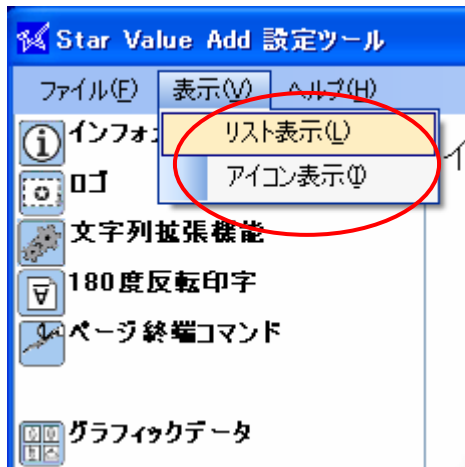
ファイルへの出力のみを行い、印刷を必要としない場合に選択します。

■Dump データをファイル出力する

コンピュータからプリンタへ送られる全てのデータを16進コードのバイナリーデータとして指定フォルダにファイル出力します。

注記：フォルダ名は英文（1byte）文字のみを使用してください。和文（2byte）文字は使用しないようにしてください。

5.1.2 表示



(1) リスト表示

“Star Value Add 設定ツール” の設定項目がリストで表示されます。

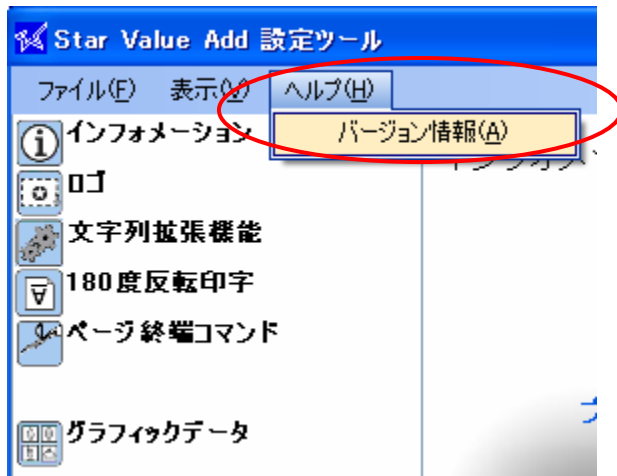


(2) アイコン表示

“Star Value Add 設定ツール” の設定項目がアイコンで表示されます。



5.1.3 ヘルプ



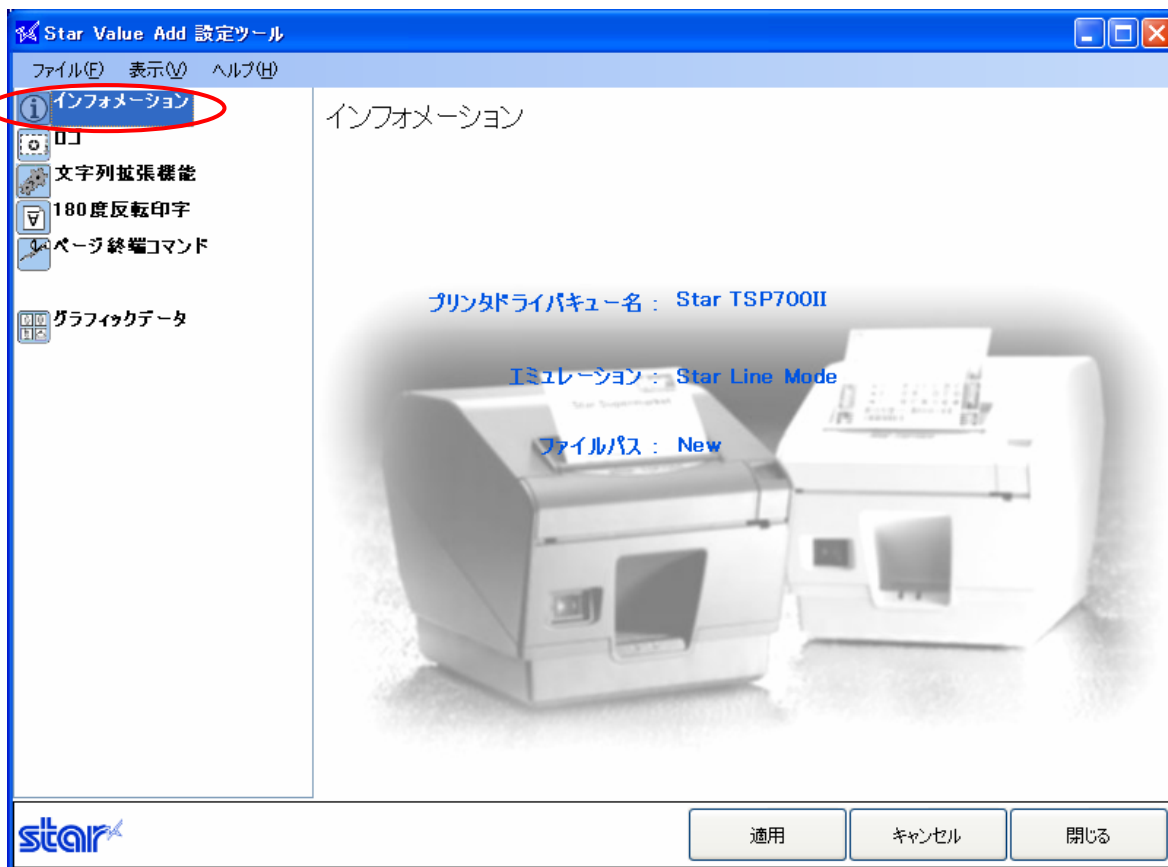
メニューバーの「ヘルプ」でソフトウェアのバージョンを確認できます。



5.2 インフォメーション

画面左側の「インフォメーション」タブをクリックしてください。

インフォメーションの画面には、以下の内容が表示されます。



5.2.1 プリンタドライバキュー名

Windows に認識されたプリンタドライバキュー名を表示します。

プリンタドライバキュー名とは、「プリンタと F A X」フォルダ上にあるプリンタアイコンの名前のことです。

また、仮想ポートエミュレータから“Star Value Add 設定ツール”を起動した場合は、仮想ポート名を表示します。

5.2.2 エミュレーション

現在選択されているエミュレーションモードを表示します。

注記：仮想ポートから“Star Value Add 設定ツール”を起動する時、仮想ポートの設定内でエミュレーションを ESC/POS モードに設定した場合は、プリンタの DIP SW を Star Line Mode に設定してください。

5.2.3 ファイルパス

“Star Value Add 設定ツール” で設定された内容は x m l ファイルとして保存されます。

“Star Value Add 設定ツール” の初回起動時は、ファイルが作成されていないので、N e w と表示します。

設定を変更し、[適用]ボタンをクリックしますと、初回のみファイル作成の手順に入ります。ファイルを作成した後はファイル名とファイルの保管先が表示されます。

インフォメーション

プリンタドライバキュー名 : Star TSP700II

エミュレーション : Star Line Mode

ファイルパス : C:\Documents and Settings\Chisato\Desktop\TSP700II\setup_2.xml

適用

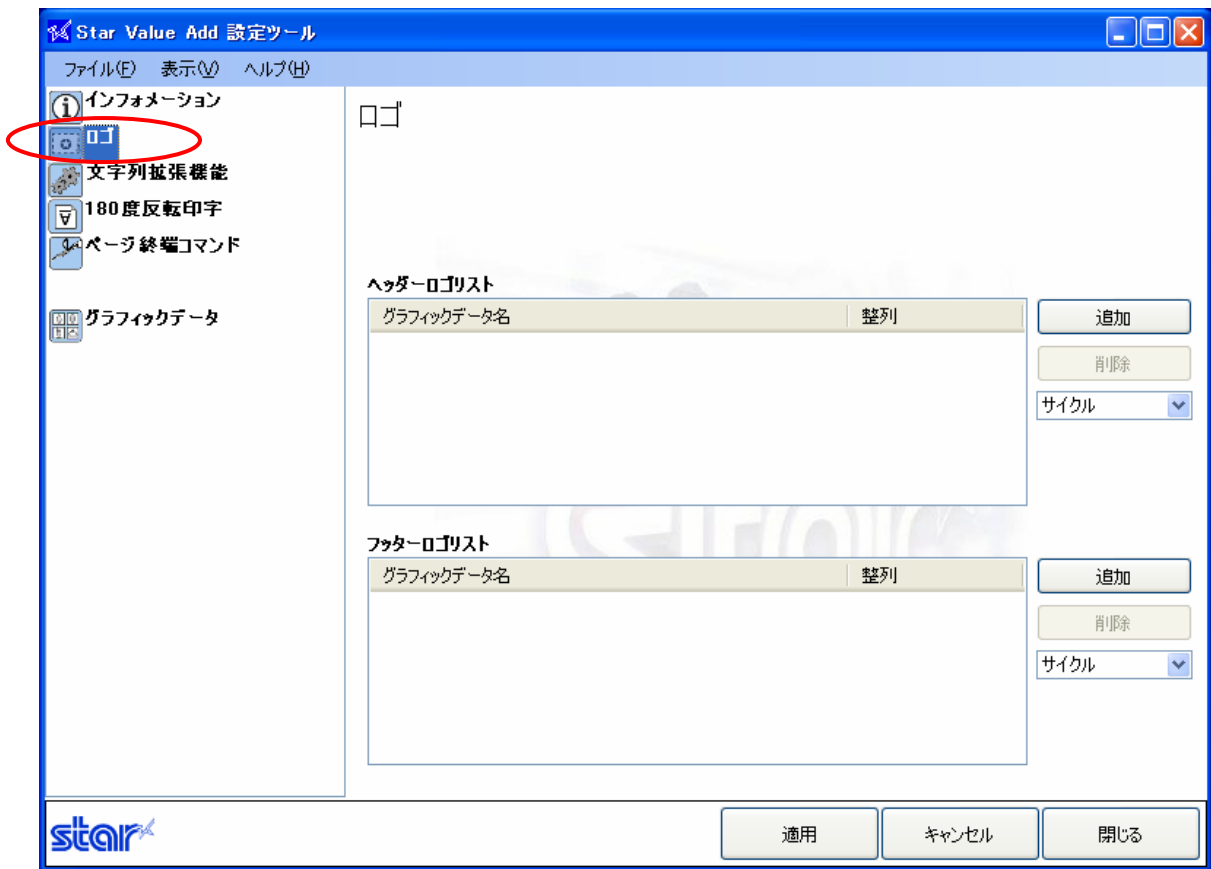
キャンセル

閉じる

注記 : 設定したファイルを移動しますと、“Star Value Add” の機能が使用できなくなります。

5.3 ロゴ

画面左側の「ロゴ」タブをクリックしてください。



「ロゴ」は、あらかじめ登録したグラフィックデータから選択したデータを各々のレシートのヘッダー（例：ロゴマークなど）およびフッター（例：クーポンなど）に印刷を行う機能です。

5.3.1 ヘッダーロゴリスト

レシートの先頭に選択したグラフィックデータを印刷します。

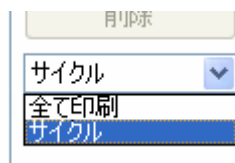
- ① ヘッダーロゴリストの隣にある[追加]ボタンをクリックします。
- ② あらかじめ登録されているグラフィックデータの一覧から印刷するグラフィックデータを選択後、グラフィックデータの印刷位置を整列で設定します。



- ③ [適用]ボタンをクリックします。
ヘッダーロゴリストに追加されます。



- ④ ヘッダーロゴリストへは複数のグラフィックデータを設定することができます。
複数設定した場合、印刷方法として「サイクル」または「全て印刷」を選択します。



「サイクル」は、設定されたグラフィックデータを順番に印刷していきます。

「全て印刷」は、設定されたグラフィックデータを一枚のレシートのヘッダーとして全て印刷します。

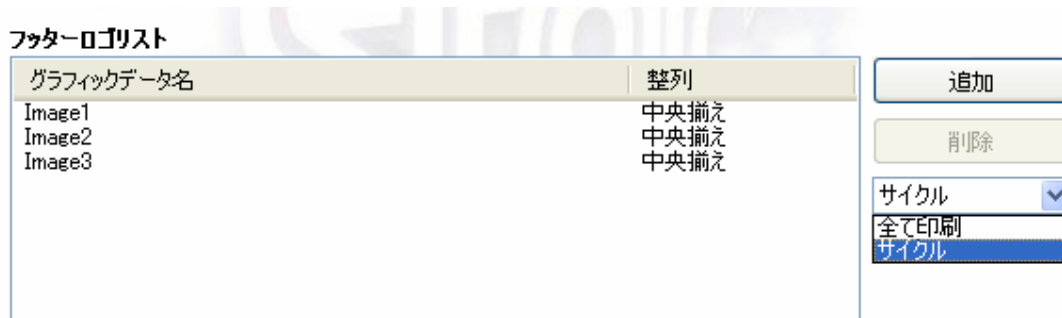
5.3.2 フッターロゴリスト

レシートの終端に選択したグラフィックデータを印刷します。

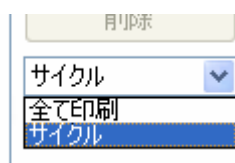
- ① フッターロゴリストの隣にある[追加]ボタンをクリックします。
- ② あらかじめ登録されているグラフィックデータの一覧から印刷するグラフィックデータを選択後、グラフィックデータの印刷位置を整列で設定します。



- ③ [適用]ボタンをクリックします。
フッターロゴリストに追加されます。



- ④ フッターロゴリストへは複数のグラフィックデータを設定することができます。
複数設定した場合、印刷方法として「サイクル」または「全て印刷」を選択します。



「サイクル」は、設定されたグラフィックデータを順番に印刷していきます。
「全て印刷」は、設定されたグラフィックデータを一枚のレシートのフッターとして全て印刷します。

5.3.3 リストからのデータ削除

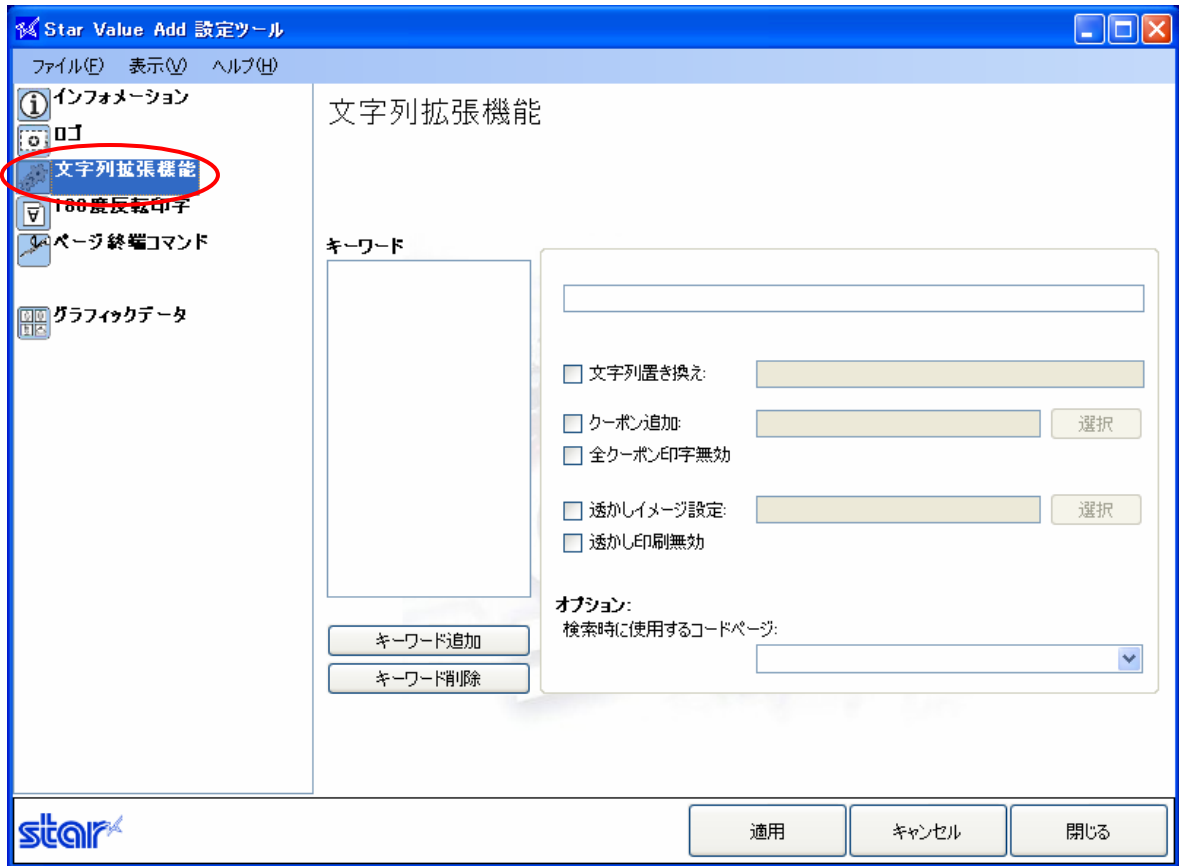
ヘッダーロゴリストまたはフッターロゴリストから不要になったグラフィックデータを削除する場合は以下の手順で行います。

- ① ヘッダーまたはフッターロゴリスト内のグラフィックデータを選択し、[削除]ボタンをクリックします。削除が実行される前に以下の確認画面が表示されますので、続行する場合は[はい]ボタンをクリックします。



5.4 文字列拡張機能

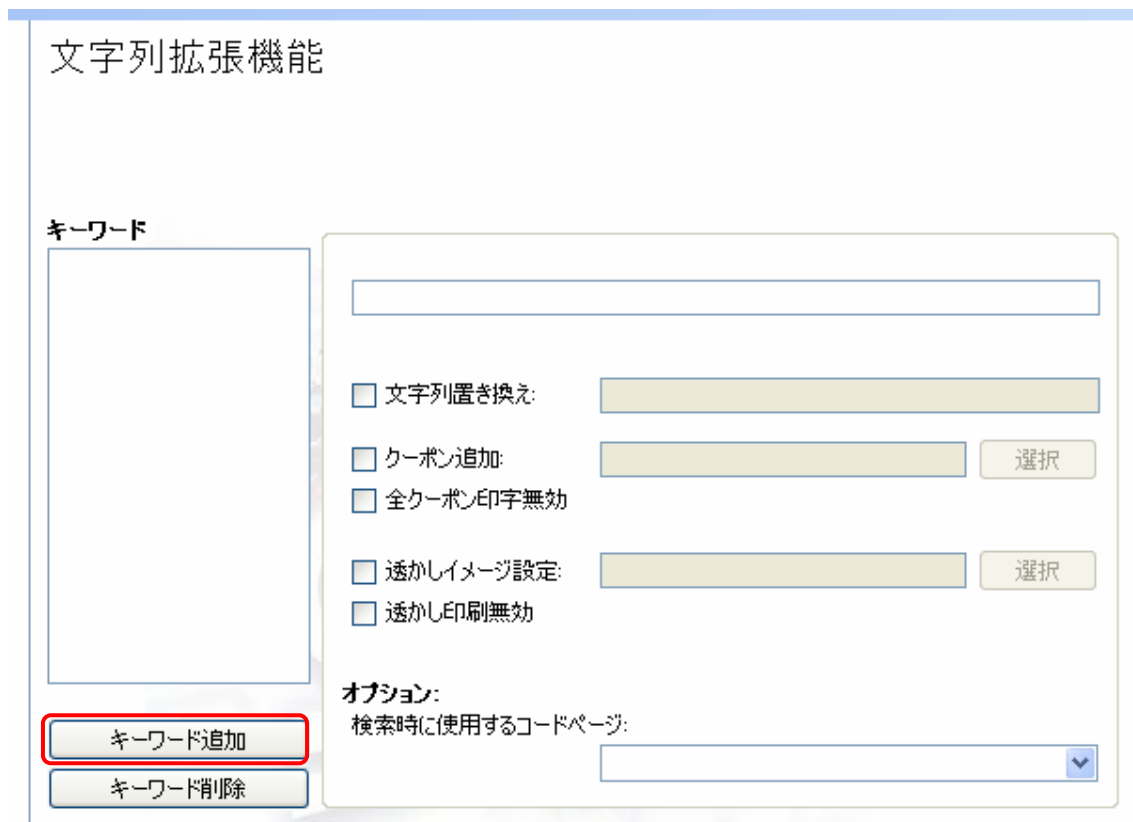
文字列拡張機能とは、特定のキーワード（文字列）にオプション機能を設定し、トリガーとして登録することで、プリンタがそのトリガーを見つけた時に、各レシートへ設定された内容の機能を実行させる機能のことです。



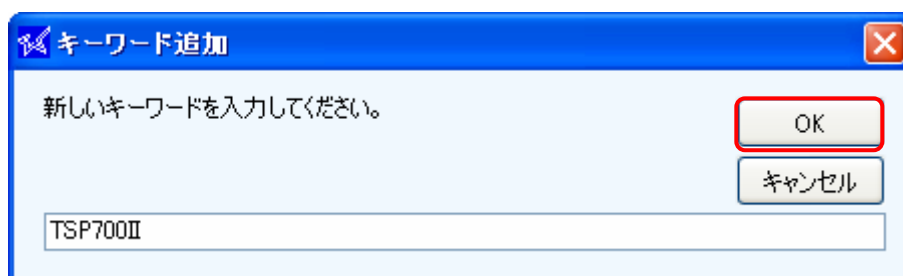
5.4.1 設定

まず、各レシートに設定された内容の機能を実行させるためのトリガーとなるキーワードを設定する必要があります。以下の手順でキーワードの設定を行います。

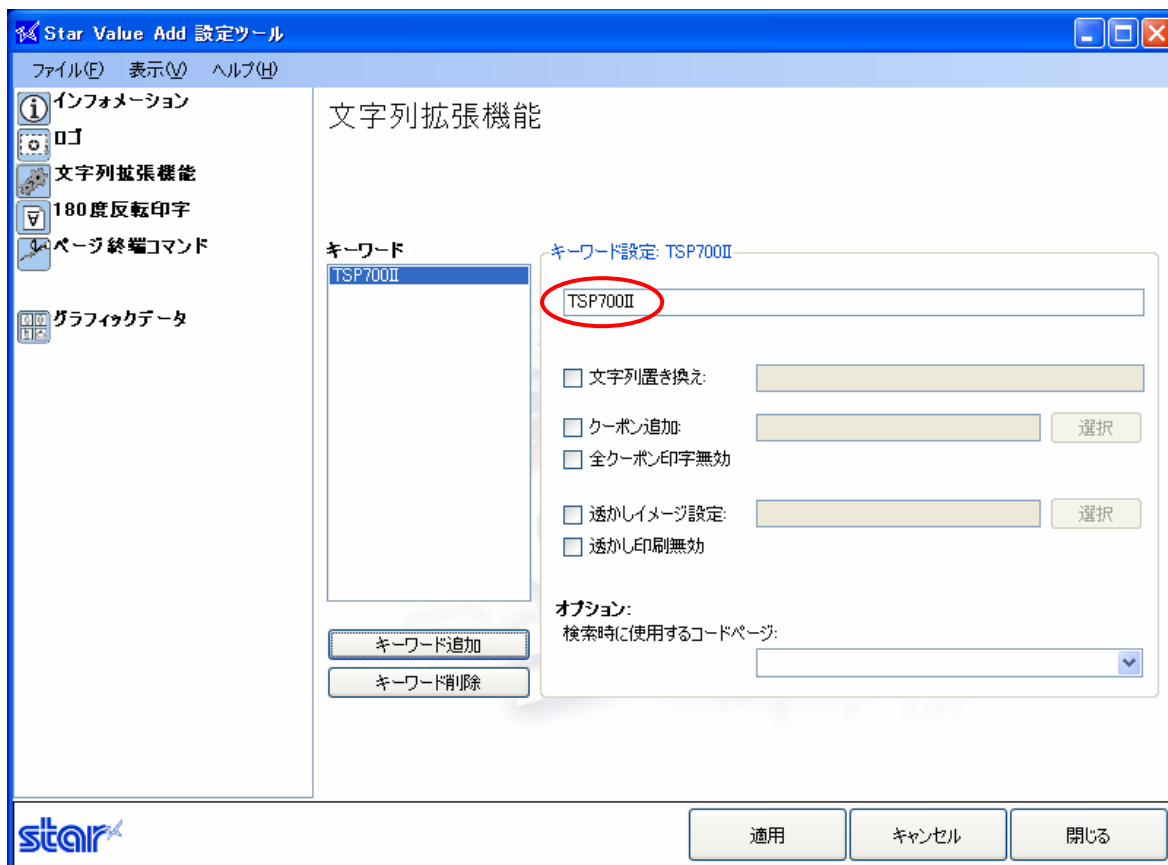
- ① [キーワード追加]ボタンをクリックします。



- ② キーワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



- ③ キーワードを選択し、設定項目のチェックボックスを選択しますと、各項目の設定が可能となります。



■ 文字列置き換え

文字列置き換えのチェックボックスを選択し、置き換える文字列を入力します。

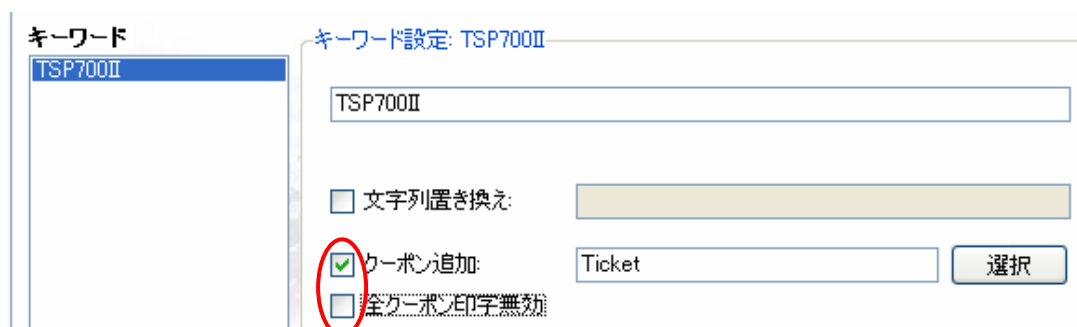
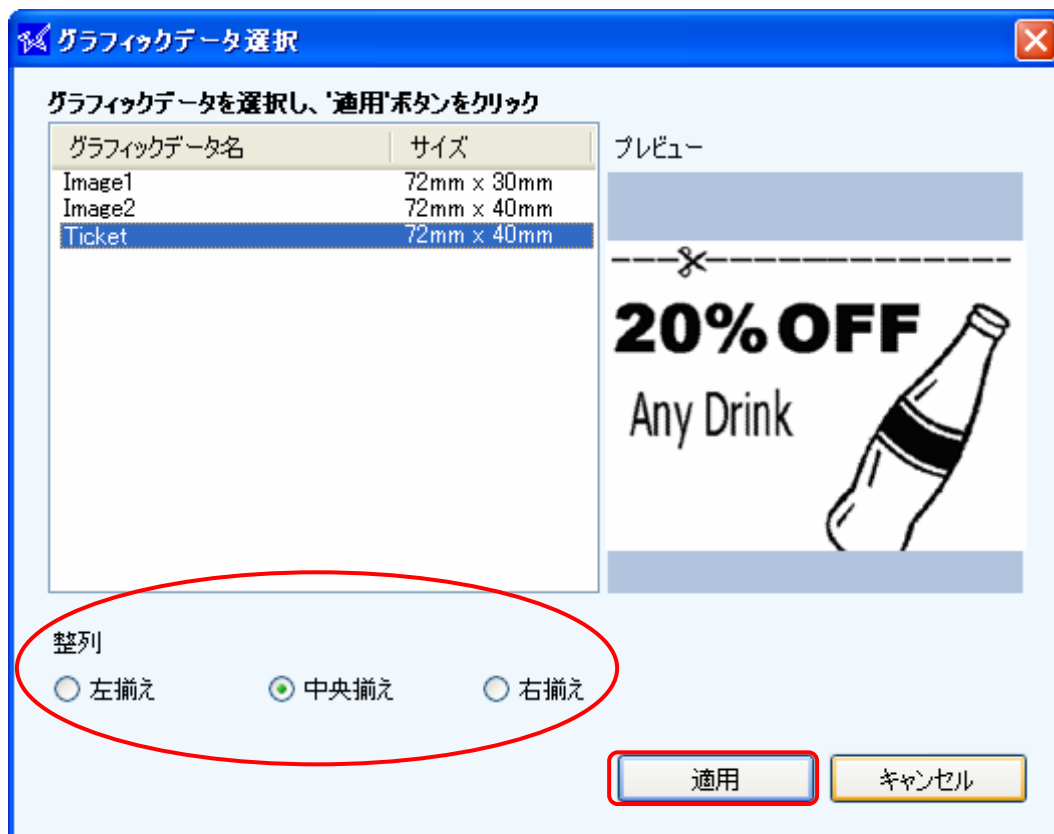


キーワードを文字列置き換えの欄に入力された文字列と置き換えて印刷します。
資産アプリケーション上にある古い電話番号またはアドレスで、プログラマ的に変更できない場合などに、この機能は便利です。

■ クーポン印字設定

クーポン追加のチェックボックスを選択します。

[選択]ボタンをクリックし、あらかじめ登録されているグラフィックデータの一覧からグラフィックデータを選択します。



トリガーとなるキーワードを見つけると、ここで選択されたグラフィックデータがレシートの一冊下に印刷されます。

クーポンの発行などに便利です。

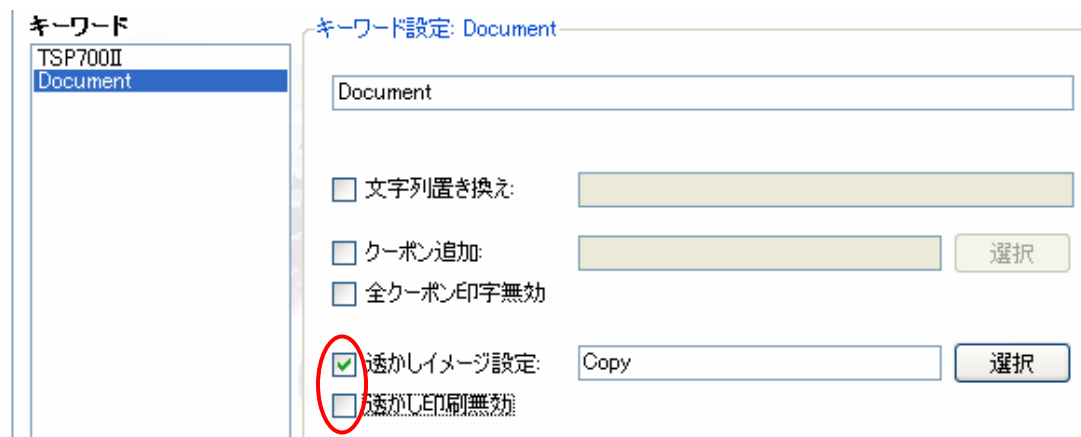
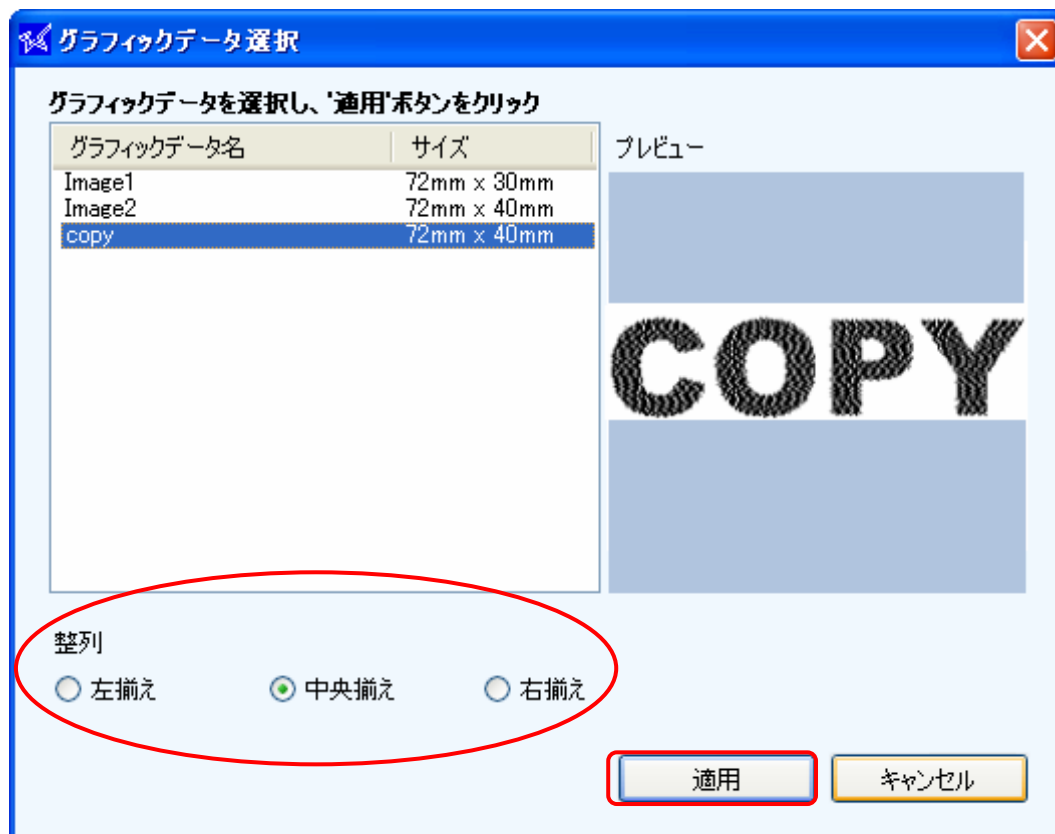
「クーポン追加」のチェックボックスで印刷の有無を切り替えます。

「全クーポン印字無効」とは、キーワードのあるページにはクーポンの印字を行わないという機能です。

■ 透かしイメージ設定変更

透かしイメージのチェックボックスを選択します。

[選択]ボタンをクリックし、あらかじめ登録されているグラフィックデータの一覧からグラフィックデータを選択します。



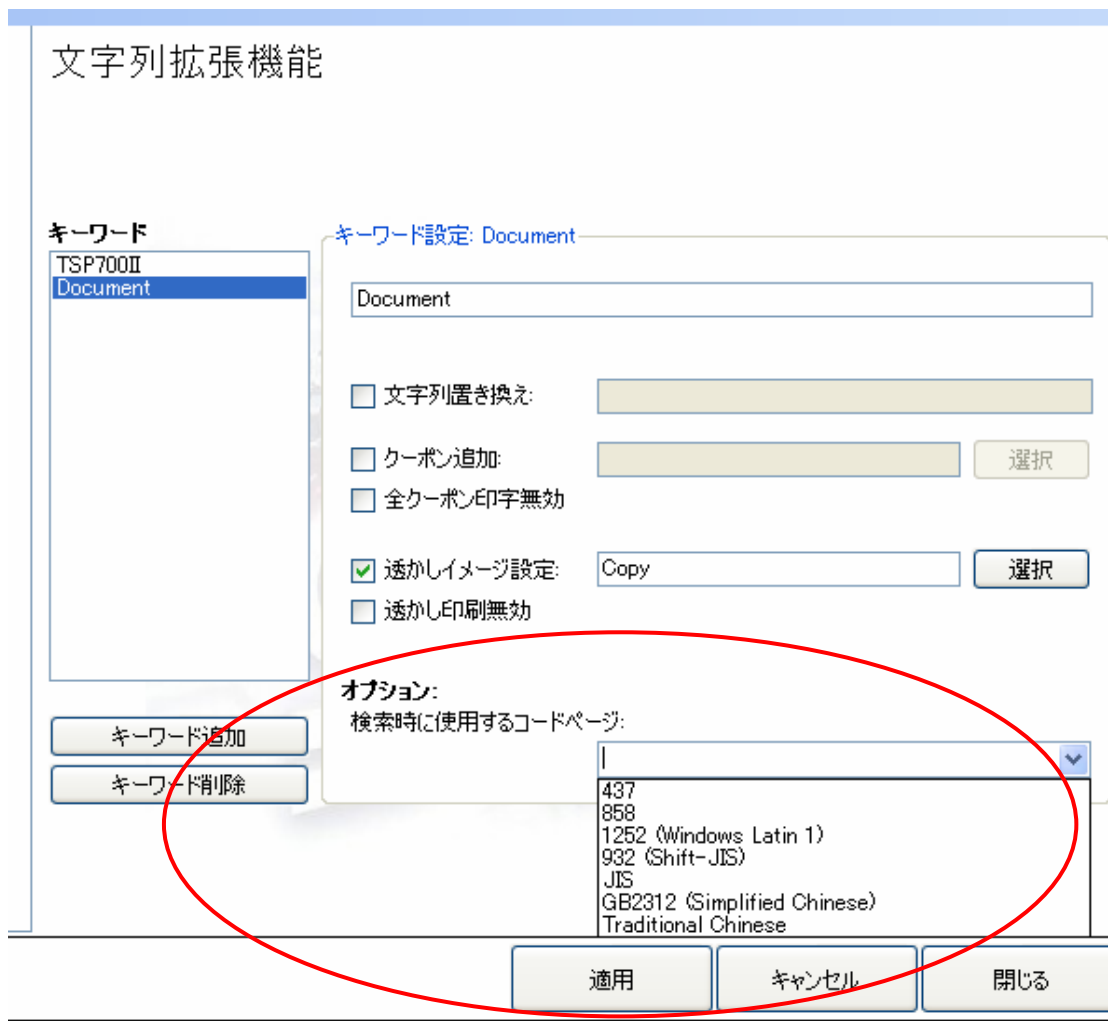
トリガーとなるキーワードを見つけると、ここで選択されたグラフィックデータが背景として印刷されます。

「透かしイメージ設定」のチェックボックスで印刷の有無を切り替えます。

「透かし印刷無効」とは、キーワードのあるページには、透かし印刷を行わないという機能です。

■ オプション

文字列を検索する時に使用するコードページを設定できます。

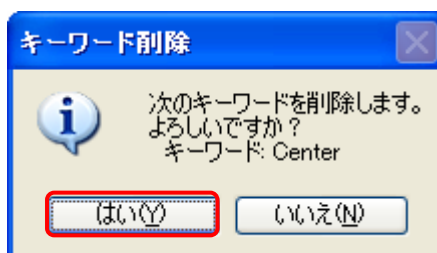


プルダウンメニューから選択してください。

5.4.2 キーワードの削除

不要なキーワードを選択して、[キーワード削除]ボタンをクリックします。

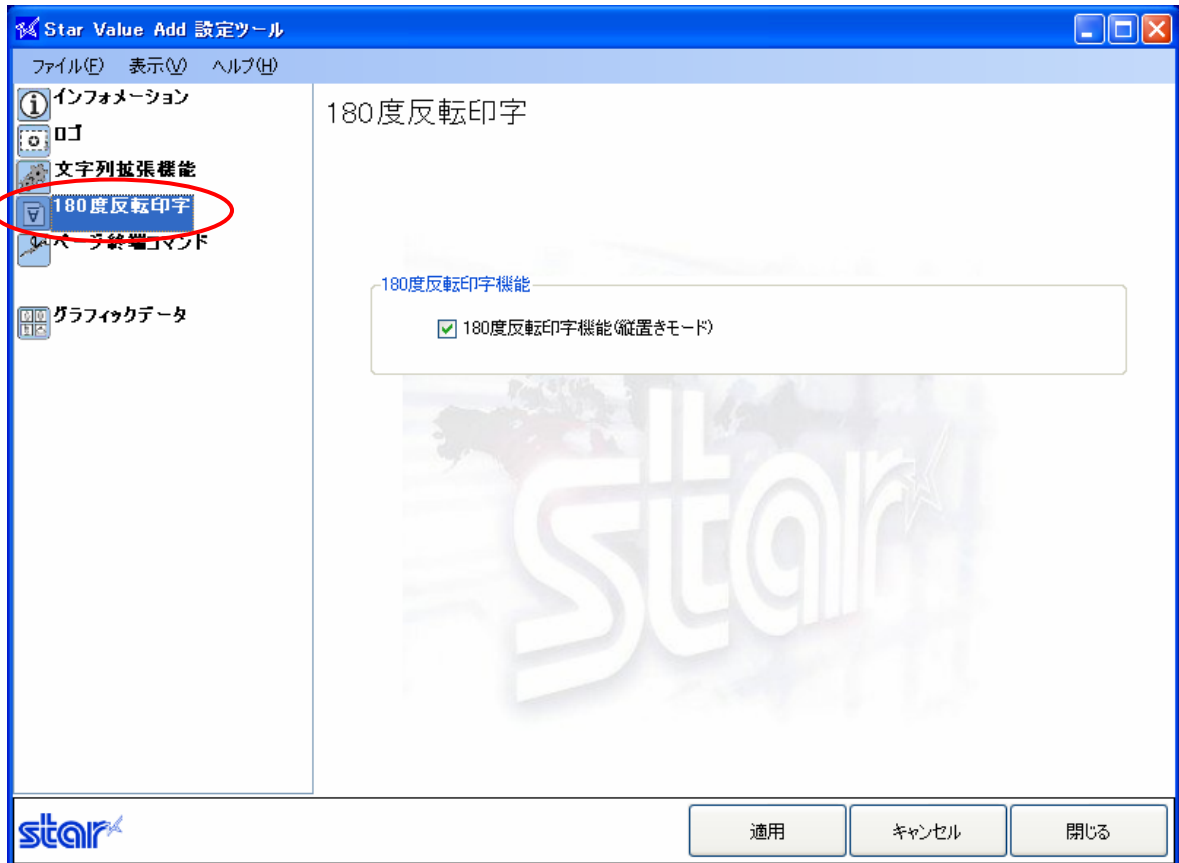
削除が実行される前に以下の確認画面が表示されますので、続行する場合は[はい]ボタンをクリックしてください。



5.5 180度反転印字

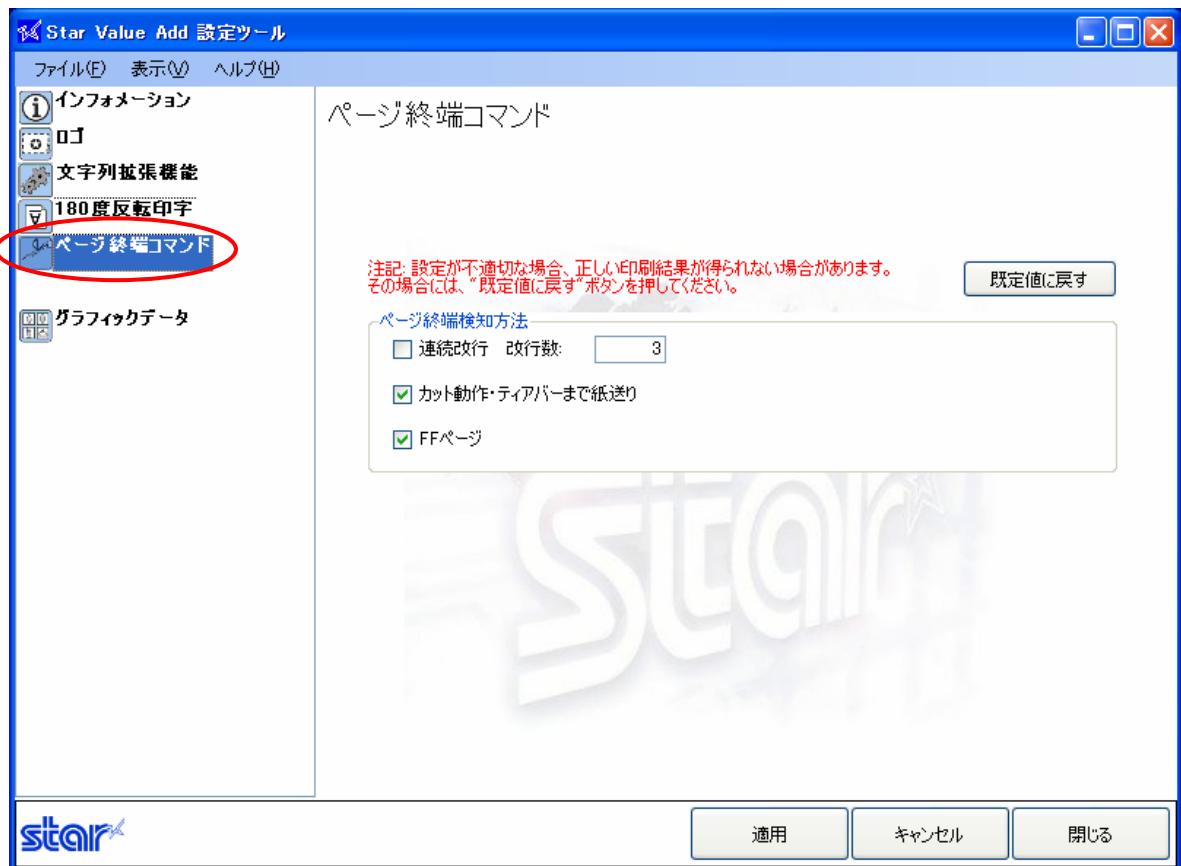
プリンタを縦置き又は壁掛けの状態を使用する時に「180度反転印字機能（縦置きモード）」のチェックボックスを選択します。

この機能を利用することによって、縦置きおよび壁掛けの状態で使用した場合でもお客さまからは正しい向きで印刷内容を確認することができます。



5.6 ページ終端コマンド

ページの終わりを検知する方法を設定します。



5.6.1 連続改行

注記：設定が不適切な場合、正しい印刷結果が得られない場合があります。
その場合には、「既定値に戻す」ボタンを押してください。

既定値に戻す

ページ終端検知方法

- 連続改行 改行数
- カット動作・ティアバーまで紙送り
- FFページ

この設定を選択した場合、連続した一定数の改行コマンドによってページの終わりを検知します。連続する改行数は変更可能です。改行数のテキストボックス内に入力された数字が適用されます。

5.6.2 カット動作・ティアバーまで紙送り

この設定を選択した場合、プリンタはカットコマンドによってページの終端を検知します。

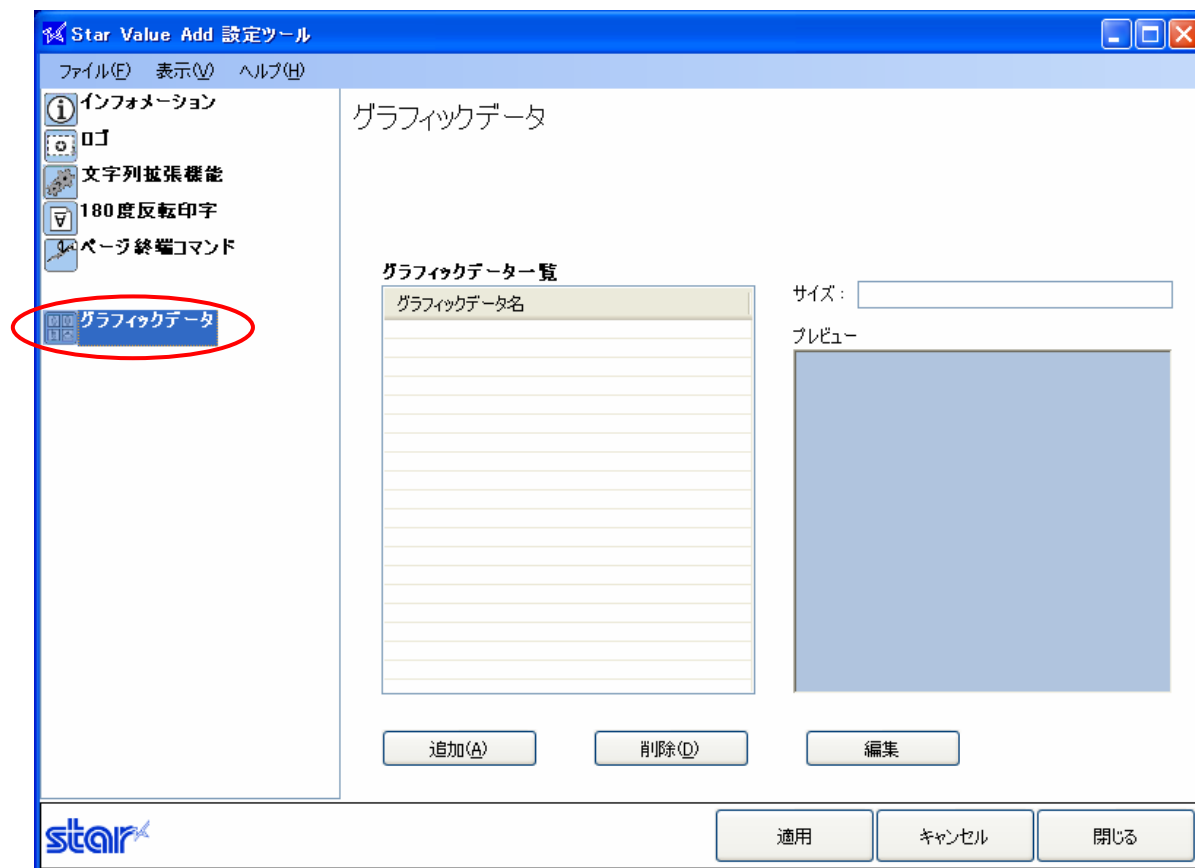
5.6.3 FFページ

この設定を選択した場合、FFページコマンドによってページの終端を検知します。

注記：ページ終コマンドで「FFページ」の設定はスターラインモード時のみ
設定可能です。ESC/POSモード時には設定できません。

5.7 グラフィックデータ

画面左側の「グラフィックデータ」タブをクリックしてください。



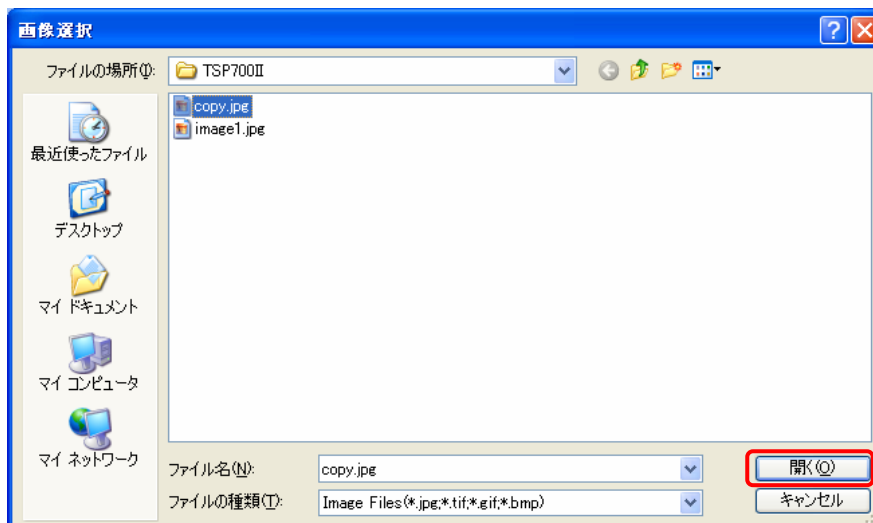
グラフィックデータ一覧には、繰り返し使用する、例えばロゴマークなどのグラフィックデータを登録しておくことができます。

登録可能なグラフィックデータのフォーマットは BMP, JPG, GIF, PNG, EMF です。

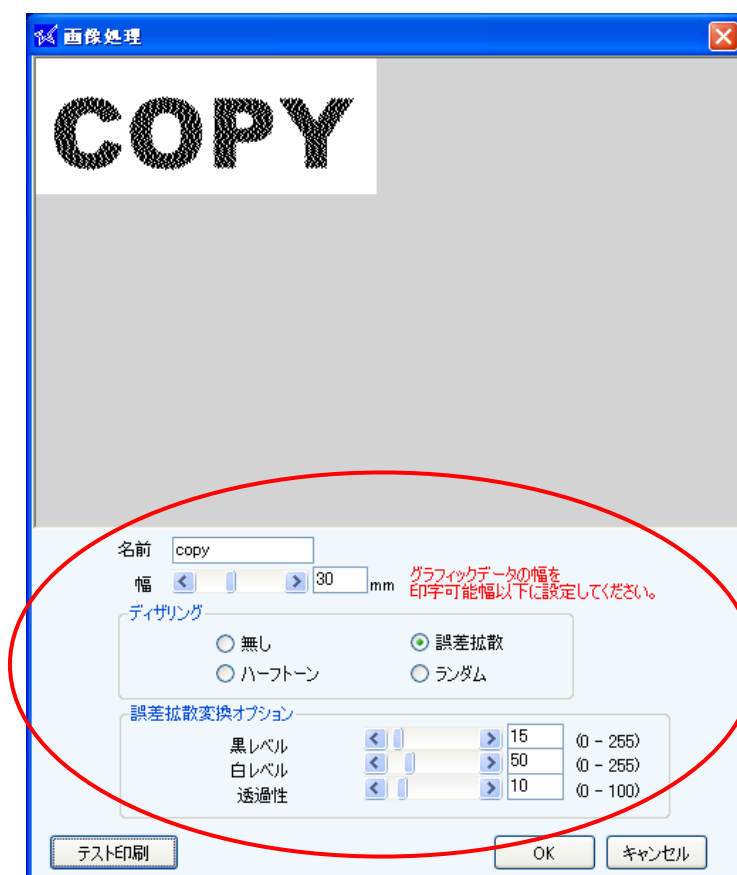
5.7.1 グラフィックデータの追加

グラフィックデータの追加は以下の手順で行います。

- ① [追加]ボタンをクリックします。
- ② 登録するグラフィックデータを選択し、[開く]ボタンをクリックしてください。



以下の「画像処理」画面が表示されます。



③ データの設定をします。

- 「名前」の欄に登録する名前を入力します。
- グラフィック幅のスライダーを使って、グラフィックデータの幅を調整します。
- 適切なディザリング方法を選択します。
- 「誤差拡散・調整」を適切に調整します。。

ディザリングを無しに設定した場合は、「ディザ無しオプション」にて明るさを適切に調整します。



選択するディザリングの方法によって、「誤差拡散・調整」内の項目は異なります。いくつかの設定を組み合わせ、どの設定が適切であるかを特定することで、より良い印字結果が得られます。

注記：プリンタの実印字特性と PC ディスプレイ上の表現能力の違いによって、登録されたグラフィックデータの印字結果とプレビュー表示では、印字濃度など細かな部分の再現性において印象が異なる場合があります。テスト印字によって印字結果を確認することをおすすめします。

④ グラフィックデータを調整後、[OK]ボタンをクリックします。

グラフィックデータ一覧にグラフィックデータが追加され、「ロゴ」「文字列拡張機能」および“Star 設定ユーティリティ”の「NVロゴ」での使用が可能になります。

使用方法の詳細は「4.1.2 NVロゴ」「5.3 ロゴ」「5.4 文字列拡張機能」を参照してください。

5.7.2 グラフィックデータの編集

① 編集するグラフィックデータを選択して、[編集]ボタンをクリックします。

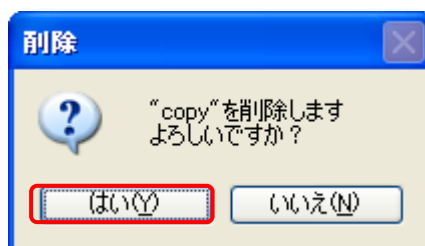
② 「画像処理」の画面が表示されます。

設定を調節後、[OK]ボタンをクリックします。

5.7.3 グラフィックデータの削除

削除するグラフィックデータを選択して、[削除]ボタンをクリックします。

削除が実行される前に以下の確認画面が表示されますので、続行する場合は[はい]ボタンをクリックしてください。



6. ドキュメントを印刷する時のガイドライン

- 本ドライバでは用紙の余白を設定する必要はありません。
マージンについては、すべて値を“0”に設定してご利用ください。
- 本ドライバは、最初から定義されている4種類のカスタムの用紙サイズと、ユーザー定義の用紙サイズをサポートしています。
必要に応じてユーザー定義サイズをご利用ください。（詳細は、3.2.2「ユーザー定義による用紙サイズ」をご参照ください。）
- 本ドライバのサポートしているデバイスフォントのご使用を推奨します。
デバイスフォントの使用された場合、より高速な印字が可能です。

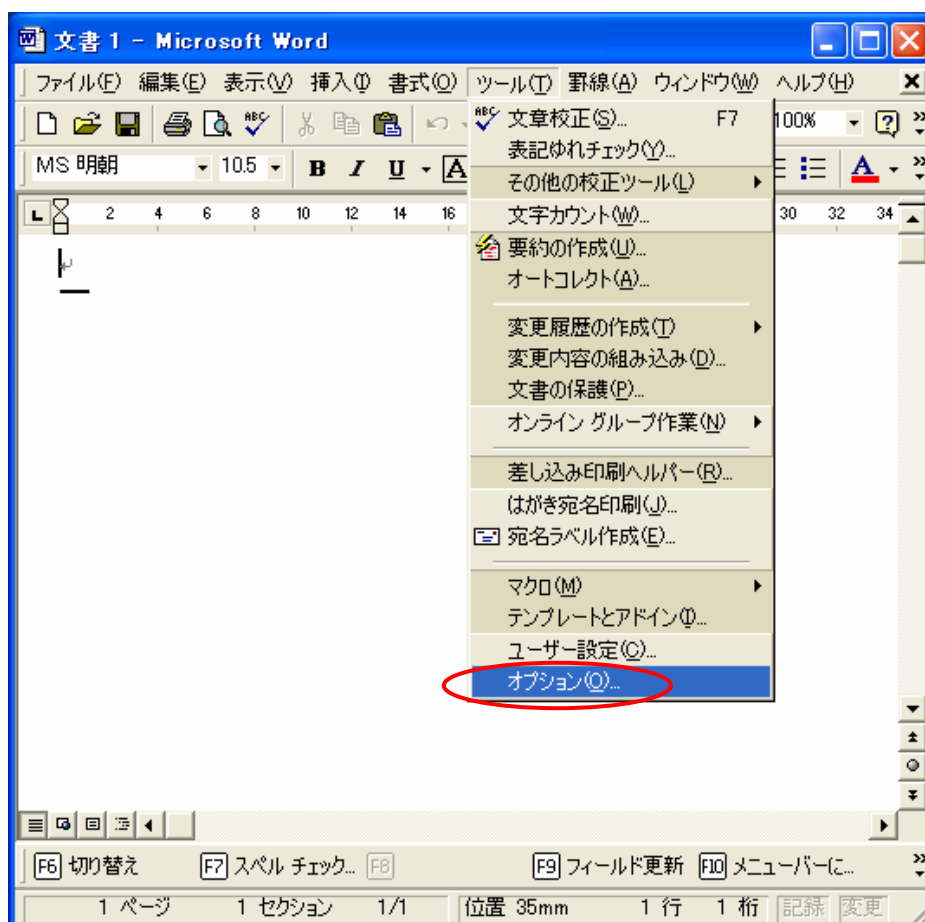
6.1 Microsoft Word を使用される際のご注意

Word97以降の文書フォーマットをそのままお使いになる場合、デバイスフォントを正しく使用できません。

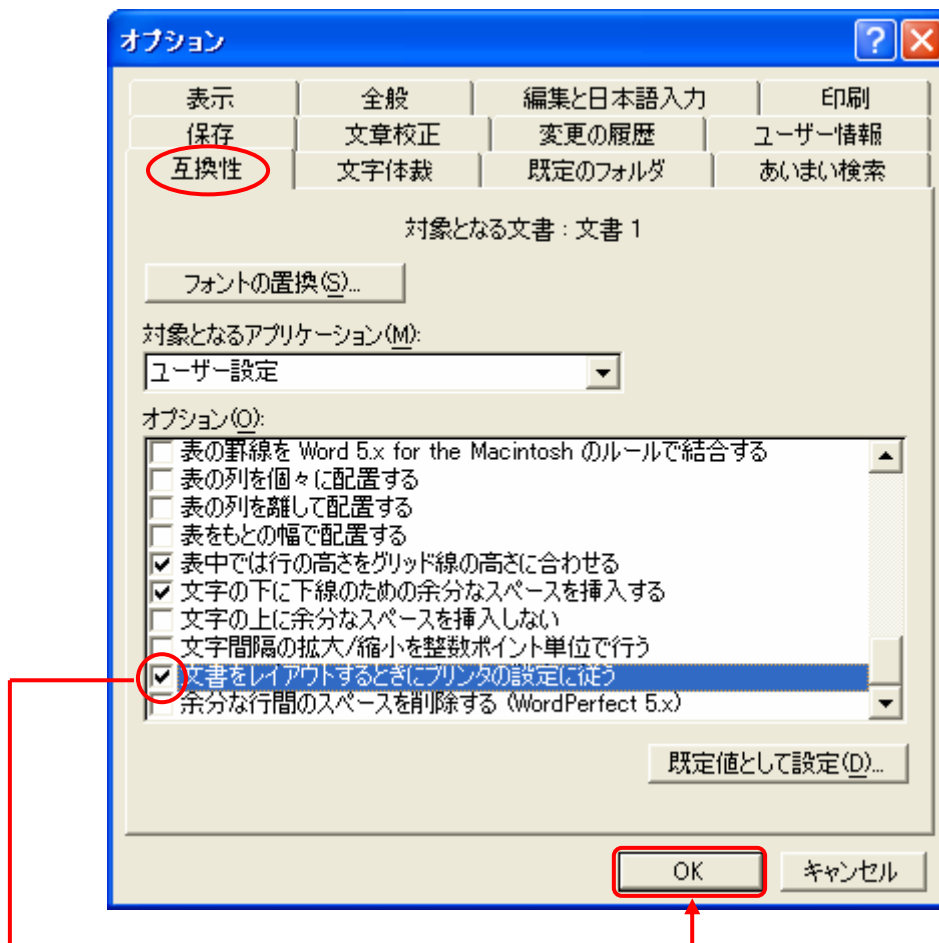
デバイスフォントを正しく使用されるために、次の設定を行ってください。

手順は下記の通りです。

- ① Wordの「ツール」メニューから「オプション」を選択します。



- ② 「互換性」タブをクリックし、「オプション」の「文書をレイアウトするときにプリンタの設定に従う」のチェックボックスを選択後、[OK]をクリックしてください。



- ③ 「ファイル」メニューの「上書き保存」を選択して文書を保存してください。

6.2 制限事項と注意していただきたいこと

- 同一の行では、ひとつのデバイスフォントだけを指定してください。
複数のデバイスフォントを混在させますと、印字結果にずれが生じることがあります。
- 同一の行で、デバイスフォントとグラフィックデータ（Windows フォント、罫線など）を指定しないでください。印字結果にずれが生じることがあります。
- デバイスフォントの Control フォントは、文字の印刷には使用できません。
文字を印刷する場合は“Control”以外のフォントを使用してください。

7. 改訂履歴

Rev. No.	改訂年月	内 容
Rev. 1.0	Mar. 2007	新規発行

電子機器事業本部

〒424-0066 静岡県静岡市清水区七ツ新屋 5 3 6

電話 0543-47-0112 (営業直通)

<http://www.star-m.jp/dl/dl02.htm>